県道財田満濃線道路拡幅事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

大堀城跡

2005. 3

香川県教育委員会

県道財田満濃線道路拡幅事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

大堀城跡

2005. 3

香川県教育委員会

序　　文

「大堀城跡」は県内で有数の平地式城館とされており、堀と土塁の一部が今でも見ることができます。調査の結果、従来から知られた堀と土塁については築造時期を示す資料は得られませんでしたが、13世紀から14世紀の建物跡や石垣を伴う区画溝などを新たに確認し、この場所に中世前半期に居館が存在したことが新たに判明しました。この内容は、県内の中世城館の特に平地式城館とされている他の遺跡を考える上でも重要な成果です。

本報告書が香川県の中世城館に関する歴史研究の資料として広く活用されるとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から整理・報告にいたるまでの間、香川県道路保全課・善通寺土木事務所維持課および関係機関、ならびに地元関係各位には多大なご理解とご協力をいただきました。ここに深く感謝の意を表しますとともに、今後ともよろしくご支援賜りますようお願い申し上げます。

平成17年3月

香川県埋蔵文化財センター
所長　中村　仁

例　　言

1．本書は県道財田満濃線道路拡幅事業に伴って平成16年度に実施した大堀城跡（おおぼりじょうあと）の発掘調査事業の報告書である。

2．本遺跡は，香川県仲多度郡満濃町吉野1189-5外に所在する。

3．発掘調査は，県土木部道路保全課から依頼された香川県教育委員会が調査主体となり，香川県埋蔵文化財センターが調査担当者として実施したものである。

4．発掘調査体制は以下のとおりである。

香川県教育委員会事務局文化行政課

課長　北原和利

総務・芸術文化グループ　課長補佐　森岡　修　　主任　香川浩章　　主任主事　八木秀憲

文化財グループ　課長補佐　大山真充　　主任　山下平重　　文化財専門員　松本和彦

香川県埋蔵文化財センター

所長　中村　仁

次長　渡部明夫

総務課

課長　野保昌宏　　係長　松崎日出穂　　主査　塩崎かおり　　主任主事　田中千晶

庁務員　松尾倬三　　臨時職員　明石聖子　吉原真美

調査課

課長　藤好史郎　　参事　河野浩征　　文化財専門員　古野徳久　森下英治

調査技術員　中里伸明　　臨時職員　宮西（旧姓　細川）真由美

5．本書挿図中の座標は日本測地系第4系国土座標値に基づき，レベル高はすべてT.P.に統一した。挿図の一部に国土交通省国土地理院発行の1/25,000「善通寺・福良見・滝宮・内田」を、また写真図版の一部に国土交通省提供の国土画像情報（カラー空中写真）を使用した。

6．遺構番号はＳＰ柱穴、ＳＢ掘立柱建物、ＳＡ区画遺構、ＳＫ土坑、ＳＤ溝状遺構、ＳＸ不明遺構、の略号を付し、発掘調査において使用したものを踏襲した。したがって、番号設定後に遺構の性格を変更した場合でも、その後の番号変更を行っていない。このため、柱穴であってもＳＫに分類されているなど、一部で略号と報告遺構の種別が合致しないものがある。

7．発掘調査、整理作業にあたっては，地元八幡地区自治会・場正地区自治会・満濃町教育委員会・琴南町教育委員会・仲南町教育委員会・香川県歴史博物館・香川大学教育学部　田中健二氏・徳島文理大学　大久保徹也氏・丸亀市教育委員会文化課 東信男氏・綾歌町教育委員会 近藤武司氏・松田英治氏、その他関係各位より多大なご協力，ご援助を得た。

8．本書の執筆・編集は森下が行った。

本文目次

1．調査に至る経緯と経過 ……1
2．遺跡の立地と環境
(1)地理的環境 ……1
(2)歴史的環境 ……2
3．調査成果
(1)概要 ……4
(2)土層序 ……8
(3)掘立柱建物及び柵列（ＳＢ） ……9
SB001
SB002
SB010・SA003
SB007・SA005・SA006・SD004
SB008・SA004
SB009・SB011（SX004）・SA002
(4)石垣を伴う区画溝（ＳＡ） ……17
SA001・SD003
(5)土坑（ＳＫ・ＳＸ） ……17
SX001・SK008・SK010・SX005・SK002・SK401・SK402
(6)その他の溝（SD）・土器溜り ……21
SD001・SD002・SD005および土器溜り・SD007・SD008・SD009・SD011
(7)柱穴・包含層出土土器 ……25
(8)石器・石製品 ……27
(9)金属器関係遺物 ……28
4．まとめ ……31
(1)遺構分布について
(2)出土土器の時間的変化
(3)検出遺構の変遷
(4)特記すべき出土遺物
(5)香川県下の古代～中世の居館跡（囲郭集落）について
(6)大堀城跡の「居館」と「城館」

付図１　大堀城跡遺構配置図１（Ｓ＝1/100）
付図２　大堀城跡遺構配置図２（Ｓ＝1/100）

挿図目次

第１図　大堀城跡周辺の遺跡分布図（S=1/30,000）
第２図　大堀城跡発掘調査全体図（S=1/800）
第３図　大堀城跡平成16年度調査区主要遺構分布図（S=1/200）
第４図　土層断面図（S=1/60）
第５図　掘立柱建物 SB001・SB002平断面図（S=1/80）及び出土土器実測図（S=1/4）
第６図　掘立柱建物 SB010・柵列SA003平断面図（S=1/80）及び出土土器実測図（S=1/4）
第７図　掘立柱建物 SB007・柵列SA005・SA006・溝SD004平断面図（S=1/80）
第８図　掘立柱建物 SB007・柵列SA005・SA006・溝SD004出土土器実測図（S=1/4）
第９図　掘立柱建物 SB008・柵列SA004平断面図（S=1/80）及び出土土器実測図（S=1/4）
第10図　掘立柱建物 SB009・SB011（SX004）・柵列SA002平断面図（S=1/80）（S=1/20）及び出土遺物実測図１（S=1/4）（S=1/2）
第11図　掘立柱建物 SB009・SB011（SX004）・柵列SA002出土遺物実測図２（S=1/4）
第12図　区画溝SA001・排水溝SD003平断面図（S=1/40）及び出土土器実測図１（S=1/4）
第13図　区画溝SA001・排水溝SD003出土土器実測図２（S=1/4）
第14図　区画溝SA001・排水溝SD003出土土器実測図３（S=1/4）
第15図　方形土坑SX001平断面図（S=1/40）及び出土土器実測図（S=1/4）
第16図　土坑SK008平断面図（S=1/40）及びSK008・SK010出土土器実測図（S=1/4）
第17図　土器埋納坑SX005平断面図（S=1/40）及び出土土器実測図（S=1/4）
第18図　土坑SK401平断面図（S=1/40）及び出土土器実測図（S=1/4）
第19図　土坑SK402平断面図（S=1/40）及び出土土器実測図（S=1/4）
第20図　溝SD001・SD002・SD007・SD008断面図（S=1/40）及び溝SD009・SD011出土土器実測図（S=1/4）
第21図　溝SD005平面図（S=1/20）・断面図（S=1/20･1/40）及び出土土器実測図１（S=1/4）
第22図　溝SD005出土土器実測図２（S=1/4）
第23図　柱穴・包含層出土土器実測図（S=1/4）
第24図　石器・石製品実測図（S=1/4・1/2・1/1）
第25図　銅製品実測図（S=1/2・1/1）
第26図　鉄製品実測図（S=1/2）
第27図　鞴羽口実測図（S=1/4）
第28図　金属器関連遺物分布図（S=1/200）
第29図　大堀城跡平成16年度調査区遺構変遷図
第30図　大堀城跡平成16年度調査区 土師質土器変遷図(S=1/4)
第31図 大堀城跡周辺の微地形と条里型地割（S=1/800）

表目次

第１表　大堀城跡周辺遺跡一覧表
第２表　鉄滓・銅滓・不明滓一覧表
第３表　大堀城跡平成16年度調査区 出土遺物観察表(1)
第４表　大堀城跡平成16年度調査区 出土遺物観察表(2)
第５表　大堀城跡平成16年度調査区 出土遺物観察表(3)
第６表　大堀城跡平成16年度調査区 出土遺物観察表(4)
第７表　大堀城跡平成16年度調査区 出土遺物観察表(5)
第８表　大堀城跡平成16年度調査区 出土遺物観察表(6)
第９表　大堀城跡平成16年度調査区 出土遺物観察表(7)
第10表　大堀城跡平成16年度調査区 出土遺物観察表(8)
第11表　大堀城跡検出遺構一覧表

図版目次

写真１　大堀城跡周辺の空中写真
写真２　Ⅰ区区画溝SA001以南の遺構を北から撮影
写真３　Ⅰ区遺構分布状況を北から撮影
写真４　Ⅱ区SD005以南の遺構を北から撮影
写真５　Ⅱ区SD005以南の建物復原状況を北から撮影
写真６　Ⅰ区区画溝SA001及び方形土坑SX001の検出状況を南から撮影
写真７　Ⅰ区区画溝SA001の石垣を北から撮影
写真８　Ⅱ区掘立柱建物SB011柱抜取穴SX004の地鎮祭祀遺構を南から撮影
写真９　Ⅱ区掘立柱建物SB011柱抜取穴SX004の地鎮祭祀遺構を南から拡大撮影
写真10　Ⅰ区区画溝SA001下層の青磁小椀出土状況を北から撮影
写真11　Ⅰ区方形土坑SX001を北から撮影
写真12　Ⅱ区掘立柱建物SB007柱穴（SP081）断面を東から撮影
写真13　Ⅱ区SP158柱抜取後の土器投棄状況の断面を南から撮影
写真14　Ⅱ区SD005土器溜りA群・B群を北から撮影
写真15　Ⅳ区遺構完掘状況を北から撮影
写真16　Ⅲ区西壁断面と堀跡とされる地形の窪みを東から撮影
写真17　Ⅲ区西壁断面と現状の畦に使用される石垣を東から撮影
写真18　Ⅲ区完掘状況を北から撮影
写真19　調査区より南の現存土塁を東より撮影
写真20　調査区より南の堀跡内の出水を西から撮影
写真21　Ⅱ区調査区内出土の土師質小皿
写真22　Ⅱ区掘立柱建物SB011柱抜取穴SX004 地鎮祭祀遺構出土品
写真23　Ⅱ区土器廃棄土坑SX005出土の土師質土器坏
写真24　Ⅰ区区画溝SA001出土の土師質土器
写真25　Ⅰ区・Ⅱ区出土の中国産龍泉窯系青磁椀
写真26　Ⅰ区・Ⅱ区出土の亀山系須恵器甕・東播系須恵器捏鉢・常滑系陶器大甕
写真27　Ⅰ区・Ⅱ区出土の十瓶山系須恵器椀・鉢・小皿・羽釜
写真28　Ⅱ区SD005土器溜りA群出土の土師質土器
写真29　調査区内出土の石器・石製品
写真30　Ⅱ区柱穴（SP177）出土の金銅装飾金具表面
写真31　Ⅱ区柱穴（SP177）出土の金銅装飾金具裏面
写真32　調査区内出土鉄器・銅銭のX線写真
写真33　Ⅱ区南側出土の焼土

1．調査に至る経緯と経過

今回報告する大堀城跡は仲多度郡満濃町吉野1189-5外に所在する。南北約170ｍ、東西約110ｍの範囲に堀や土塁を備え、かねてより中世城館として知られていた。大堀城跡は昭和40年代の香川県遺跡詳細分布調査の成果で中世城館である旨登録され、遺跡地図に記載されている。平成５・６年度に満濃町教育委員会により試掘調査、測量調査が行われている。また、平成９～13年度の香川県中世城館詳細分布調査事業においても分布調査が行われている。遺跡地内を南北に走る県道財田満濃線は綾歌郡域から高知方面へ接続する国道32号線へ向かう主要路線である。

このたび、この路線の拡幅事業について、県土木部道路保全課と文化行政課との間で事前協議が行われ、事業予定地内に遺跡が所在することから、平成15年に文化行政課により、試掘調査が行われた。試掘調査は土塁より内側の４筆の田地に南北に細長いトレンチをそれぞれ１本ずつ設定し、地下遺構を確認している（第２図）。その結果、地内南側の１・２トレンチでは耕土直下に基盤礫層が露出し、すでに遺構が削平された状態が確認された。一方、３・４トレンチでは、いずれからも中世の土器類が多数出土し、黄褐色系シルト層上に柱穴が確認された。これにより、今回の調査範囲（調査面積450㎡）について全面発掘調査が必要と判断された。

発掘調査は、香川県埋蔵文化財センターに今年度から設けられた小規模遺跡発掘調査班が担当した。小規模遺跡発掘調査班は県土木関係の小規模遺跡を効率的に調査するためのもので、文化財専門員古野徳久、同森下英治、調査技術員中里伸明、整理作業員宮西（旧姓細川）真由美が発掘調査、整理作業にあたった。現地調査は平成16年10月１日から11月30日まで行い、11月７日には地元自治会等の要望を受け地元説明会を開催した。説明会には約130人の参加を得た。その後の整理作業を埋蔵文化財センターにて同年12月に行った。

2．遺跡の立地と環境

(1)地理的環境

大堀城跡は標高約100ｍの緩やかな傾斜の扇状地上に立地する遺跡である。阿讃山地に端を発する一級河川の土器川は、琴南町の山間部を抜け、満濃町長尾付近を扇頂とする扇状地域に入る。北岸は中世山城の西長尾城（城山）から東に延びる丘陵が琴平町との町境まで続くが、南岸は満濃池周辺の山塊が当遺跡の南東約１㎞付近で傾斜変換して扇状地面となる。一方、当遺跡の西300ｍには満濃池から流下する金倉川が蛇行しつつ北流する。この両河川が平野部で最も近接するのが当遺跡付近である。

交通路をみると、土器川沿いに徳島県美馬町側から入る場合、遺跡周辺で急に視界が開ける。一方、徳島県池田町から丸亀平野に侵入する主要なルートは、猪ノ鼻峠を越えて、琴平方面に至るが、琴平を避けて綾歌方面へ抜ける場合は満濃池の堤防下を経由して当遺跡付近で土器川ルートと合流することになる。このように、自然地形および交通網的にみた当遺跡の立地条件は水利・交通の主要点と位置付けることができる。

地質的には地下深くまで扇状地堆積による礫層が堆積し、耕土直下にいわゆる「瓦礫（がらく）」と呼ばれる砂礫層が表出する箇所も多い。ただ、遺跡周辺は後背湿地と呼ばれる旧河川の埋没凹地も多く、そのような窪地が古代から中世にかけて安定した用水を確保できる田地であったことを考えると、古代

より河川灌漑には適した条件を備えていたといえる。一方で、Ⅲ区やⅣ区の礫層を観察すると洪水による被害はたびたび被っていた可能性も考える必要はあろう。

(2)歴史的環境

土器川・金倉川上流域は吉野川水系との交通や丸亀平野の水源として重要な地域である。7世紀に築造され、空海が大規模な改修工事を行ったとされる満濃池は、香川用水施工後の現在もなお、丸亀平野の主要な水源である。また、徳島県美馬町に抜ける国道438号線は新たに開通した三頭トンネルの施工以前より、幹線道として利用されていた。

このルート人々の往来は、少なくとも縄文時代まで遡ることが可能である。土器川の上流側の琴南町では河岸段丘上の備中地遺跡（中西 1988）で押型文期の遺物が出土している。これに先んじて、満濃町長尾付近では草創期の有舌尖頭器1点が地元郷土史家の大林英雄氏によって採集されている。

弥生時代では満濃池東岸で少量の土器片が採集されているほか、満濃町長尾町代遺跡では、土器川河川域を望む丘陵先端の平坦面にて中期後半の集落跡が確認されている（片桐 1997）。また、羽間遺跡では後期中葉とされる集落が調査され、大型の掘立柱建物が確認されている（信里 2001）。このほか、当遺跡に近隣の吉野八幡神社でかつて境内より出土したとされる銅鐸が、現在志度町の多和文庫に収蔵されている（梅原 1927）。拓本で判断すると、扁平鈕式銅鐸の袈裟襷文部分の破片で、袈裟襷部分と区画面との間に段差がみられる形式である。この形式の銅鐸は、徳島県名東銅鐸をはじめ、本県牟礼町源氏ヶ峰銅鐸など四国北東部でみられるもので、近年善通寺市旧練兵場遺跡で出土した銅鐸片も同様の形式である（財団法人香川県埋蔵文化財調査センター 2003）。今回の調査においても弥生中期および後期後半の土器片が少量出土していることから、調査地周辺に銅鐸を保有した弥生時代の集落が存在した可能性が高い。

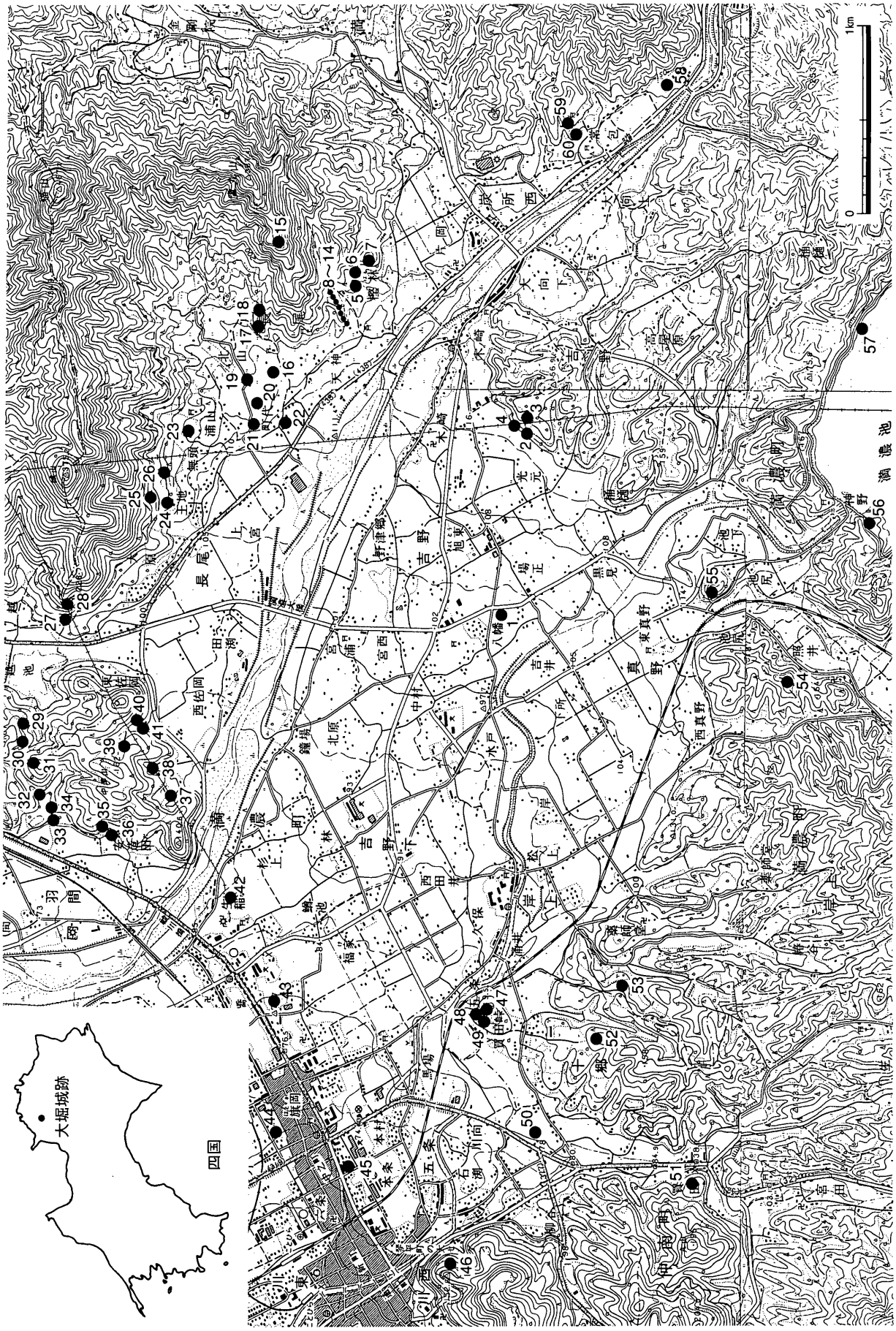
また、羽間遺跡と同一丘陵の満濃町東佐岡では平形銅剣2口（満濃町 1975）が出土している。

古墳時代前期は当地域に明確な古墳は築かれておらず遺跡動向は不明だが、古墳時代中期～後期に至ると多数の古墳が知られ、また吉野下秀石遺跡（大久保 1997）で多数の竈付竪穴住居が確認されるなど、平野部の集落と丘陵部の古墳群が有機的に関連して分布することが窺える。

古墳は主に3箇所に群を形成する。一つは当遺跡とは土器川を挟んで北岸の長尾の丘陵部に点々と古墳が存在する。このうち天神七ツ塚古墳群は南北に延びる尾根上に小規模な古墳が直線的に分布し、そのうち1基は前方後円墳とされる。部分調査が行われた7号墳の成果からみて、この古墳群は箱式石棺もしくは直葬木棺を埋葬主体部とする中期後半頃の古墳群と考えられる。一方、近接する樫林清源寺古墳は直径12mの単独で所在する円墳である。同様の規模の古墳が30mほど東の尾根上でも見つかっており、横穴式石室をもつ後期古墳は、やや距離を置きながら尾根単位に1基もしくは数機ずつ分布する可能性が高い。一方この地域では中期から後期を通じて、有力首長墓と目される前方後円墳や大規模円墳等は見られず、在地の小規模勢力が一定の距離を保ちつつ、平野部の耕地開発を進めた状況が想定できる。

満濃町四条の弘安寺跡からは白鳳～奈良期の16葉素弁蓮華文軒丸瓦が出土している（北山 1993）。いち早く寺院建築も手掛けた勢力である。古代の集落遺跡は調査例が少なく、隣接する仲南町買田岡下遺跡（真鍋 2004）で9世紀ごろの掘立柱建物からなる集落単位が知られる。現国道32号線ルートの交通に関わる官的要素をもつ遺跡である。

古代・中世は古墳時代に耕地開発された勢力単位を一定程度維持しながら集落形成が行われたものと



第１図　大堀城跡周辺の遺跡分布図（S＝1/30,000）

番号	GIS遺跡番号	遺跡名	所在地
1	40240035	大堀城跡	満濃町吉野八幡大堀
2	40240036	南泉寺１号墳	満濃町吉野旭東南泉寺
3	40240037	南泉寺２号墳	満濃町吉野旭東南泉寺
4	40240038	南泉寺３号墳	満濃町吉野旭東南泉寺
5	40240051	樫林清源寺古墳	満濃町長尾樫林
6	40240052	樫林山の神古墳	満濃町長尾樫林
7	40240062	樫林清源寺２号墳	満濃町長尾樫林
8	40240043	天神七ツ塚１号墳	満濃町長尾天神
9	40240044	天神七ツ塚２号墳	満濃町長尾天神
10	40240045	天神七ツ塚３号墳	満濃町長尾天神
11	40240046	天神七ツ塚４号墳	満濃町長尾天神
12	40240047	天神七ツ塚５号墳	満濃町長尾天神
13	40240048	天神七ツ塚６号墳	満濃町長尾天神
14	40240049	天神七ツ塚７号墳	満濃町長尾天神
15	40240053	金丸城跡	満濃町長尾天神
16	40240040	北山楠神社塚古墳	満濃町長尾北山
17	40240041	北山墓地１号墳	満濃町長尾北山
18	40240042	北山墓地２号墳	満濃町長尾北山
19	40240063	北山・上田遺跡	満濃町長尾上田
20	40240064	町代１号墳	満濃町長尾上田
21	40240065	町代２号墳	満濃町長尾上田
22	40240067	町代土居屋敷跡	満濃町長尾町代
23	40240050	天神塚古墳	満濃町長尾浦山
24	40240025	断頭墓地１号墳	満濃町長尾無頭
25	40240026	断頭墓地２号墳	満濃町長尾無頭
26	40240027	光明寺池上古墳	満濃町長尾無頭
27	3842019	岡田５号石棺	綾歌町岡田
28	3842020	岡田６号石棺	綾歌町岡田
29	38420134	平石１号墳	綾歌町岡田
30	38420135	平石２号墳	綾歌町岡田
31	40240013	安造田東峠古墳	満濃町羽間安造田東

番号	GIS遺跡番号	遺跡名	所在地
32	40240014	安造田東１号墳	満濃町羽間安造田
33	40240015	安造田東２号墳	満濃町羽間安造田
34	40240016	安造田東３号墳	満濃町羽間安造田
35	40240017	安造田神社裏古墳	満濃町羽間安造田
36	40240018	安造田神社前古墳	満濃町羽間安造田
37	40240019	長尾大隅守一族の墓	満濃町長尾
38	40240020	佐岡寺跡	満濃町長尾佐岡
39	40240021	佐岡遺跡(平形銅剣出土地)	満濃町長尾佐岡
40	40240022	佐岡１号墳	満濃町長尾佐岡
41	40240023	佐岡２号墳	満濃町長尾佐岡
42	40240058	吉野下秀石遺跡	満濃町吉野下秀石
43	40240028	弘安寺廃寺	満濃町四条東村
44	40320006	石川城跡(榎井城跡)	琴平町榎井中ノ町
45	40320007	本庄城跡(割季分城屋敷跡)	琴平町五条
46	40320001	愛宕山古墳	琴平町川西
47	40240029	三堺山１号墳	満濃町五条三堺
48	40240030	三堺山２号墳	満濃町五条三堺
49	40240031	三堺山３号墳	満濃町五条三堺
50		買田岡下遺跡	仲南町十郷買田
51	40590002	丸山城跡	仲南町十郷買田
52	40590001	買田峠古墳	仲南町十郷買田
53	40240034	椿谷古墳	満濃町岸上椿谷
54	40240075	城丸城跡(恕の丸砦跡,照井城跡)	満濃町真野
55	40240039	小山古墳	満濃町神野９
56	40240073	神野寺陣所跡	満濃町神野
57		満濃池東岸窯	満濃町吉野高屋原
58	40240068	常包城跡	満濃町炭所西常包
59	40240056	吉田神社前１号墳	満濃町炭所片岡南
60	40240057	吉田神社前２号墳	満濃町炭所片岡南
62		吉野八幡神社銅鐸出土地	満濃町吉野八幡

第１表　大堀城跡周辺遺跡一覧表　※GIS番号は平成16年度香川県埋蔵文化財センター作成の「香川県遺跡地図情報」データに準拠

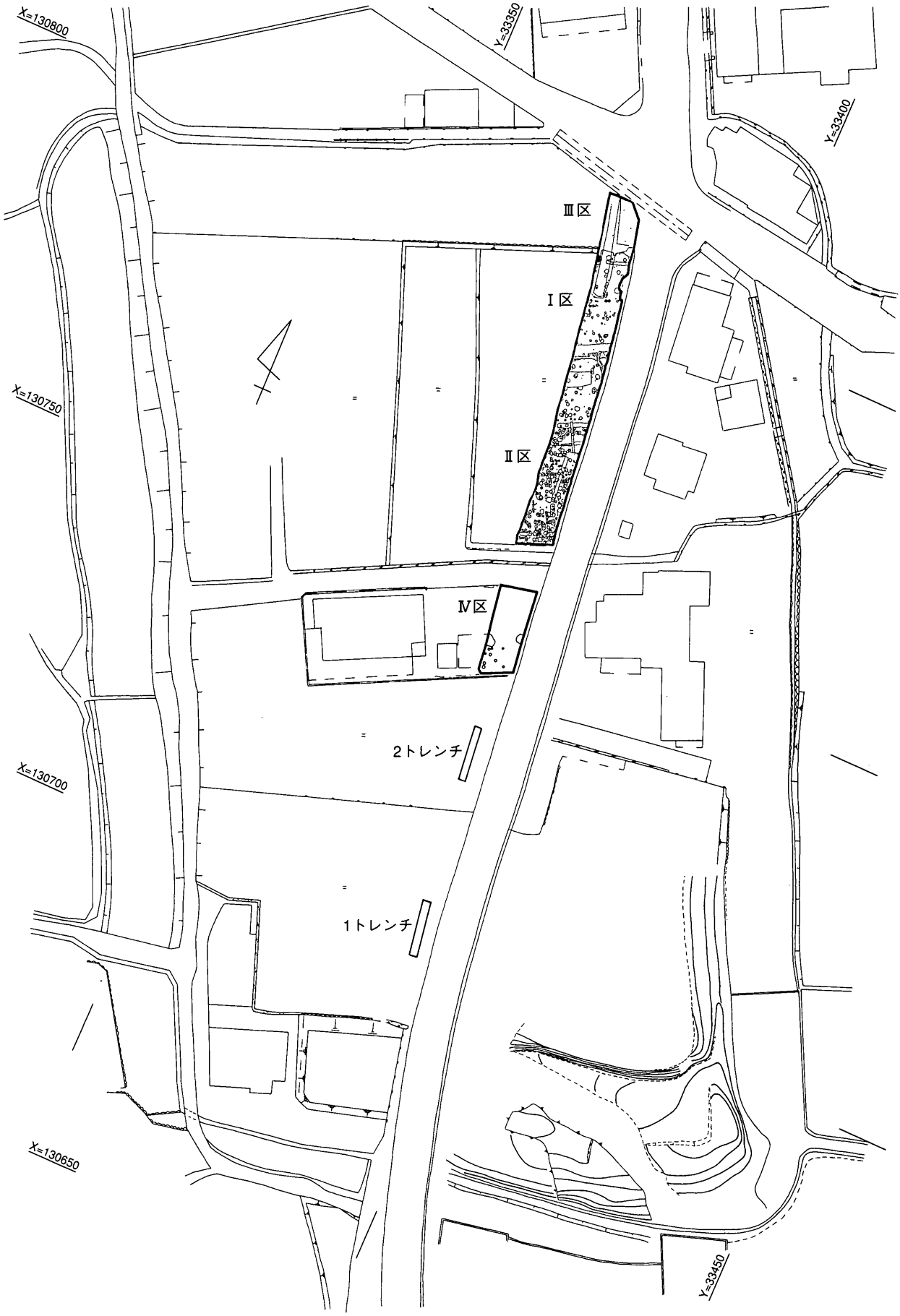
推定される。調査地は「和名抄」那珂郡十一郷の一つである良野郷に比定され、「尼真如所領譲状案」（正木文書）によれば鎌倉期弘安５年の岩松時兼先祖相伝所領を藤原土用王御前に譲った旨の記載があり、さらにその後建武元年（1334）に藤原妙連が岩松直国に譲ったとも記載される。また、中世後半の戦国期に向かうにつれ、各丘陵に山城が築かれる。南海治乱記によれば、当時千人ほどの単位で土豪武士層が統括された事例が多く、郷内にも新興勢力が生じていたことを反映する。

３．調査成果

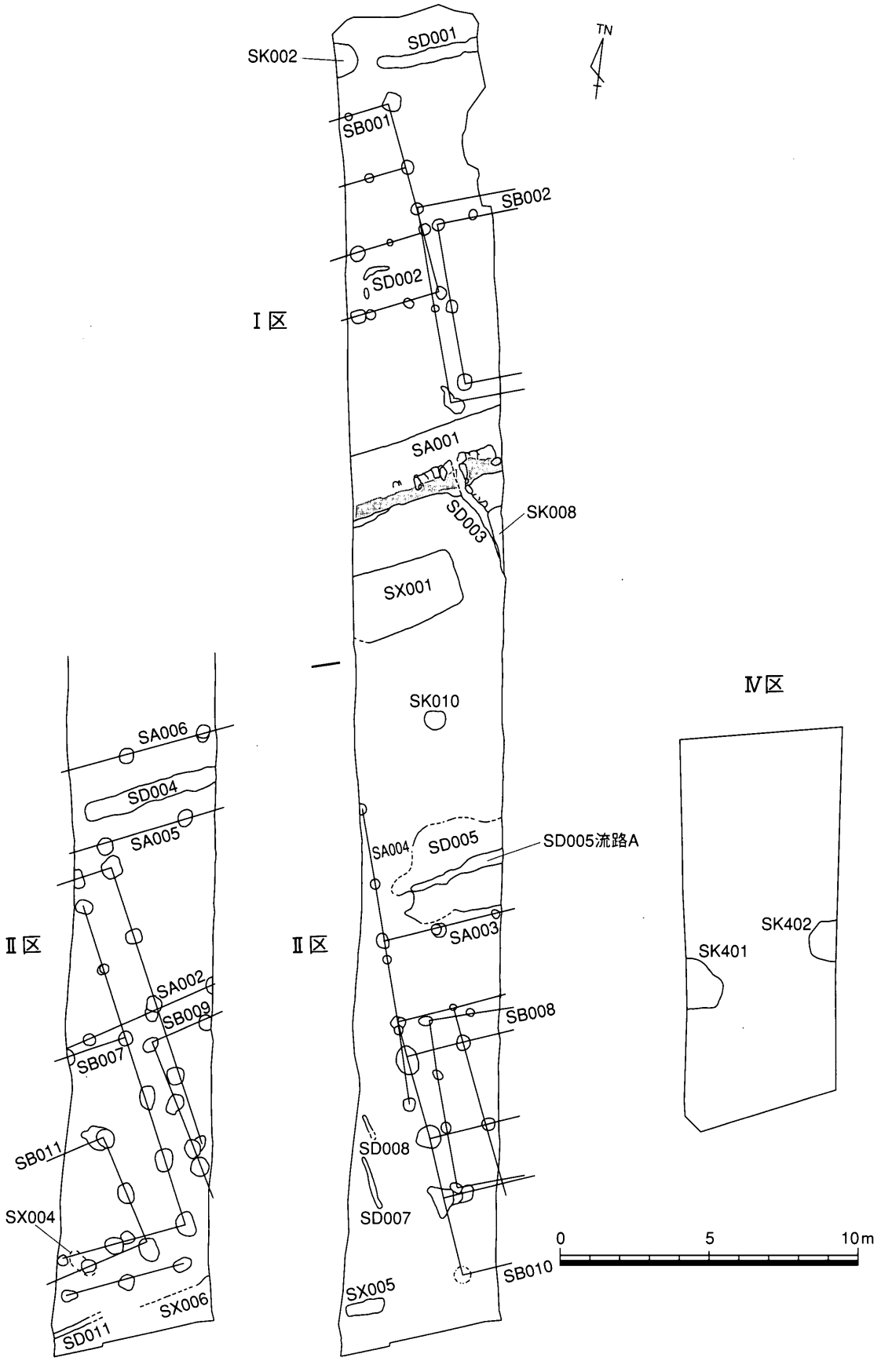
(1)概要

今回の発掘調査は当初16世紀頃の戦国期城館跡を調査の主眼として考えていたが、調査の結果13～14世紀の溝で区画された居館が確認された。また、これまで土塁や堀が推定されていた場所では、堀を確認するに至らず、土塁が比較的幅広く存在した可能性が指摘できるにとどまった。ただし、居館の区画溝は小規模ながら石垣を伴っており、柱穴の規模は直径60～100cmに及ぶ大型のものもあることから、これまで県下で確認された居館と比較すると、遺構の面から見てやや異質である。

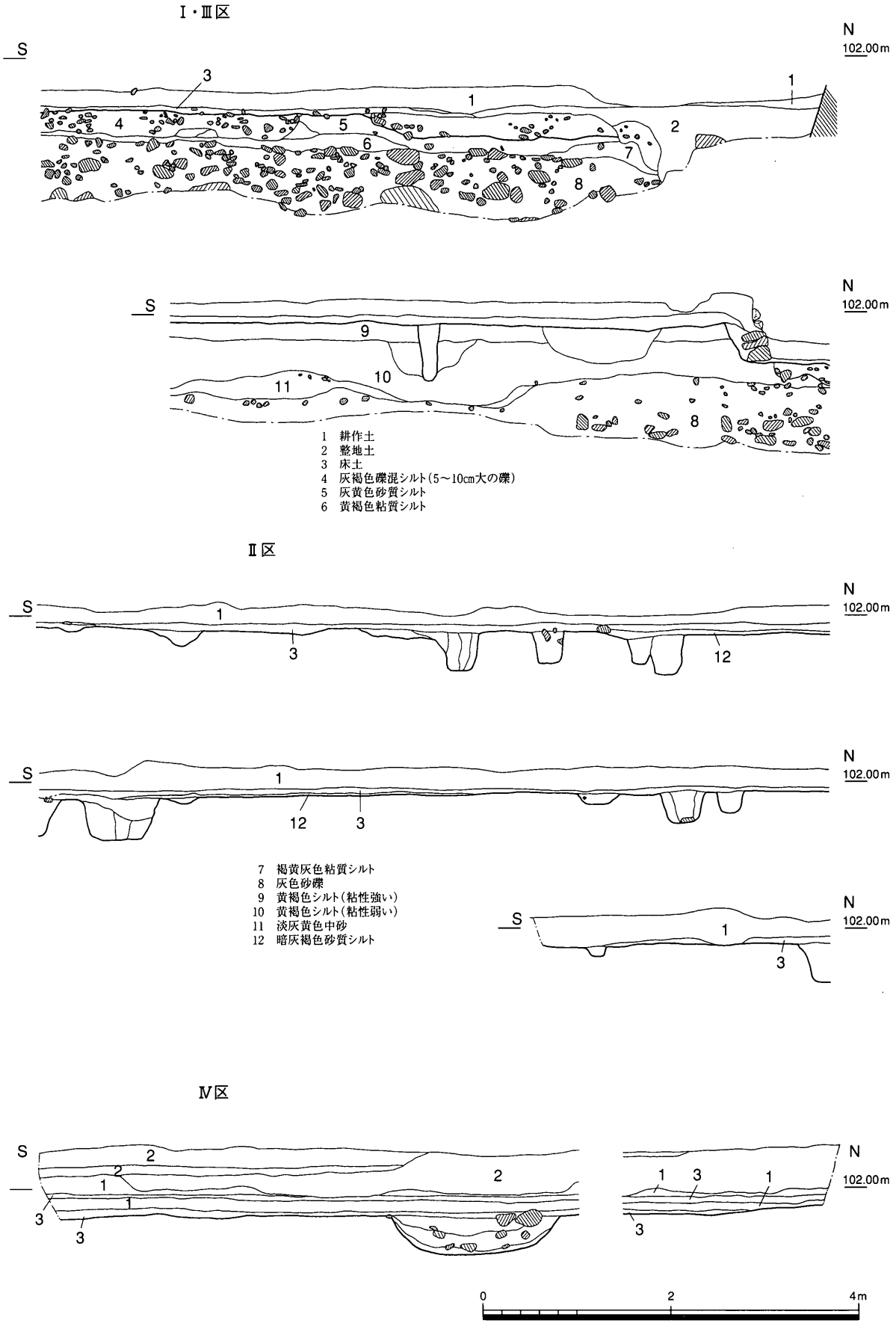
調査区は県道西側に接して南北に細長い。調査順に従ってⅠ区からⅣ区に区分した。Ⅰ区では石垣を伴う区画溝とその北側に掘立柱建物２棟、Ⅱ区では区画溝より南側の多数の柱穴（約230基）、Ⅲ区



第２図　大堀城跡発掘調査全体図（S＝1/800）



第３図　大堀城跡平成16年度調査区主要遺構分布図（S＝1/200）

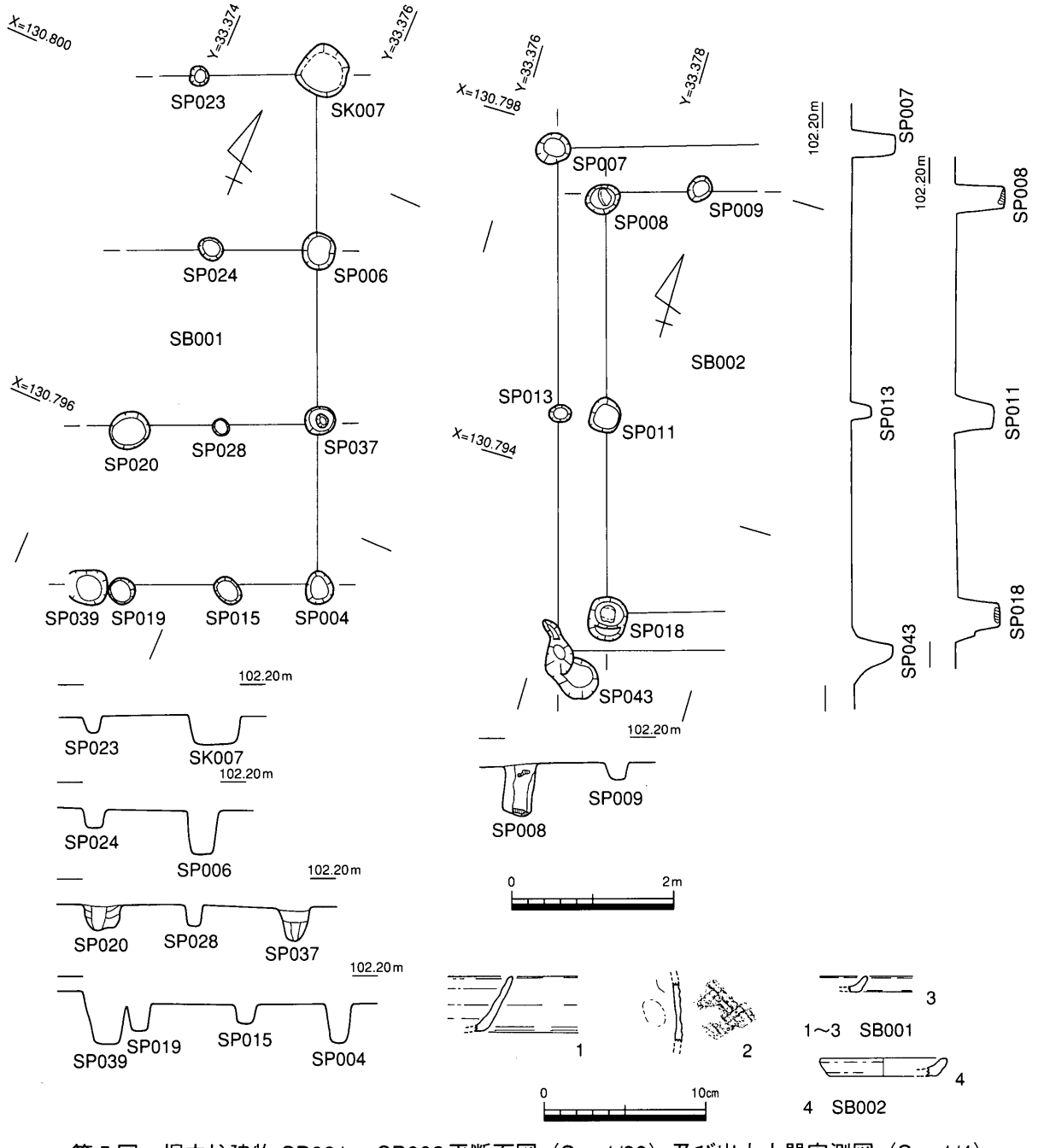


第４図　土層断面図（S＝1/60）

では削平された土塁痕跡、Ⅳ区では散漫な柱穴・土坑分布が認められた。Ⅱ区では掘立柱建物を7棟、柵列の可能性がある柱穴列を5基確認した。

(2)土層序

調査地内は特にⅠ区・Ⅱ区を中心に多数の遺構がみられたが、これらはすでに上部を削平されており、現在の耕作土・床土を除去するとその直下に橙褐色～黄灰色粘質シルトの基盤層がみられる。Ⅱ区のSD005とした範囲は、深さ4～10cmほどの浅く幅広い落ち込みである。複数の雨落溝が重複した状態と考えられる。また、Ⅰ区北端からⅢ区にかけての西壁断面では、基盤層中に河川氾濫による礫層とそれを覆うシルト層の関係が把握できたが、出土遺物がないことから河川氾濫の時期は特定できない。堀跡が想定されたⅢ区では、基盤層を不整形に切り込む浅い落ち込みが認められる。しかし、堀跡を示すような規模ではないことから、土塁を後世に削平する過程で形成された窪みと考えられる。



第5図　掘立柱建物SB001・SB002平断面図（S＝1/80）及び出土土器実測図（S＝1/4）

Ⅳ区は北半が暗褐色粘質シルト層、南半が洪水堆積の礫層を基盤とする。当初両層の平面的層界が周辺地割に合致するように観察されたことから、いずれかの堆積層が遺構埋土の可能性があると考え、トレンチを入れて確認したが、いずれも基盤層と判断された。

(3)掘立柱建物及び柵列

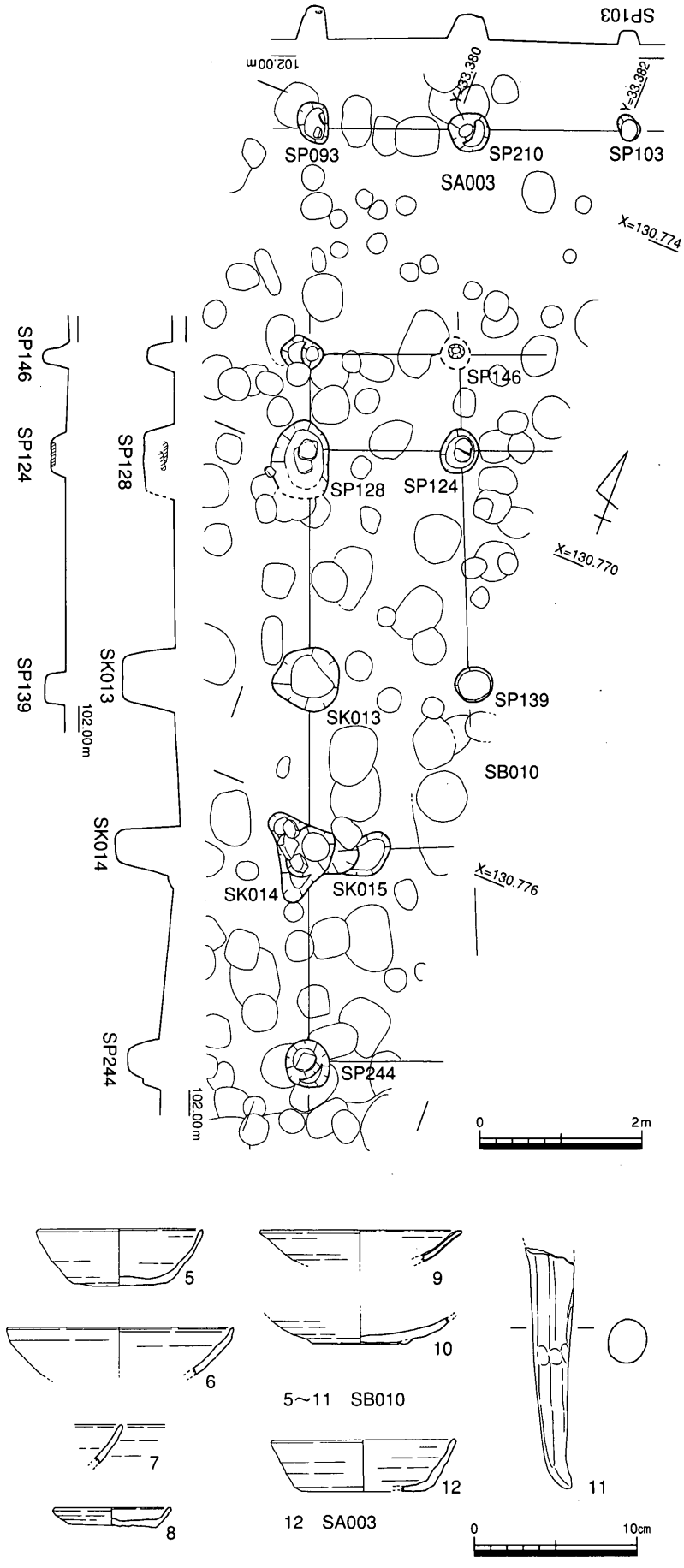
＜掘立柱建物　ＳＢ００１＞

Ⅰ区の区画溝より北側に位置する建物である。南北３間（6.2ｍ）で、東西は３間以上（3.2ｍ以上）の規模をもつ。建物方位はN-23°W。東端柱筋の柱穴は直径38～60cmと規模が大きく、東から２列目柱筋の柱穴は直径20～36cmと小さく浅い。したがって、東端が側柱、２列目が束柱と想定できる。また、SP019・020・039の３穴も南北筋が不一致のため、束柱と考えられる。埋土は各柱穴とも淡灰褐色系砂質シルト層で、直径15～18cmの柱痕部は暗灰色粘質シルト層である。

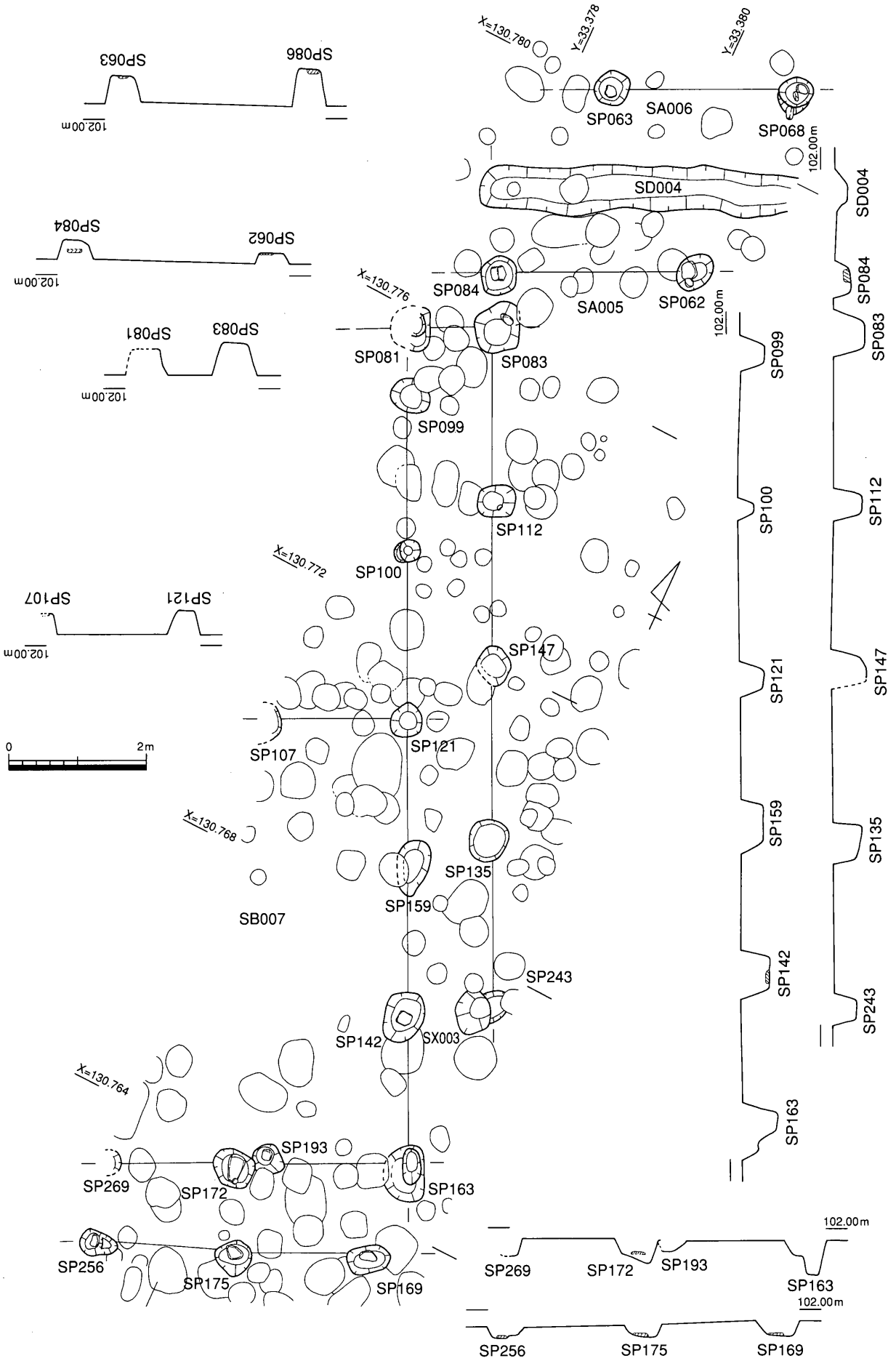
出土遺物は、１・３が土師質土器で坏･小皿、２は亀山系須恵器甕体部片である。これらの出土遺物から、13世紀後半頃の年代が考えられる。

＜掘立柱建物　ＳＢ００２＞

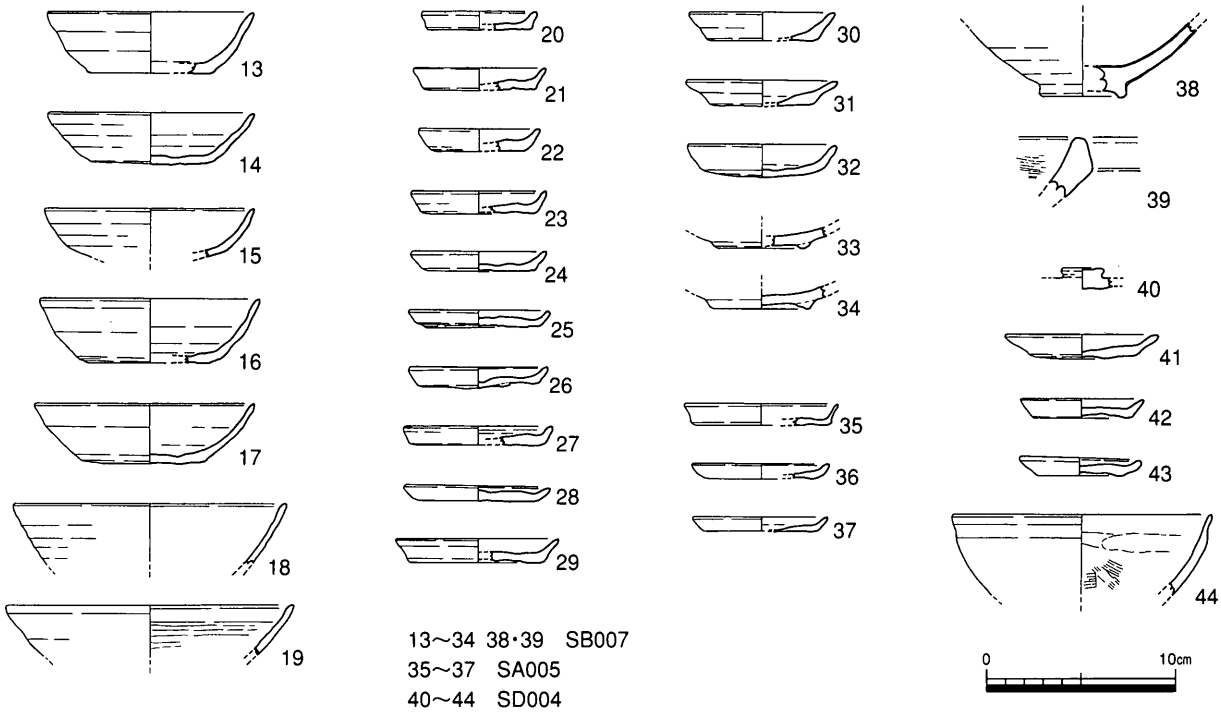
Ⅰ区の区画溝より北側に位置する建物である。南北２間（5.1ｍ）で、東西は２間以上（1.8ｍ以上）、西側に庇をもつ。庇を含



第６図　掘立柱建物 SB010・柵列SA003平断面図（S＝1/80）及び出土土器実測図（S＝1/4）



第７図　掘立柱建物 SB007・柵列SA005・SA006・溝SD004平断面図（S＝1/80）



第８図　掘立柱建物 SB007・柵列SA005・SA006・溝SD004出土土器実測図（S＝1/4）

めた南北規模は6.2ｍ。建物方位はN-16°-Wで、SB001よりやや東に振る。建物西側の隅柱と想定されるSP008･018は、20㎝大の根石をもつ。柱痕は直径約18㎝。各柱穴とも埋土は暗灰褐色系シルト層である。建物範囲はSB001と重複するが、切り合い関係がないため先後関係は不明。

出土遺物は少量で、４の土師質土器小皿が１点出土した。

＜掘立柱建物　ＳＢ０１０・柵列ＳＡ００３＞

Ⅱ区南側に位置する掘立柱建物である。南北３間（7.5ｍ）で、東西は２間以上（3.6ｍ以上）、北側に2.7ｍ離れて東西方向の柵列SA003がある。柵列は延長２間（4.0ｍ）分検出しさらに東に延びるものと考える。建物・柵列方位はN-23°W。柱穴の規模は西側の３穴（SP128・SK013・SK014）が直径80～100㎝と規模が大きく、北側東西列と東側南北列は30～40㎝サイズである。西の３穴が側柱で、北側東西列は庇の可能性が高い。側柱はいずれも廃絶時に柱を抜き取り、多量の焼土塊とともに20～30㎝大の砂岩亜円礫を投棄している。柱痕は直径26～30㎝をはかる。

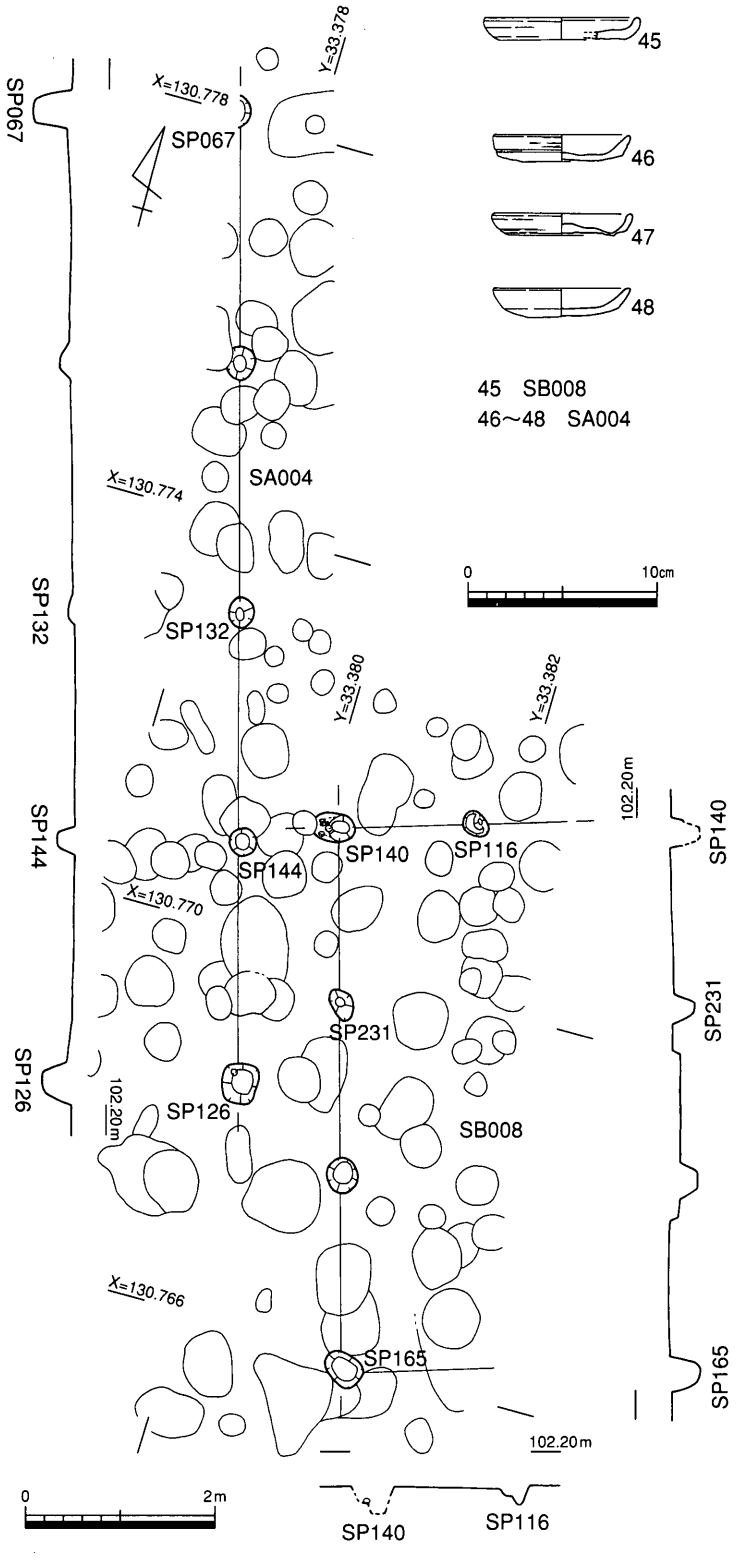
SB010の出土遺物は５・６が土師質土器坏、８が土師質土器小皿、10が土師質土器椀、７が十瓶山系須恵器椀、９が中国産白磁皿、11が土師質土器羽釜脚部である。

SA003の出土遺物は12の土師質土器坏がある。

これらの土器から、13世紀末から14世紀前半ごろの時期が考えられる。

＜掘立柱建物　ＳＢ００７・柵列ＳＡ００５・ＳＡ００６・溝ＳＤ００４＞

Ⅱ区南側に位置する掘立柱建物である。南北５間（11.0ｍ）で、東西は２間以上（4.5ｍ以上）。建物方位はN-25°W。南に1.2ｍ離れた東西の柱穴列は、建物南側柱に対応しており、縁が附属するものと想定される。また、建物東側にも1.2ｍ離れて南北柱穴列があるが、建物東側柱とは柱筋がずれる。したがって建て増しの庇か、もしくは柵列と考えられるが、ここでは庇として建物に含めた。庇北端柱穴



第９図　掘立柱建物 SB008・柵列SA004平断面図（S＝1/80）
及び出土土器実測図（S＝1/4）

SP083の西には建物東側柱筋の延長上にSP081があり、北側にも庇が取り付くものと考えられる。柱穴規模は直径40～80cmである。なお、建物の南から３間目には束柱SP107がある。

建物北側には庇の柱筋から80cm離れて東西柵列ＳＡ005、その北にSD004と柵列SA006がある。いずれもSB007の方位に合致する。SD004は暗灰色砂質シルト層を埋土とする幅約50cm、深さ約10cmの溝で、柵列と平行して直線的に東へ延びる。

SB007の出土遺物は13～17が土師質土器坏、20～32が土師質土器小皿、33が須恵器椀、34が土師質土器椀である。そのほか18･19は和泉型瓦器椀、38は中国産龍泉窯系青磁椀、39は土師質土器捏鉢である。

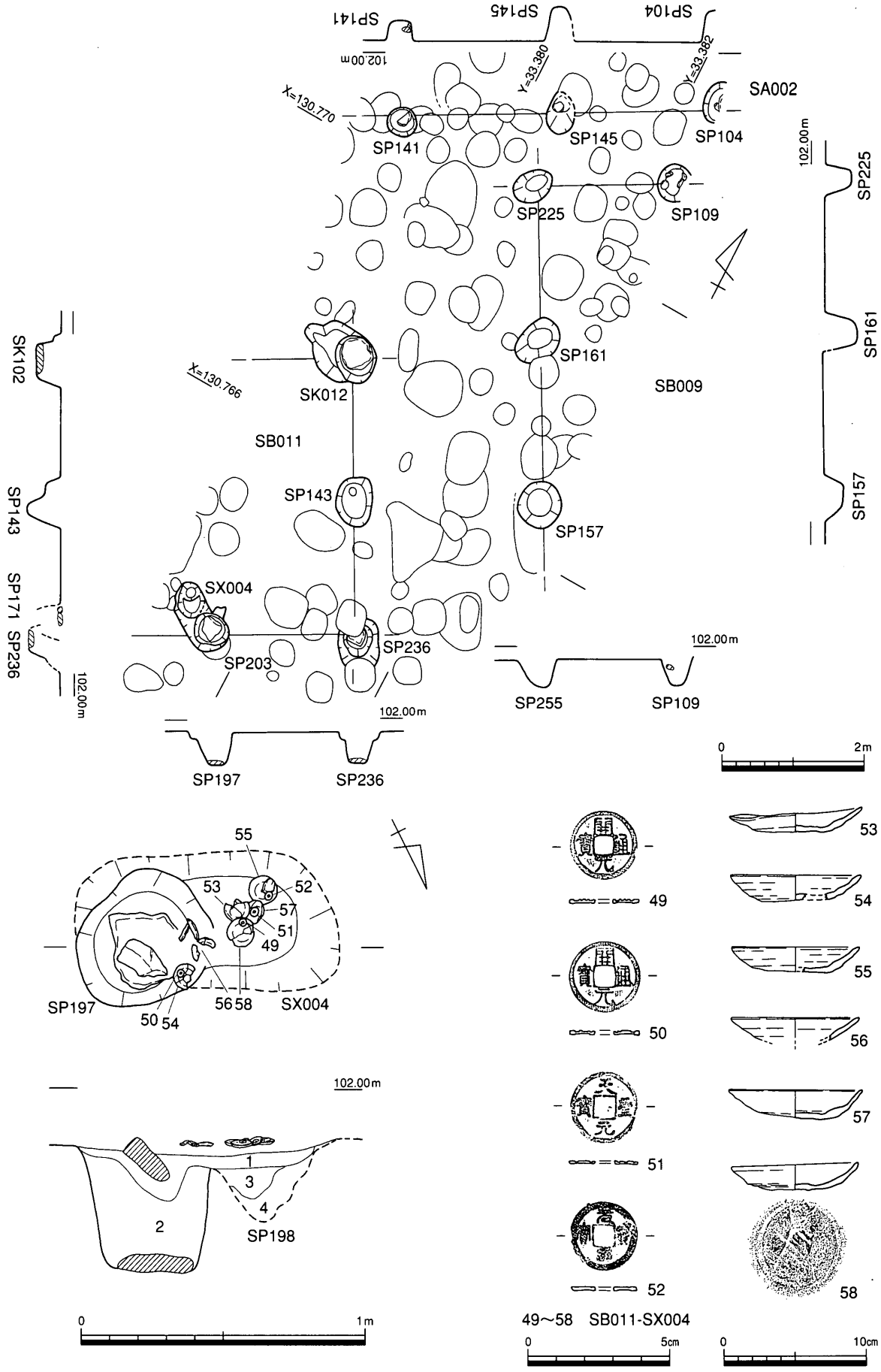
SA005では35～37の土師質土器小皿が出土した。SD004は40が８世紀の須恵器坏蓋摘部片、41～43が土師質土器小皿、44が黒色土器椀である。

一部古い時期の土器が混在するが、概ね13世紀後半頃の年代が考えられる。

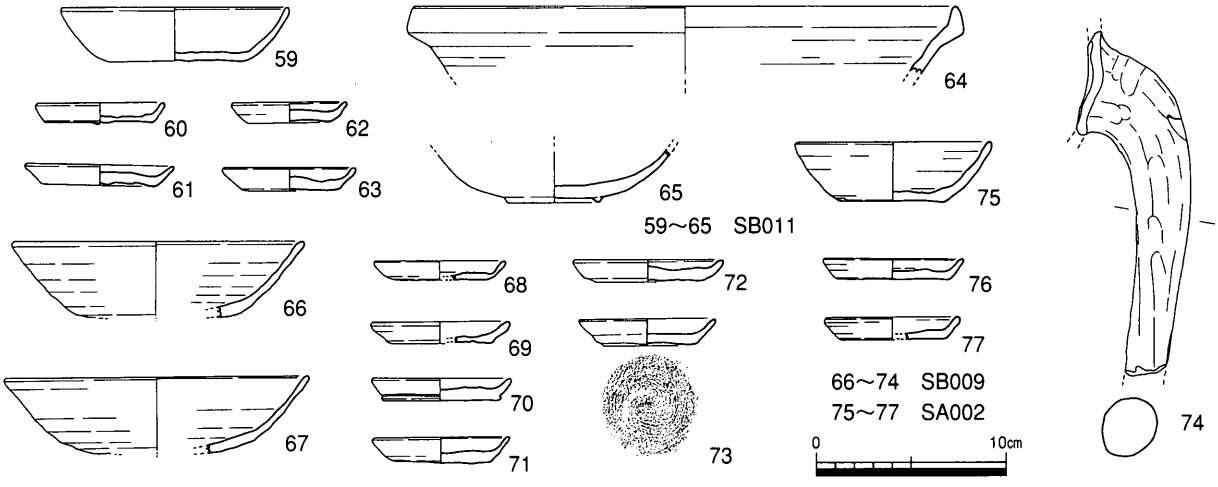
＜掘立柱建物ＳＢ００８・柵列ＳＡ００４＞

Ⅱ区南側に位置する掘立柱建物である。南北３間（5.7ｍ）で、東西は２間以上（2.5ｍ以上）、西側に1.1ｍ離れて南北方向の柵列ＳＡ004がある。柵列は延長４間（9.9ｍ）分検出しさらに北に延びるものと考える。建物・柵列方位はN-16°Ｗで、SB002に一致する。柱穴の規模は建物・柵列ともに直径30cmほどと、比較的小さいものが多い。

出土遺物はSB008より土師質土器小皿１点、SA004より同４点が出土した。いずれも口径７～８cm



第10図　掘立柱建物 SB009・SB011（SX004）・柵列SA002平断面図（S＝1/80）（S＝1/20）
及び出土遺物実測図１（S＝1/4）（S＝1/2）



第11図　掘立柱建物 SB009・SB011（SX004）・柵列SA002出土遺物実測図２（S＝1/4）

をはかり、13世紀前半代に収まるものと考える。

＜掘立柱建物ＳＢ００９・ＳＢ０１１（ＳＸ004）・柵列ＳＡ００２＞

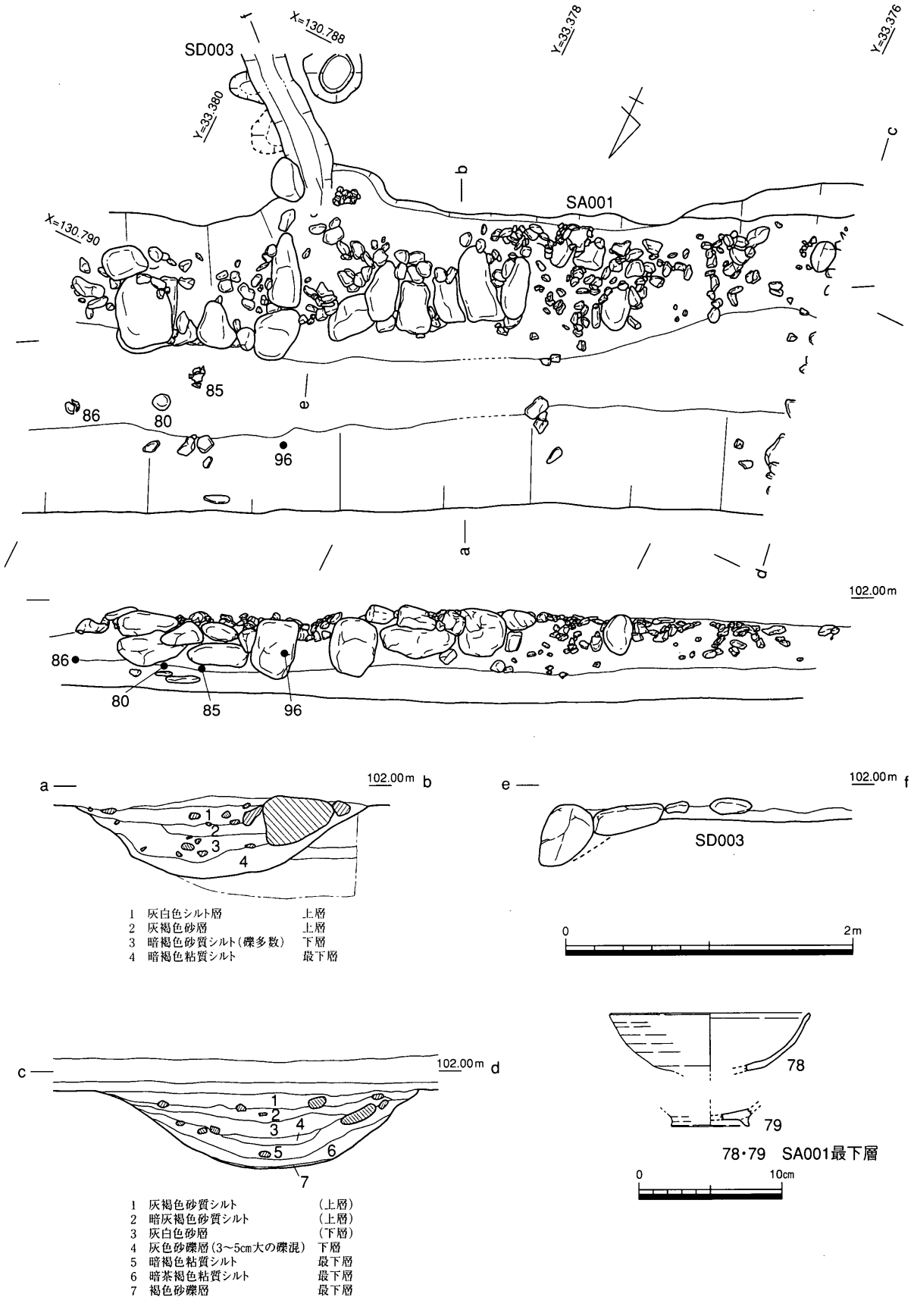
Ⅱ区南側に位置する掘立柱建物２棟、柵列１基である。SB009は南北２間以上（5.3ｍ）、東西は２間以上（2.1ｍ以上）。柱穴規模は直径50～70㎝をはかる。SB011は南北２間（3.9m）東西２間以上（3.1m）。建物方位はいずれもN-28°-Wである。柵列SA002はSB009の北1.0m離れて延長３間（5.2ｍ）分検出し、さらに東西に延びるものと推定される。なお、建物SB009南北側柱列から西に0.5mに南北柱穴列が附属する。西庇と考えられるが、柵列SA002と交わる部分だけ柱間距離が狭いことから、柵列である可能性もある。

SB011は隅柱および南側柱に根石をもち、柱穴規模は70～80㎝大である。いずれの柱穴も建物廃絶に伴って柱を抜いた痕跡があり、そのうちSP197（SX004）は抜き取り後に土師質土器の皿６枚と、そのうち４枚の皿の上に銅銭１枚を乗せ、直近に鉄器（315・316）を配置していた。建物廃絶に伴う地鎮祭祀遺構と推定される。銅銭はいずれも中国銭で、唐代の開元通宝（49・50）と北宗代の天聖元宝（51）がある。

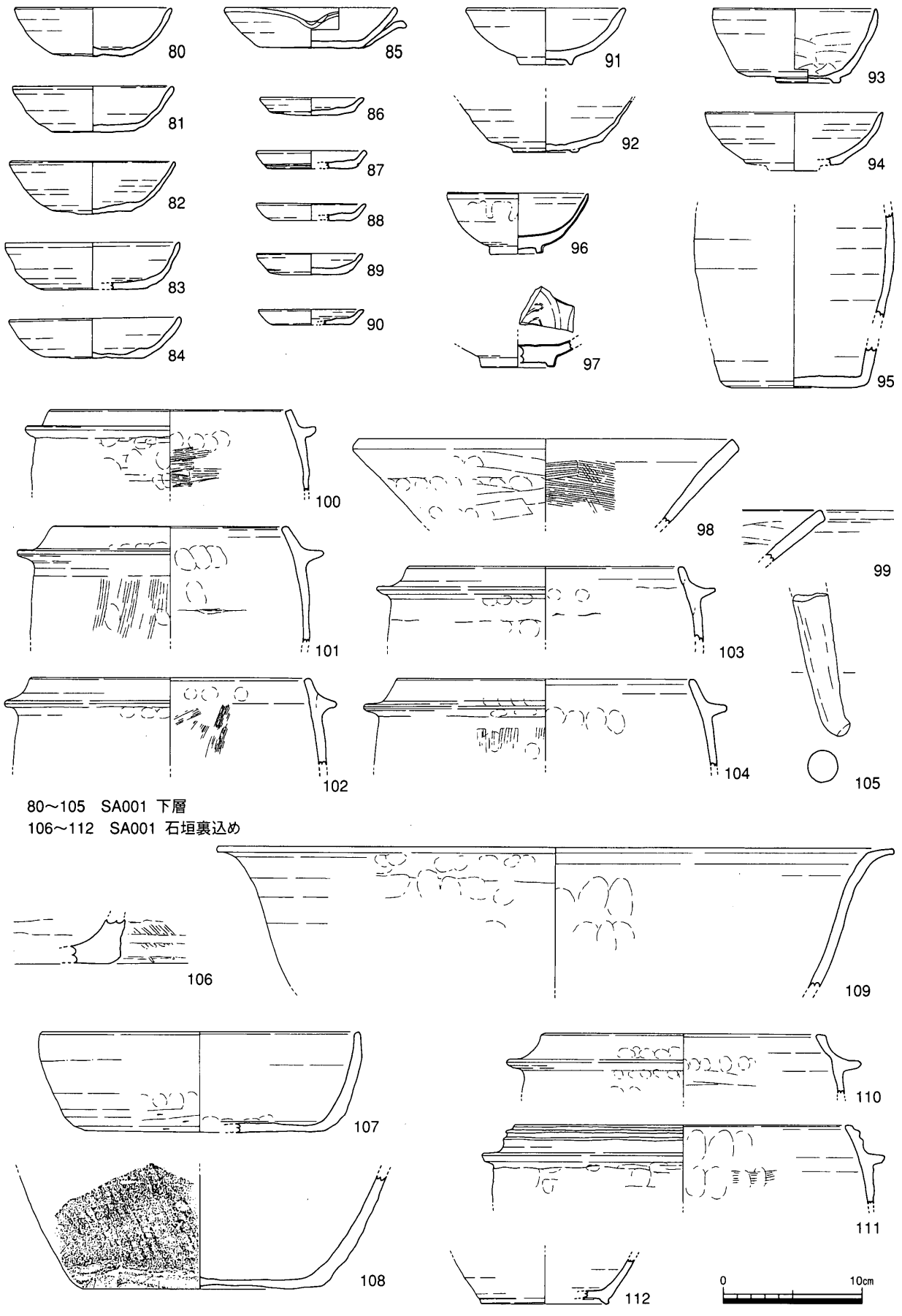
SB011出土遺物は、まずSP197（SX004）の柱抜き取り穴最終埋没時の地鎮遺構より土師質土器皿６点が出土している。53～58はいずれも口径約９㎝で口縁部が外上方に大きく開く形態的特徴と、回転ヘラ切り後体部に強い横ナデがみられる技法的特徴を共有する。また胎土中に粒径の揃った微細な砂粒を多く含む点も共通し、今回出土した多数の土師質土器中に同様な胎土を見いだすことができないことから、この６点の皿は他地域からの搬入品の可能性もある。そのほかのSB011出土土器は59が土師質土器坏、60～63が土師質土器小皿、65が土師質土器椀、64が東播系須恵器捏鉢である。

SB009出土遺物は66が黒色土器椀、67が土師質土器椀、68～73が土師質土器小皿である。このうち73は底部糸切り技法による。74は土師質土器羽釜脚部片である。

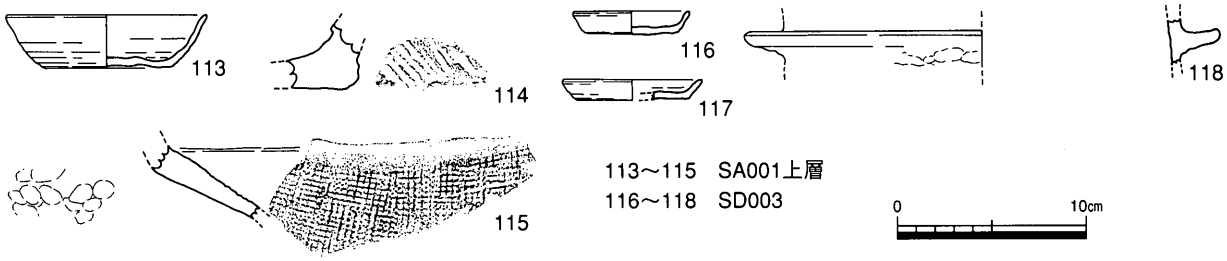
SA002出土遺物は75が土師質土器坏、76・77は土師質土器小皿である。



第12図　区画溝SA001・排水溝SD003平断面図（S＝1/40）及び出土土器実測図1（S＝1/4）



第13図　区画溝SA001・排水溝SD003出土土器実測図２（S＝1/4）



第14図　区画溝SA001・排水溝SD003出土土器実測図３（S＝1/4）

(4)石垣を伴う区画溝

＜区画溝ＳＡ００１および排水溝ＳＤ００３＞

Ⅰ区で確認した幅2.0ｍ、深さ0.5ｍの断面Ｕ字形の溝である。南肩部に砂岩の亜円礫を２～３段積み上げ、拳大の円礫を裏込めに使用する石垣を伴う。走行方向はN-27°-Wと直交する。埋土は最下層に堅く締まった褐色粘質シルト層が堆積し、少量の土器片が伴う。この最下層は石垣基底石の下部にも認められ、石垣構築以前の堆積層と考えられる。下層とした灰白色～灰褐色砂層では13世紀～14世紀中葉までの多くの土器類が出土した。また、石垣の裏込土中からも同時期の土器片が出土する。これらの土器類は石垣が機能した時期を示すものと考えられる。上層の灰褐色粘質シルト層には、14世紀後半までの土器が含まれるが、土器量は多くない。

南北に走行して石垣の南肩部に取り付く排水溝SD003は、幅0.3m、深さ0.1ｍの断面Ｕ字形の溝で、SA001に向かって溝底が若干下がり合流する。主に東肩部に大型の石材が配置され、石材抜き取り痕跡もみられる。石垣前端から約２ｍの範囲に礫を配置していたものと考えられ、その範囲が暗渠になっていた可能性が高い。したがって石垣の南側に土堤状の盛土があったものと想定される。排水溝が接する部分の石垣は、石材を縦に使い、石材間に約23cmの間隔をとどめる。

出土遺物は最下層で78・79の黒色土器椀が出土している。

下層では80～85の土師質土器坏、86～90の土師質土器小皿、91・92の土師質土器椀、93・94の須恵器椀、95の須恵器壺、96の中国産青磁椀、98の土師質土器捏鉢、99の須恵器捏鉢、100～105の土師質羽釜がある。このうち、85の土師質土器坏は片口である。また、96の青磁椀は口径10cmほどの小型品（小椀）で外面は無文。口縁端部外面に釉のかけ流しがみられる。97の青磁椀は内面見込部に形の崩れた蓮弁文が施文される。土師質土器羽釜はいずれも口縁部から大きく下がって鍔を貼り付けるものである。

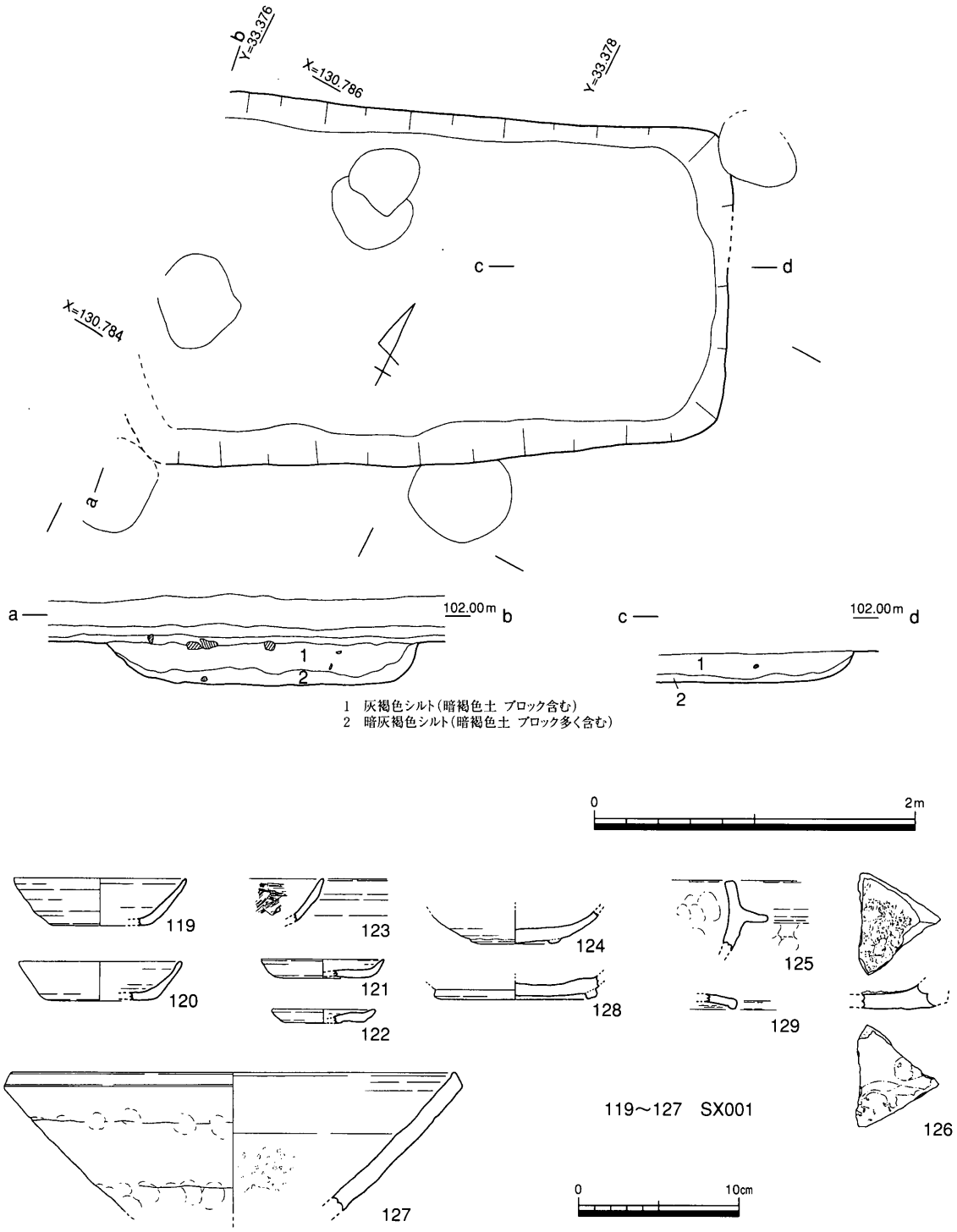
石垣裏込め土中より、106・108の十瓶山系須恵器甕底部片、107の同須恵器鉢、109の土師質土器土鍋、110・111の土師質土器羽釜、そのほか112の９世紀ごろの須恵器坏底部片が出土した。

上層では113の土師質土器坏、116・117の土師質土器小皿、118の土師質土器羽釜、114の十瓶山系須恵器甕底部片、115の亀山系須恵器甕がある。

(5)土坑

＜方形土坑ＳＸ００１＞

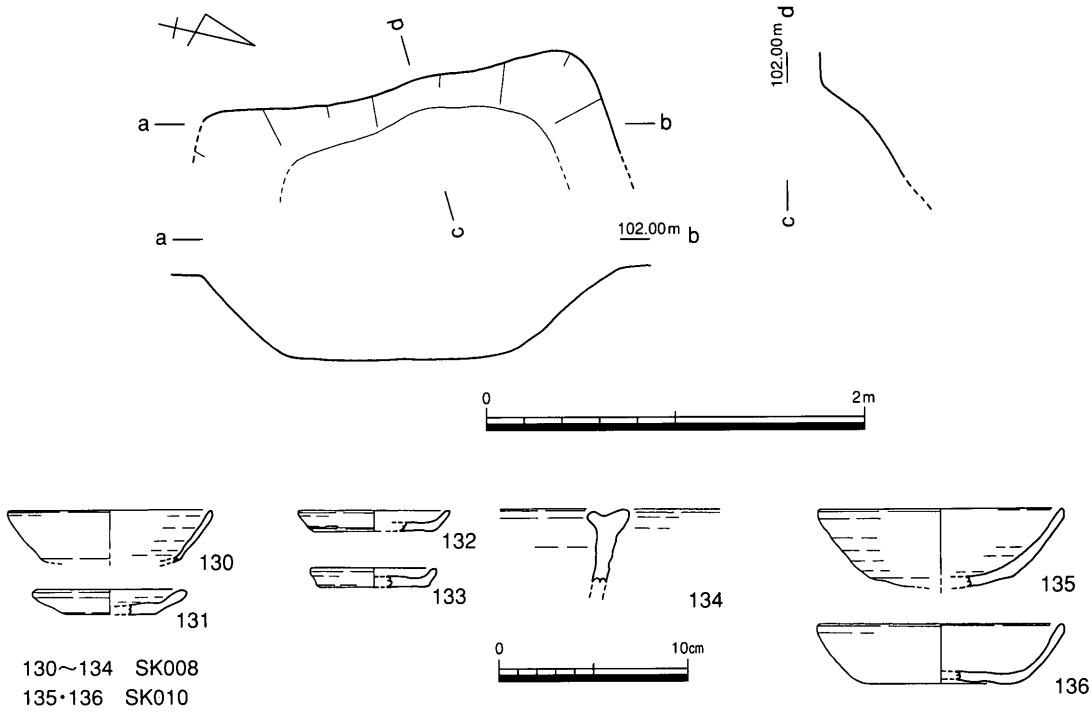
石垣を伴う区画溝SA001の南1.8ｍで、方向を同じくして確認した東西に長い方形土坑である。東西3.7ｍ以上、南北2.0～2.2ｍ、深さは0.2ｍで底面は平坦である。埋土は褐色シルト質土と黄灰色土が塊状に混じることから、一度に埋め戻されたものと考えられる。区画溝SA001の上層とほぼ同時期の土



第15図　方形土坑SX001平断面図（S＝1/40）及び出土土器実測図（S＝1/4）

器群が出土する。接合はしないが、同一個体と推定される土器片もあることから、SA001と同時に機能した時期があったことがわかる。

出土遺物は119・120が土師質土器坏、121・122が土師質土器小皿、123・124が須恵器椀、125が土師質土器羽釜、126は常滑系陶器大甕底部片、127は須恵器捏鉢、128・129は8世紀代の須恵器坏である。このうち、126は胎土中に白色砂粒が多く含まれ、底部見込みに多量の砂目が残る。これらは多くが13世紀後半～14世紀前半に所属する。



第16図　土坑SK008平断面図（S＝1/40）及びSK008・SK010出土土器実測図（S＝1/4）

＜土坑ＳＫ００８＞

区画溝SA001の南で調査区の東端に接して確認した土坑である。大部分が現県道下に埋没し、調査区内には遺構の西端のみが確認される。遺存部の形状から、平面形は隅丸方形と推定され、重複する排水溝SD003より新しい。南北2.2ｍ、深さ0.45ｍ以上の規模で、方向はN-23°-Wである。埋土は暗灰色粘質シルトに地山ブロックが混じる。位置的に見て、SA001の延長方向に一致することから、東に延びる溝の西端部の可能性もあり、あるいは井戸状の遺構である可能性もある。

出土遺物は土師質土器坏１点と土師質土器小皿３点、土師質土器土鍋口縁部片１点がある。130の坏は体部下端に稜線をもち、口縁部が屈曲して斜め上方に立ち上がる形態をもち、14世紀前半位置づけられる。134の土鍋は２個１対の把手部に向かって口縁端部が肥大しつつある部分の破片である。

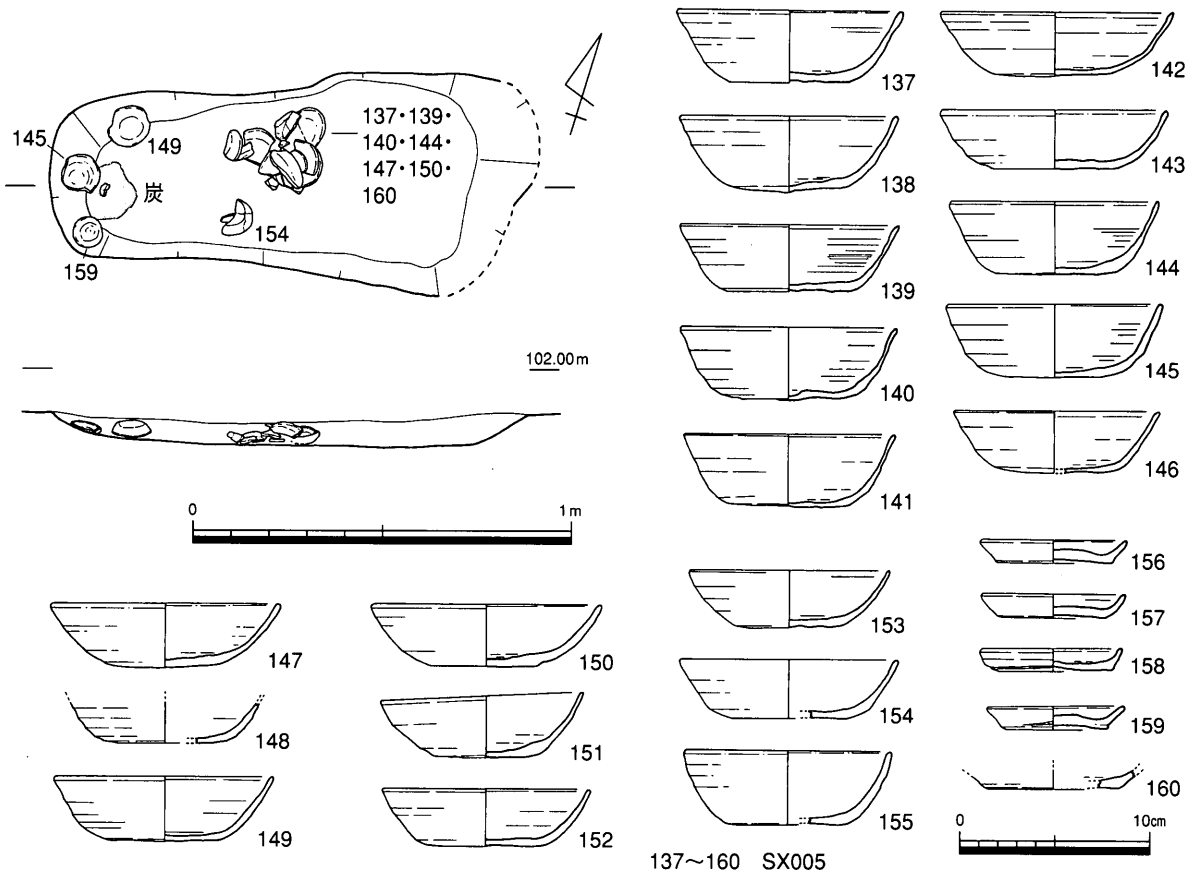
＜土坑ＳＫ０１０＞

長径0.7ｍの不整円形の土坑である。深さは0.1ｍほどと浅い。埋土は灰褐色系シルトである。土師質土器坏２点が出土している。135は体部下端が丸みを帯びる形態、136は体部下端に稜線をもち底面が平坦な形態である。

＜土器埋納坑ＳＸ００５＞

掘立柱建物ＳＢ００７の南縁柱穴SP256の南に接して確認した、東西長さ1.3ｍ、幅、0.45～0.55ｍ、深さ0.1ｍの不整長方形の土坑である。側壁は斜め上方に立ち上がり、底面は平坦である。埋土下部に濃密な炭層が堆積し、その直上で土師器坏を主体とする遺存状態の良い土師質土器が出土した。坏20点、小皿４点がある。

土師質土器坏はいずれも形態が似通っており、体部下半の稜線が目立たず、丸みを帯び、底面が平坦で器壁が薄いものが多い。小皿は口径7.7～7.8mmで底面はいずれも糸切り後ナデ調整を行い、その際



第17図　土器埋納坑SX005平断面図（S＝1/40）及び出土土器実測図（S＝1/4）

の圧力でやや上げ底状の器形を呈する。これらは13世紀前半に一般的な特徴である。

＜土坑ＳＫ００２＞

Ⅰ区北端の西壁沿いで確認した円形土坑である。10～15cm大の礫を多量に投入し、灰色シルト層で埋めている。明治時代ごろの染付片が出土している。

＜土坑ＳＫ４０１＞

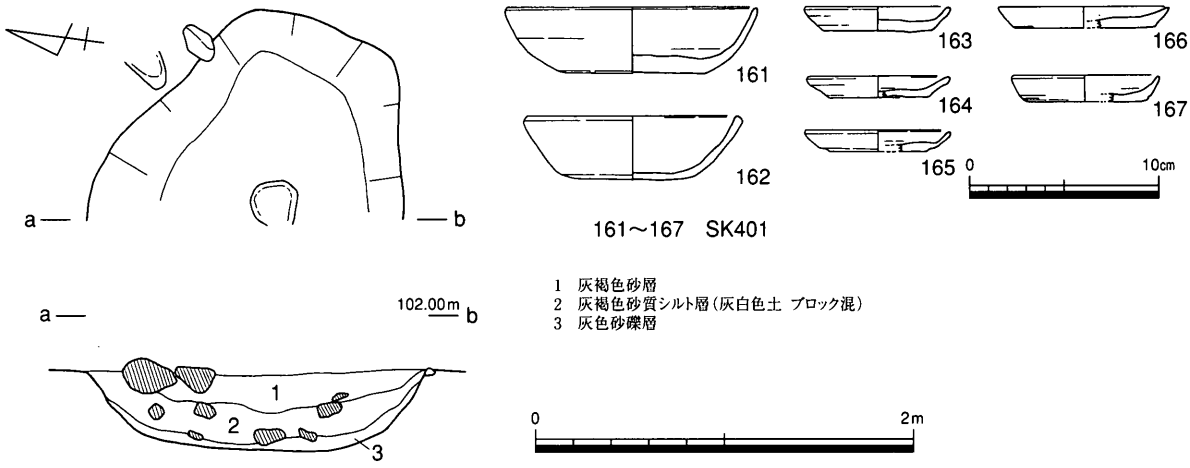
Ⅳ区西壁沿いで確認した直径約1.8m、深さ0.4mの土坑である。平面形はいびつな円形で、埋土中には5～20cm大の礫が多量に投棄される。土層堆積は最下部に砂礫層、上部にむかって次第に粘質を帯び、U字状に層界がみられる。比較的長期にわたって漸次埋没したものである。

出土遺物は土師質土器坏2点、土師質土器小皿5点がある。坏・小皿ともに底面は平坦かやや上げ底気味の形態で、下部に膨れるものはない。

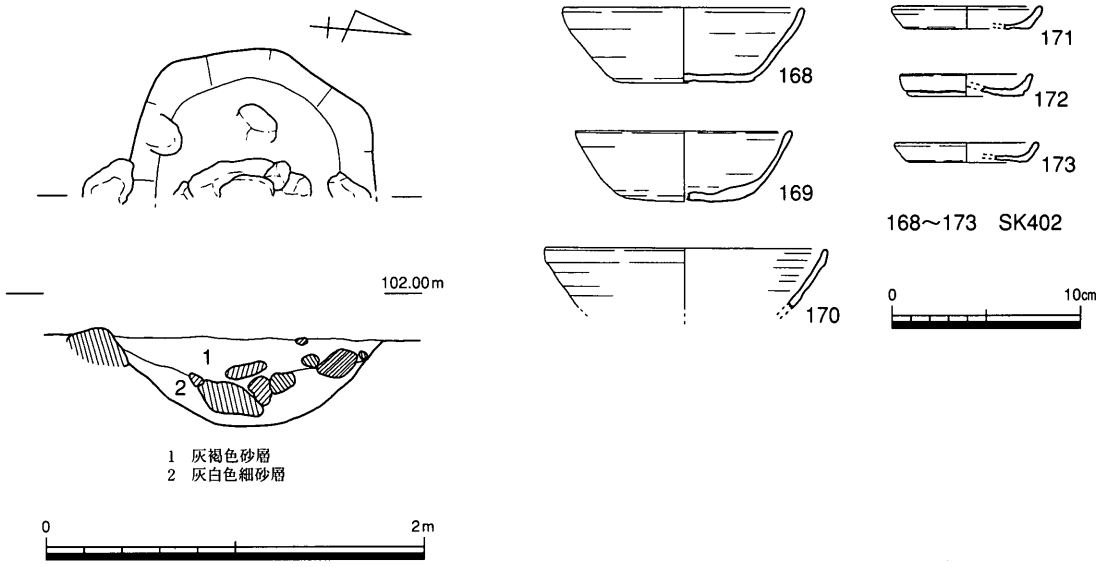
＜土坑ＳＫ４０２＞

Ⅳ区東壁沿で確認した直径1.3m、深さ0.45mの土坑である。平面形は調査範囲内で半円形を呈する。SK401と同様に5～20cm大の礫が多量に投棄される。土層堆積は最下部に砂礫層、上部にむかって次第に粘質を帯び、U字状に層界がみられる。比較的長期にわたって漸次埋没したものである。

出土遺物は土師質土器坏3点、土師質土器小皿3点がある。坏は他の遺構出土のも比べ、口縁部の立ち上がりが直線的で長い特徴がある。小皿は平底か上げ底である。



第18図　土坑SK401平断面図（S＝1/40）及び出土土器実測図（S＝1/4）



第19図　土坑SK402平断面図（S＝1/40）及び出土土器実測図（S＝1/4）

(6)その他の溝（ＳＤ）・土器溜り

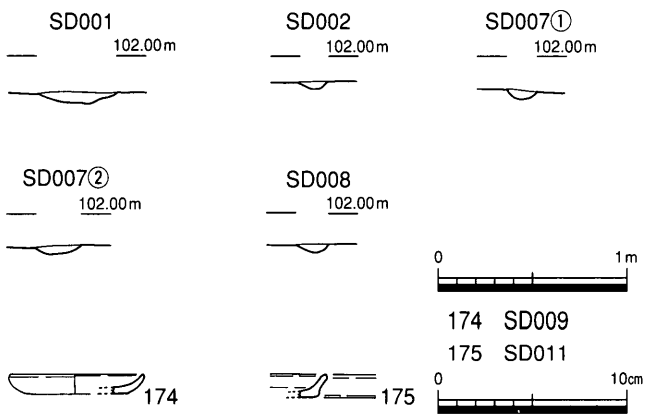
区画溝や建物に伴う溝についてはすでに報告したが、それ以外の溝についてここで報告する。

＜溝SD001＞

Ⅰ区北端の東西溝である。幅0.45m、深さ0.06m、走行方向はN-20°-W直交で、埋土は暗黄灰色シルト層。SB002に概ね平行するので建物に伴う可能性はあるが、溝以北に土塁が想定されており、土塁の南端を画する溝の可能性もある。中世土師質土器小片が出土している。

＜溝SD002＞

Ⅰ区の区画溝SA001より北側に位置する幅0.2m、深さ0.04mの逆Ｌ字状に屈曲する溝である。位置的にSB001と重複し、溝の方向はSB002と一致するので、SB002と関連する同時期の溝と考えられる。埋土は暗灰褐色シルト層。



第20図　溝SD001・SD002・SD007・SD008断面図（S＝1/40）及び溝SD009・SD011出土土器実測図（S＝1/4）

＜溝SD005および土器溜り＞

Ⅱ区中央部付近で確認した溝状の浅い落ち込みである。底面は緩やかに東に傾斜しており、調査区西端では平面的に捉えることができなかったが、西壁断面に同様の堆積土が薄く見られる。調査区と直交して東西方向に浅い窪みが形成されていたものと推定される。埋土は淡灰色～灰褐色粗砂および砂質シルト層で、雨水等少量の流水痕跡と考えられる。流路Ａとした溝は、最終的埋没した段階の流水幅を反映するものであろう。

埋土中には多量の土器類が投棄され、土器溜りを形成する。それらを出土位置を元にしてＡ～Ｆの６群に区分した。このうちＡ群の遺物量が最も多い。なお、Ａ群の土器を除去した後に確認した柱穴SP211には柱抜取穴と考えられる位置から多量の土師器が出土した。したがって、SP211の柱を抜き取った直後にSD005が形成され、柱痕の窪みにＡ群土器が落ち込んだものと考えられる。

176～197はSP211およびＡ群出土の土器である。176は十瓶山系須恵器椀口縁部片である。口縁部外面に幅１cmほどの黒色帯が巡る。177～181は土師質土器坏である。体部下端が丸みを帯びるものが多い。小皿は口径７～８cmで、底面が平坦あるいは上げ底のもの（182～193）と、ヘラ切り後に内面見込部から底面を押し下げて丸みをもたせるもの（194・195）がある。196は土師質土器鉢、197は土師質土器羽釜である。これらの土器群は13世紀中葉頃に位置づけられる。

198～201はＢ群出土の土器である。土師質土器坏・小皿ともに底面は平坦で、口縁部は体部下端の稜線から斜め上方に直線的に立ち上がる形態である。小皿底面は200がヘラ切り後若干のナデ調整を加えたのみのもの、201はヘラ切り後に板状圧痕を施して丁寧なナデ調整を行うものである。

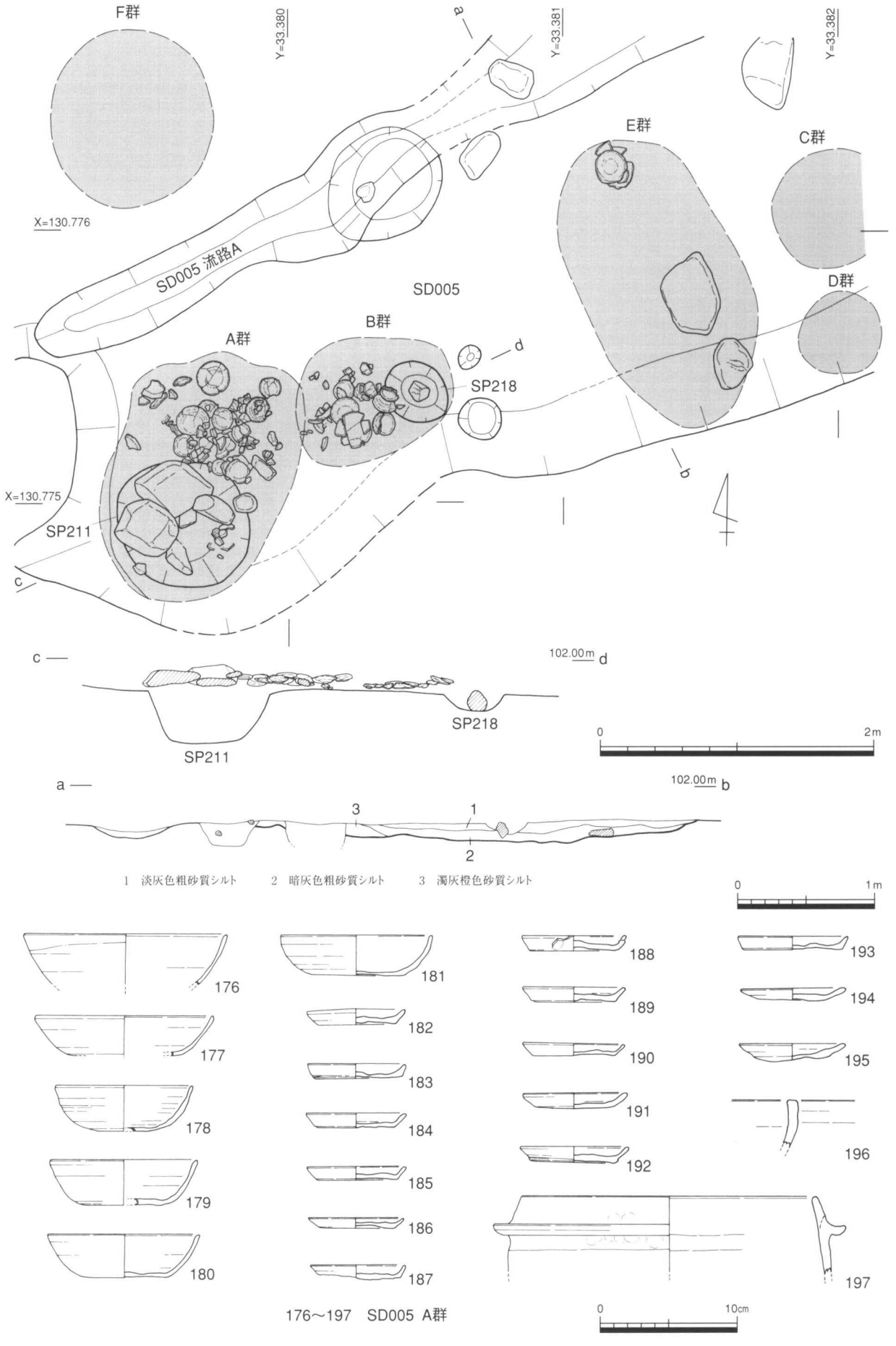
202～205はＣ群出土の土器である。土師質土器坏２点と土師質土器小皿２点がある。203の坏は口縁部外面に強くナデによる複数の稜線をもち、体部下端は丸みを帯びる。

206～211はＤ群出土の土器である。206と207の土師質土器坏は底面に強い板状圧痕を認める。208～211の小皿はいずれも口径が7.3cm以下でやや小振りのものが目立つ。208の底面は井桁状に板状圧痕を施す。

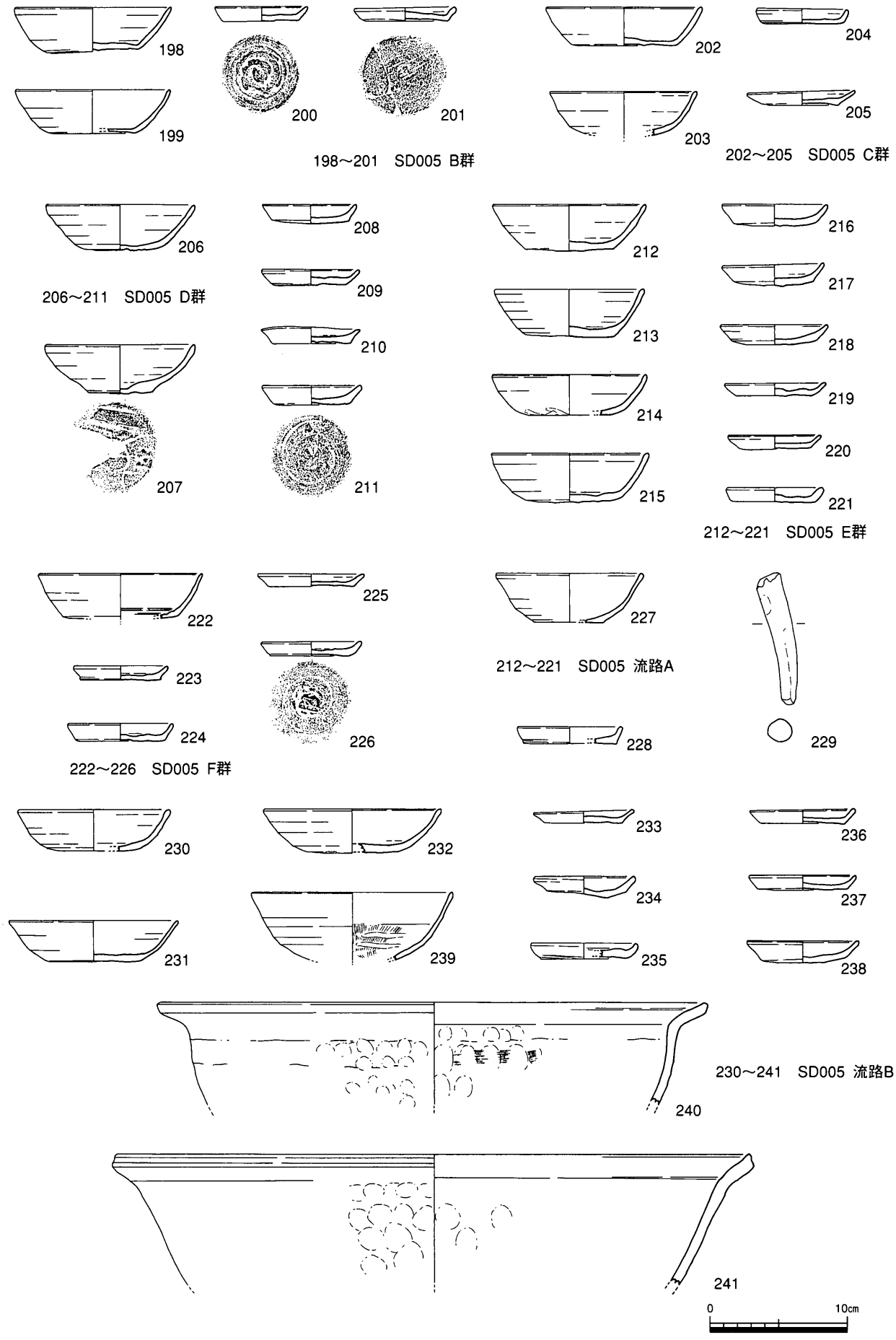
212～221はＥ群（土層観察アゼに含まれていたものを含む）出土の土器である。土師質土器坏は口縁部の立ち上がりが長く直線的な212・213と、口縁部がやや短く体部下端が丸みを帯びる214･215がある。土師質土器小皿は、底面がやや丸みを帯びる216～218と、平坦な219～221がある。

222～226はＦ群出土の土器である。土師質土器坏・小皿ともに体部下半の稜線部から口縁部が直線的に斜め上方に立ち上がる形態である。

227～229は流路Ａとした最終埋没溝出土の土器である。229は十瓶山系須恵器の羽釜脚部片である。



第21図　溝SD005平面図（S＝1/20）・断面図（S＝1/20・1/40）及び出土土器実測図1（S＝1/4）



第22図　溝SD005出土土器実測図２（S＝1/4）

230～241はSD005流路域全体から一括取り上げされた土器である。230～232は土師質土器坏、239は十瓶山系須恵器椀、235は十瓶山系須恵器小皿、233・234・236～238は土師質土器小皿である。234・238は底面ナデ調整時に見込部から強く押されて底面が丸みを帯びる形態である。240・241は土師質土器土鍋である。

＜溝SD007＞

Ⅱ区南側で確認した幅0.2m、深さ0.05mの細く浅い溝である。埋土は灰褐色シルトで、N-27°-Wの方向に延長1.8m分検出した。雨落溝と考えるとSB010に伴う可能性があるが、2.3mの間隔があるので確実ではない。

＜溝SD008＞

SD007の東北で平行する方向をもつ溝である。延長線上でSD007とは0.5mの間隔がある。雨落ち溝の可能性があるが関連する建物は不明。埋土は灰褐色シルト。

＜溝SD009＞

Ⅱ区中央付近で確認した小規模な溝である。埋土は灰褐色系シルト。いずれの建物とも方向が合致しないが174の土師質土器小皿が出土している。

＜溝SD011＞

Ⅱ区南端で確認した東西方向の小規模な溝である。幅0.18m、深さ0.06cmでN-70°-Eで東に走行する。方向性と位置から見て、SB011に伴う雨落溝の可能性が高い。175の土師質土器小皿が出土している。

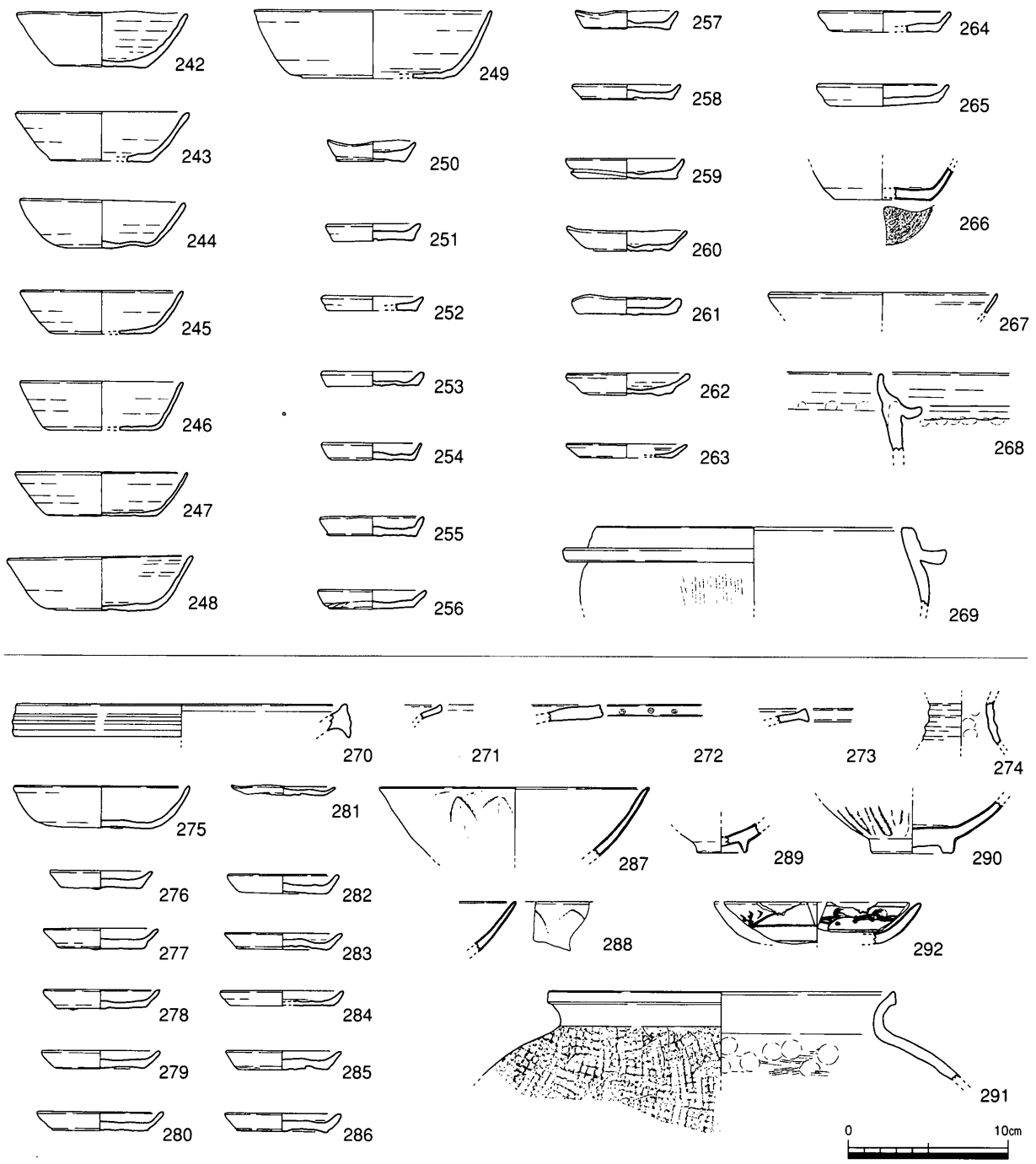
(7)柱穴・包含層出土土器

掘立柱建物を復原できなかった柱穴の出土土器（242～269）と包含層出土の土器（270～291）をまとめた。

242・243は口縁部が直線的に斜め上方に立ち上がる形態の土師質土器坏、244～249は体部下端が丸みを帯びる形態の土師質土器坏である。250～258は口径7.0cm以下の土師質土器小皿、259～265は口径7.0cm以上の土師質土器小皿である。266・267は中国産白磁皿で、266は森田分類のⅨ類である。268・269は土師質土器羽釜である。

270～274は今回の調査地内で包含層や遺構等に混入していた弥生土器片である。270は口縁部を拡張し3条の凹線文を施文する広口壺口縁部片である。弥生時代中期後半に位置づけられる。271は甕口縁部小片である。口縁端部下端が丸みを帯び、上方にややつまみ上げる形状で、弥生時代中期中葉ごろと考えられる。272は口縁部が大きく開く形態の壺口縁部片である。口縁部端面に竹管文を間隔をおいて刺突する。後期後半に位置づけられる。273は壺口縁部片である。274は細頸壺の頸部片で外面に凹線文を施文するものである。273と274は中期後半に位置付けられる。

275～291は包含層や遺構検出中に出土した土器である。275は土師質土器坏、276～286は土師質土器小皿である。287・288は中国産龍泉窯系青磁椀の口縁部片である。外面に鎬蓮弁文を配する。289・290も同青磁椀の底部片である。290の外面には鎬蓮弁下端部の施文である。292は今回の調査で出土し



第23図　柱穴・包含層出土土器実測図（S＝1/4）

た土器のうち中世以後のもので最も古いと思われる肥前系磁器染付皿である。現耕作土直下の明黄色床土層より出土したものである。18世紀後半ごろに位置づけられる。これ以外の中世以後の土器はほとんどみられない。

(8)石器・石製品

調査区内で出土した石器・石製品は、石鍋1点、砥石4点、火打石1点がある。

293はⅡ区の溝SD005の埋土を除去した後に確認した柱穴SP216の柱痕部より出土した石鍋である。口径38.5cm、器壁厚さ0.85～1.00cmの滑石もしくは風化した蛇紋岩を石材とする。口縁部より2cm下がった箇所に高さ1.7cmの鍔を作り出したものである。内外面には原体幅約0.9cmのノミ痕が顕著に認め

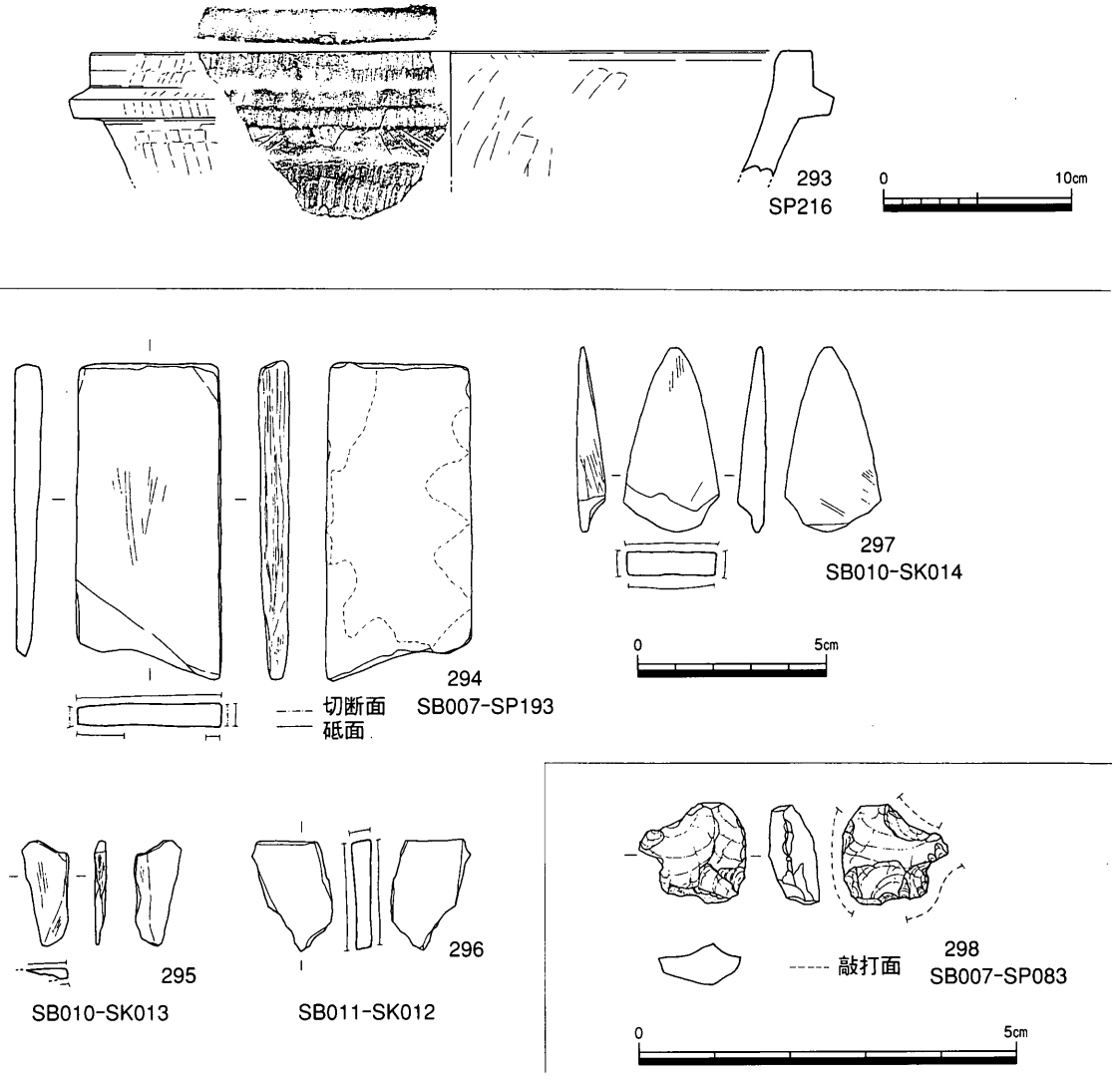
られ、内面については整形後に磨いてノミ痕を消す。

294～297は砥石である。294・295は京都産鳴滝石と推定される流紋岩を使用した刃器用仕上げ砥石である。いずれも側縁部に石鋸切断による線状痕をとどめる。296は細粒花崗岩質凝灰岩の小形砥石である。産地は明かでない。297は黒色を呈する頁岩製砥石である。一方が細く尖る形状をもつことから、手持ちの仕上げ砥石と推定される。

298は赤色チャートを石材とする火打石である。微細な不定形剥片を素材とする。図の左が素材の背面、右側が素材の主要剥離面である。図上端は打面の一部が残存し、下端には素材の礫面が認められる。素材剥片剥取に先立ち、同一打面で2枚の不定形剥片を剥取した後に当該素材の剥片を剥取している。使用痕は主に両側縁部に認められ、微細な階段状剥離を伴う敲打痕として観察できる。

(9)金属器関連遺物

調査区内で多数の金属器類が出土している。掘立柱建物SB011を構成する柱穴の柱抜取穴SX004より4点の銅銭が出土したことは、すでに報告したが、それ以外に銅銭2枚、金メッキを施した金銅装飾金具1点の銅製品が出土している。また、釘や毛抜きなどの鉄製日用品類も多数みられる。鉄器類につ



第24図　石器・石製品実測図（S＝1/4・1/2・1/1）

いては出土した段階で錆化が著しく、X線写真を元にして図を作成した。そのほか、鞴羽口、鉄滓、銅滓、焼土などが出土している。これらは鞴羽口·鉄滓がⅠ区からⅡ区北側にかけて、銅滓·焼土がⅡ区南側に多く認められる。鉄関連と銅関連についてはそれぞれ別の場所か、もしくは別の時期に生産ないし、加工が行われていた可能性が高い。

299は長さ3.3cm、厚み0.8cmの柱穴出土の金銅装飾金具である。Ⅱ区柱穴SP177より出土している。素材は青銅に鍍金したいわゆる金銅装で、平面形はL字型、断面は頂部に稜線をもつ山形である。厚みは1～1.5mmをはかる。表面は部分的だが鍍金が遺存しており、原形は全面に鍍金が施されていたものと考えられる。裏面は一部で錆化による膨れが認められるが、図の下端から1.3cmの位置に釘状の突起が遺存する。右に折れたもう一方にも突起があったものと思われ、2箇所で釘止めする構造と考えられる。側面形は下端部が揃わず、捻れた形状が観察できるが、原形を反映するかどうか、不明である。

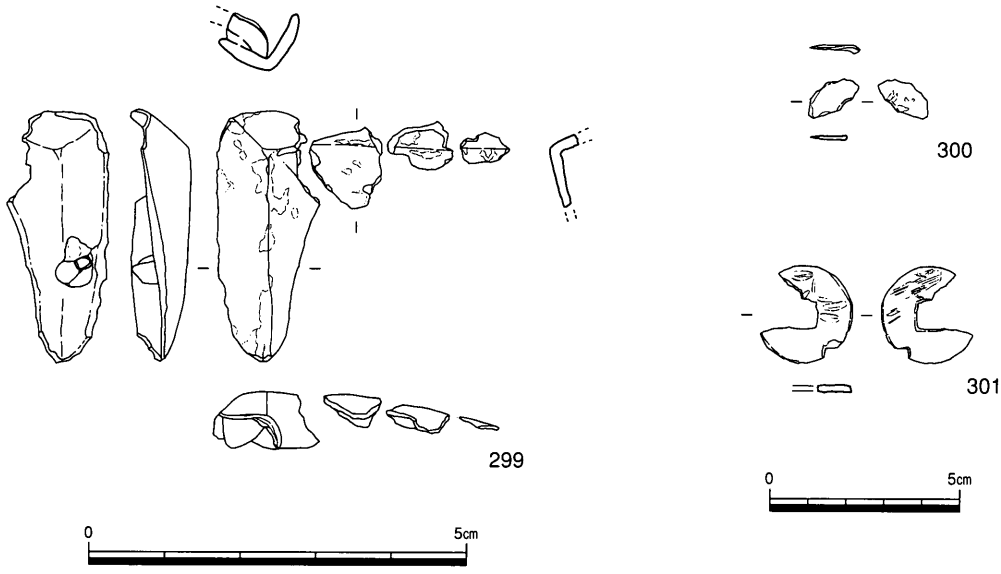
300は柱穴SP257出土の銅銭である。穿孔部縁が遺存しており、かろうじて銅銭であることが分かる。銭種は不明。一辺が強く折れ曲がる。301はSA003柱穴出土の銅銭である。遺存状態は良いが、器面に繊維系の有機物が付着しており、銭種は不明である。

302は柱穴SP199より出土した鉄製刀子である。残存長11.1cmで、うち刃部長9.1cm。関はX線で見る限り、緩やかなカーブで柄部に接続し、柄残存部に目釘穴は認められない。

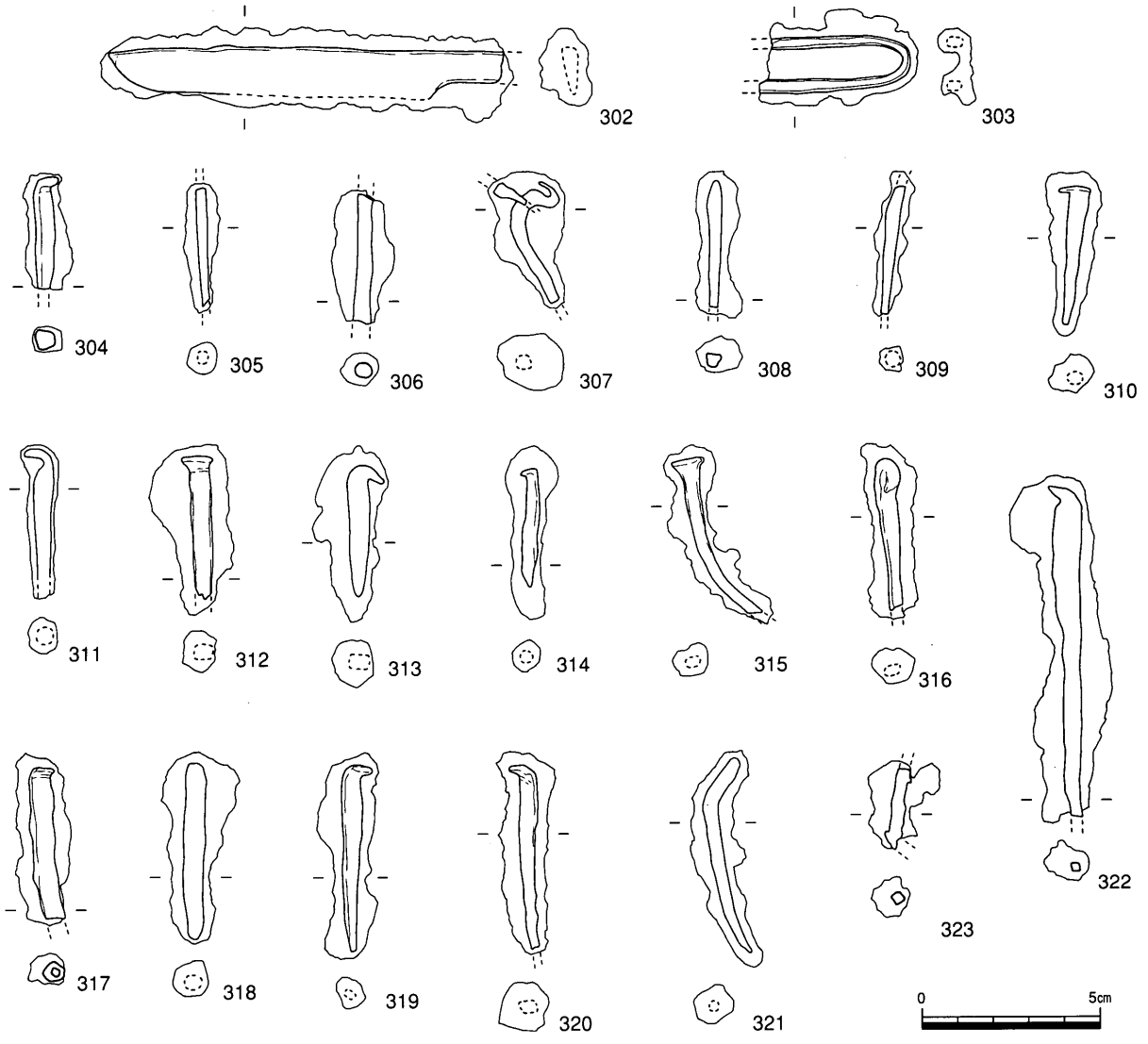
303は柱穴SP115より出土した残存長4.3cmの毛抜きである。先端部を欠損しており全長は不明。基部は緩やかにカーブを描いて折り返している。

304～322は掘立柱建物やその他の柱穴等より出土した鉄釘である。304・307・310・311・313・314・319・320は長さ3.5～5.5cmの完形もしくは完形に近い一群である。基部を一旦平坦に叩き伸ばした後、90°に折り曲げて敲打部を作出する。断面は錆化のため形状不明のものが多いが、角が丸みを帯びた矩形を基本とするようである。322・318などは長さ5.5cm以上の全長が予測される鉄釘である。315・316はSB011の柱穴抜取穴SX004で地鎮祭祀遺構より出土したものである。

324はSX001出土の鞴羽口である。孔径2.0cmで外面に炉に挿入した痕跡が黒斑状に残り、先端部に



第25図　銅製品実測図（S＝1/2・1/1）



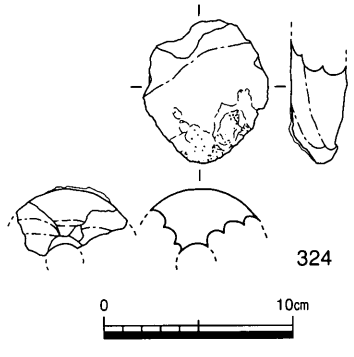
第26図　鉄製品実測図（S＝1/2）

ガラス質の粘土溶解片が貼り付く。

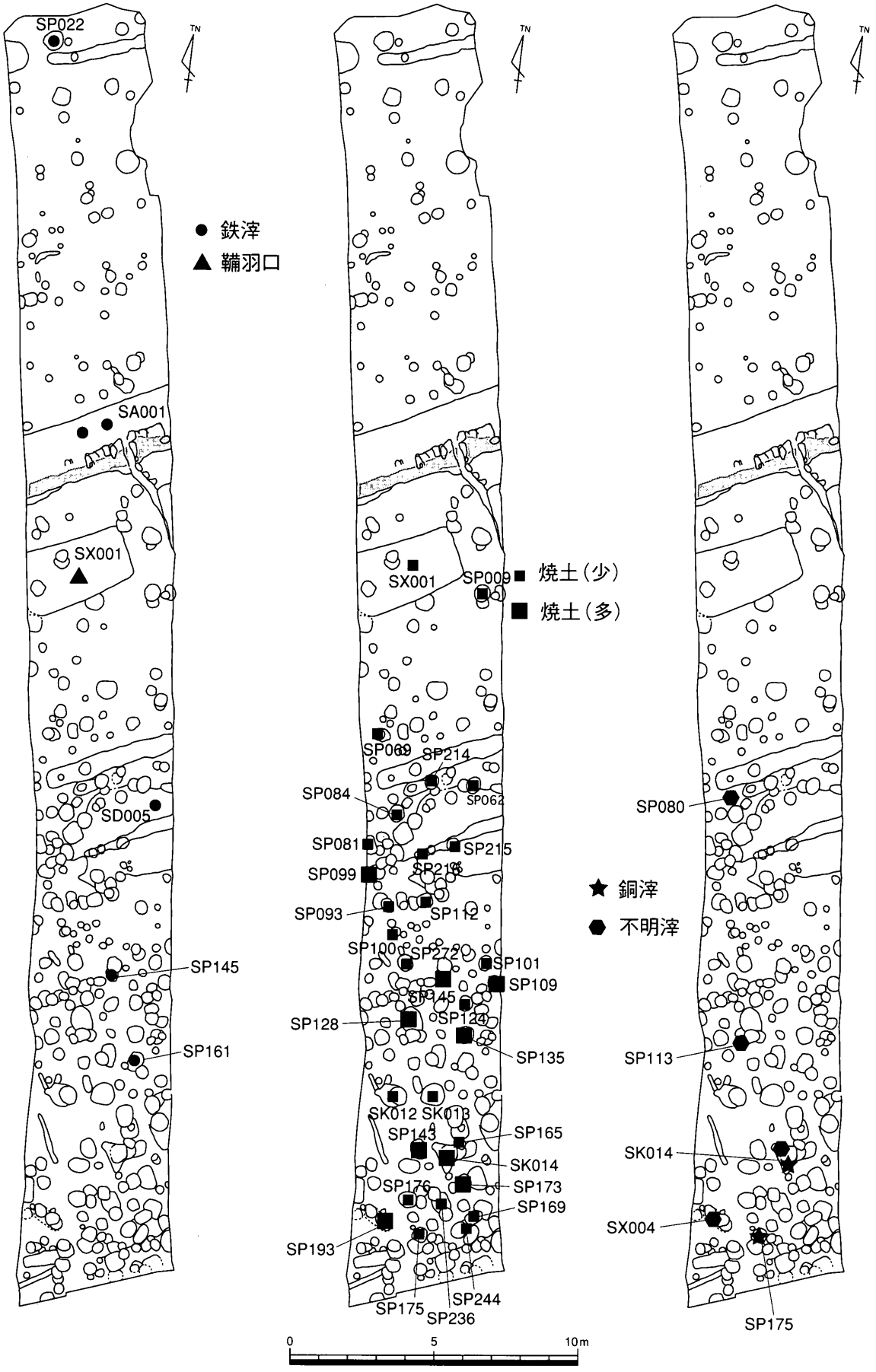
写真図版に示した325～329はⅡ区南側で出土した焼土の一部である。このうち325～327は平坦面をもつもので、表面にきめ細かな別粘土を貼り付けて仕上げている。鋳型の真土に類似するが、鋳面の痕跡は認められない。

330～336は鉄滓である。このうち330は481ｇの大形鉄滓で、下部に湾曲が認められることから椀状鍛冶滓と考えられる。同様に331・332・334も椀状鍛冶滓である。これらの鉄滓はⅠ区南側からⅡ区北側にかけて分布する。

337・338は直径1㎝内外の微細な銅滓である。また339～343はいずれにも区分できない不明滓で、表面がガラス質に変化し、内部に細かな粗い気泡が認められるものである。比重は他の金属滓よりかなり軽い。これらの銅滓・不明滓はⅡ区の南側を中心に分布する。



第27図　鞴羽口実測図（S＝1/4）



第28図　金属器関連遺物分布図（S＝1/200）

番号	種別	出土遺構	長	幅	厚(cm)	重量(g)	形状	色調
330	鉄滓	SA001下層	9.0	8.5	2.5	481	椀状	明黄褐10YR6/8
331		SA001下層	6.0	5.5	1.7	111.84	椀状	明褐7.5YR5/8
332		SA002(SP145)	5.8	4.2	1.4	74.45	椀状	灰白2.5Y7/1
333		SP013	6.2	4.3	1.0	65.22	不定形	明褐7.5YR5/6
334		SB009(SP161)	4.6	3.3	1.1	34.53	椀状	明黄褐10YR6/6
335		SP022	3.3	2.7	1.2	19.04	不定形	黄褐10YR5/6
336		SD005	5.1	3.2	1.3	37.3	不定形	明黄褐10YR6/8
337	銅滓	SB007(SP175)	1.3	1.1	0.7	2.2	不定形	灰白10YR7/1
338		SB010(SK014)	0.9	0.5	0.3	0.18	不定形	黄灰2.5Y5/1
339	不明滓	SB010(SK014)	3.6	2.5	1.7	8.09	不定形	黒褐7.5YR3/1
340		SP113	4.0	2.6	2.3	14.25	不定形	灰N5/
341		SB011(SX004)	3.1	1.7	1.6	7.56	不定形	明赤7.5R3/6
342		SP014	1.7	1.3	1.2	1.08	不定形	黒7.5Y2/1
343		SP080	4.6	2.7	2.3	12.12	不定形	灰白5Y7/2

第2表　鉄滓・銅滓・不明滓一覧表

4．まとめ

今回の発掘調査により、13世紀から14世紀にかけての区画溝や掘立柱建物多数が確認された。調査範囲が南北に細長いため、東西方向の遺構の広がりが不明なものが多く、建物復原等に不確定部を残しているが、現段階における遺構の分布状況の特徴と時期的変遷をここでたどることとする。

(1)遺構分布について

まず注目すべき点はⅠ区の区画溝SA001を介して、その北側と南側の遺構分布密度の差である。南側のⅡ区には200基以上の柱穴が密集し、大小の柱穴が切り合い関係をもつ。Ⅱ区の柱穴はその平面規模が大きいのも特徴で、大きな柱穴は直径1mを越えるものもある。一方で、現道部を介してさらに南側のⅣ区には若干の土坑・柱穴がみられるが、特にその北半部にはまったく遺構が分布しない。柱穴が集中するⅡ区に接して、このような無遺構エリアが存在する点は、上部遺構の可能性を含めて、今後検討していく必要があるものといえる。いずれにしても、Ⅱ区の一定エリアに多数の建物が重複する状況は、遺跡存続期間においての区画内建物配置について、一定の規制が存在した可能性が考えられる。

また、Ⅲ区は従来より土塁・堀跡の可能性が指摘されてきたエリアであるが、Ⅰ区遺構面より40cmほど削平されており、削平時の不整な凹凸が認められたにすぎず、柱穴等の残欠すら見いだせなかった。本来、柱穴が存在しなかった可能性は高いが、とはいえ土塁等を想定するのも現時点では材料が少ない。SD001は柱穴等の遺構の北限に近いので、もし土塁が存在したのであれば内側土端の溝になりうるが、これも根拠が弱い。もっとも、堀の痕跡も見られなかったので、調査区北端の撹乱ライン以北に堀を考えなければならない、という点については、今回明らかになった。

(2)出土土器の時間的変化

遺跡の変遷を検討する上でポイントとなる土器資料は、区画溝SA001の下層（石垣裏込含む）・上層、およびSX001、さらに土器廃棄土坑SX005、掘立柱建物SB011抜取後の祭祀遺構SX004などで

ある。

SA001は下層の土師質土器坏（80など）と上層の同器種（113）において、口径の縮小、底部平坦化・口縁部直線化がみられる。SA001と同時に埋められた可能性が高い方形土坑SX001においてもSA001上層と同様の土器119がみられる。このことから上記変化を時間的変化と考える。また、SA001下層では84・85にみられるように底部が平坦で、口径が大きい割に口縁部が短い一群がある。これらを土器一括投棄資料のSX005の資料と比較すると、上記一群に対応する土器は底部の平坦化が進行していない143・150などがかろうじて抽出できるにすぎず、多くは口縁部が長く、体部下端が丸く整形される坏が圧倒的に多い。一方でSA001下層にも178のような体部下端が丸いものも含まれることから、SA001の下層（最下層含む）時間幅のうち、古相がSX005に対応するものと判断できる。以上により、SX005を指標とする土器群、SA001下層のうちSX005に特徴的な土器を差し引いた土器群、SA001上層及びSX001の土器群に古から新への時間的推移を認め、大堀1期、大堀2期、大堀3期に区分する。

土師質土器小皿は1期と2期で大きな違いはないが、2期には口径が7㎝以下の小さいものが出現する。また3期には口縁部の立ち上がりが極めて短い121・122などが認められる。土師質土器皿（53～58）は3期に新たに出現する器種である。

他地域の土器編年（佐藤 2000）を援用すると、1期は13世紀前半、2期は13世紀後半、3期は14世紀前半に概ね対応するものと考える。

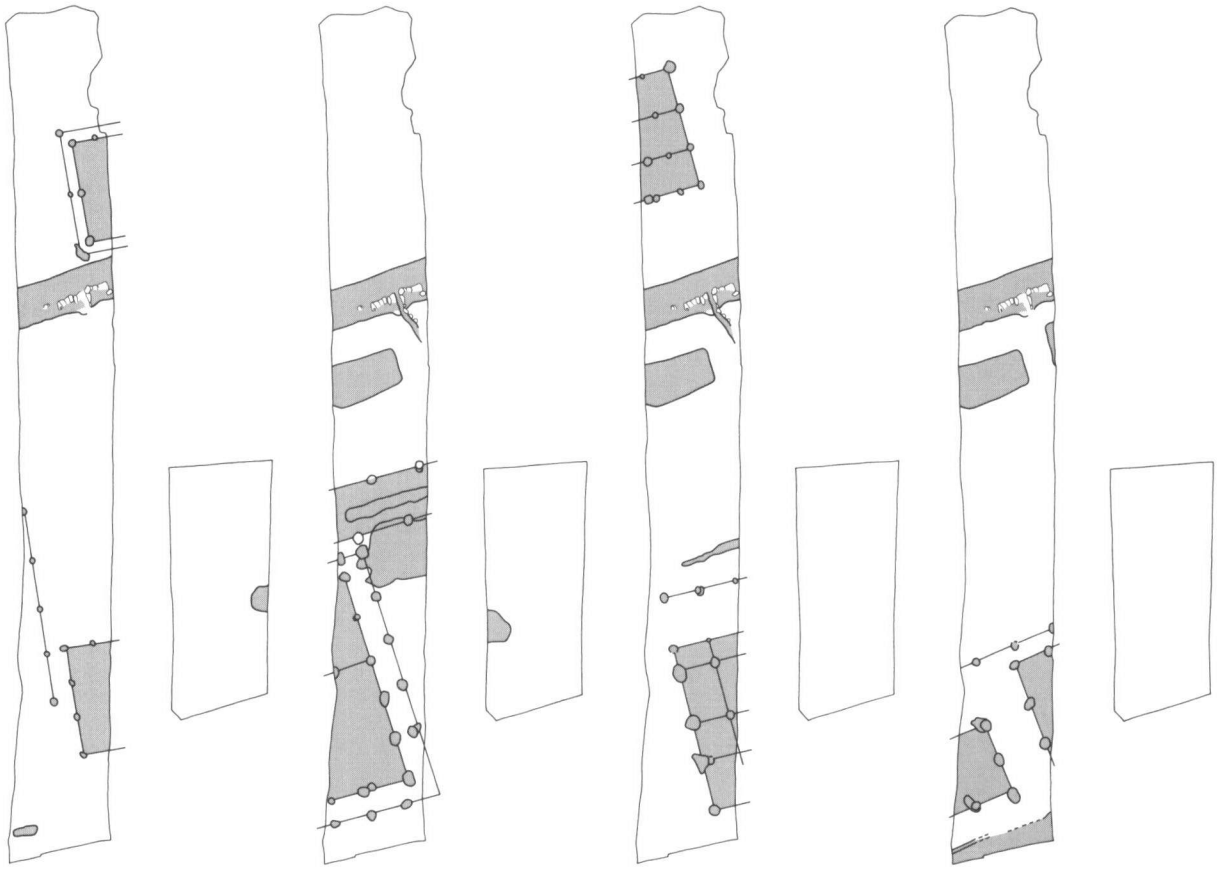
(3)検出遺構の変遷

まず1期の遺構は、区画溝SA001の最下層もしくは下層の初期段階がこれに対応する。建物遺構はSA001直ぐ北のSB002、Ⅱ区のSB008・SA004がある。Ⅱ区南端には土器廃棄土坑SX005がSB008と軸線をそろえて掘削される。Ⅳ区では土坑SK402の埋没はこの時期に始まるものと考えられる。

この段階の建物柱穴は直径が40㎝ほどのものが多く、SX005北側付近には建物が復原できない同様の大きさの柱穴も多いことから、SB008西側にも建物が存在した可能性がある。また、次期のSD005に切られる柱穴もあったことから、SD005と重複してSB008の北側に建物が存在した可能性もある。このことから、集落が開始された1期の段階ですでに建物が本格的に配置されていたことが窺われる。また、柱穴規模がさほど大きくない点は使用柱の抜き取り転用が限られたものであったことを推定させる。

2期は調査区内で全面的に遺構を復原することができた時期である。SA001の下層が機能し、この段階で直ぐ南の方形土坑SX001も掘開されていた可能性が高い。Ⅱ区には南北10ｍを越える大形建物SB007が存在し、それに附属するSA005・SA006およびSD004がある。SD005は出土遺物の大半がこの時期に所属する。Ⅳ区ではSK401出土土器がこの時期まで存続する。

3期は建物SB010・柵列SA003の一群と、建物SB009・SB011・柵列SA002の一群がこの時期に該当するが、両者は平面的に重複する関係にある。このうち、SB011を構成する柱穴抜取穴SX004出土土器は、3期においても最も新相を示す土師質土器皿が出現している。また、SA001上層やSX001は最終埋没層（人為的埋土）にこの時期の土器が含まれることから、SB011（SX004）の地鎮祭祀を含めて調査範囲における最終廃絶時の遺構と見ることができる。したがって、SB011やSB009に先行してSB010の一群が存在したものと考えられ、これを3期（古）（新）に区分する。3期（古）にはSA001より北側のSB001が含まれる。また、3期（新）にはSK008の最終埋没が見られることから、SX001とSK008が同様な機能を有してSA001埋没時に同時に埋めている可能性が高い。



1期　　2期　　3期（古）　　3期（新）

第29図　大堀城跡平成16年度調査区遺構変遷図

⑷特記すべき出土遺物

出土遺物は多くが日常雑器類であったが、一部で金属器生産に関連する遺物が出土した。このうち鉄滓・鞴羽口はⅡ区の北側に分布の中心があり、銅滓・不明滓・焼土についてはⅡ区南側にみられる。また、Ⅱ区南側には、砥石・金銅装飾金具などが分布する。遺構として鍛冶炉や溶解炉あるいは鋳造遺構などを確認できたわけではないが、Ⅱ区南側を中心に銅製品の鋳造、Ⅱ区北側を中心に鉄鍛冶が行われた可能性が高いといえる。県内の同一時期の遺跡では普遍的にこのような鍛冶・鋳造関連遺物が出土しており、この時期に一般的な現象である。

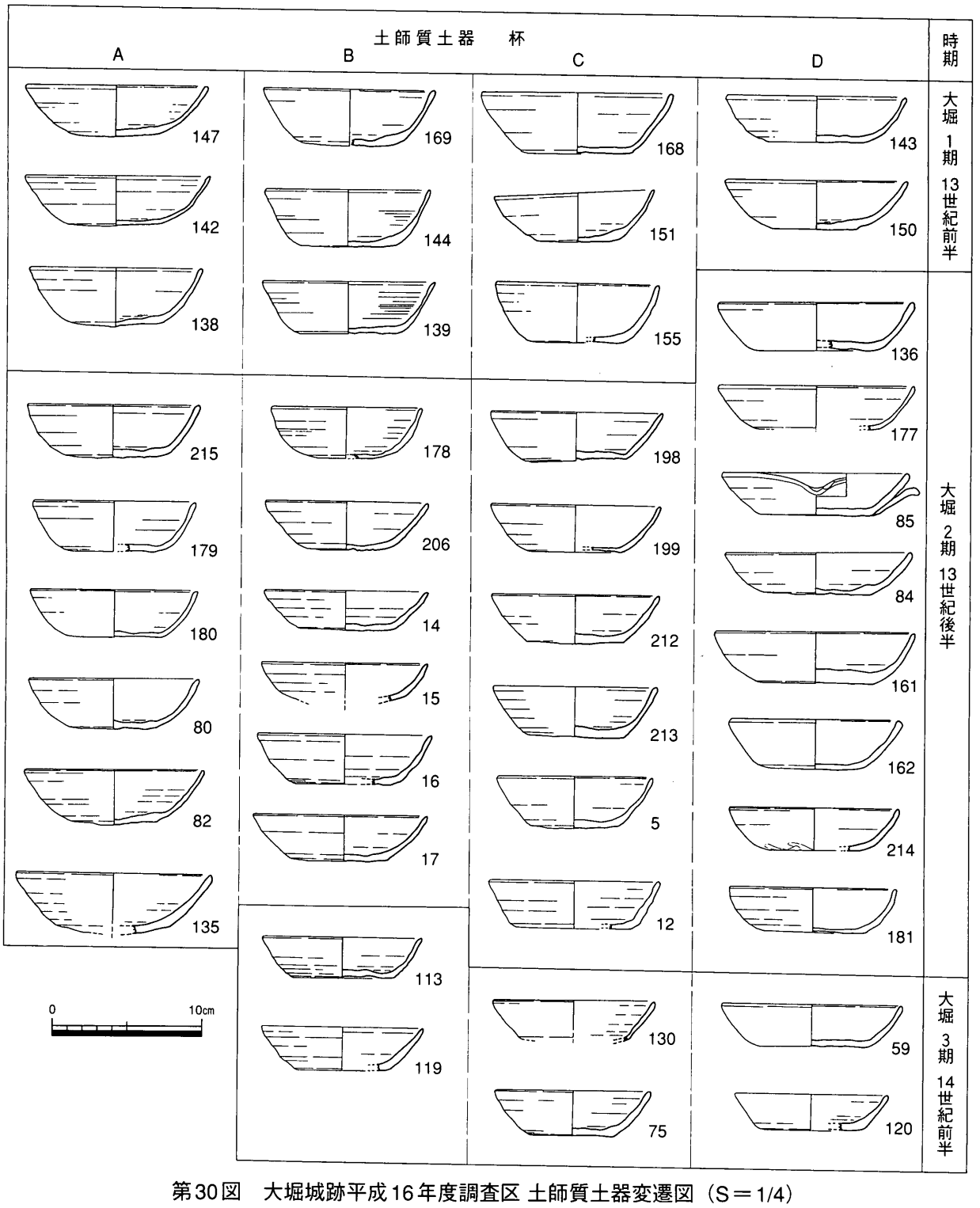
金銅装飾金具は使途は不明だが、接地面は平坦ではなく、隅がせり上がった板状のものが想定できる。調べた限りでは類例はない。また、砥石は少なくとも１つは京都産鳴滝石である。県内では浜ノ町遺跡や空港跡地遺跡で類例があり、国内で最も安定供給がなされた砥石とされる。

また、出土土器のうち陶磁器については青磁椀７点、白磁皿３点、常滑系陶器大甕１点、亀山系須恵器甕２点、十瓶山系須恵器５点、東播系須恵器捏鉢１点がある。備前系須恵器（備前焼）が含まれていないのは、時期的にみて当地域で備前系須恵器が多く搬入されるのが14世紀後半であることから、当遺跡が14世紀後半以前に廃絶（中断）したことを示すものといえる。

(5)香川県下の古代～中世の居館跡（囲郭集落）について

居住域を区画溝で囲まれた中世の宅地を通常「居館」と呼んでいる。このような居館は、古代前半段階においても存在し、条里地割に伴う溝が居住域を取り囲む形状を呈する事例が多い。しかし、古代前半段階ではこのような遺跡は通常「居館」とは呼ばない。

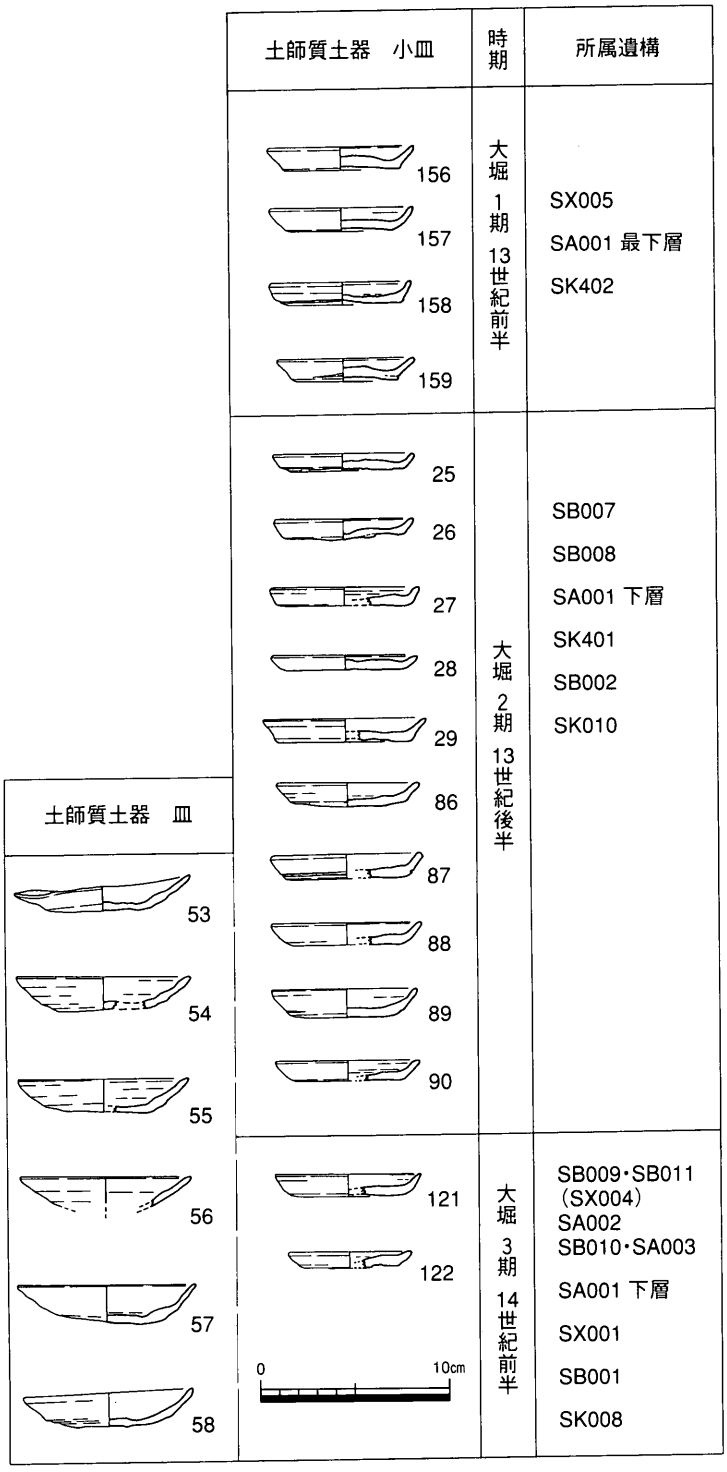
丸亀市郡家原遺跡（山下1993）では、8世紀前半に所属する集落が確認された。ここでは、調査範囲が条里地割の5つの坪に溝によって仕切られ、さらに各坪の内部にそれぞれ8世紀代の掘立柱建物が5～7棟づつ配置され、等質的な宅地が隣接して存在する様相が明らかとなった。この状況は平野に条



第30図　大堀城跡平成16年度調査区 土師質土器変遷図（S＝1/4）

里地割が施工された初期の段階の計画的な宅地配置の例として注目できるが、同じ範囲で9世紀代の掘立柱建物はすでに条里地割と異なった方向をもつものが出現するなど、早くも律令体制の変容が窺われる。

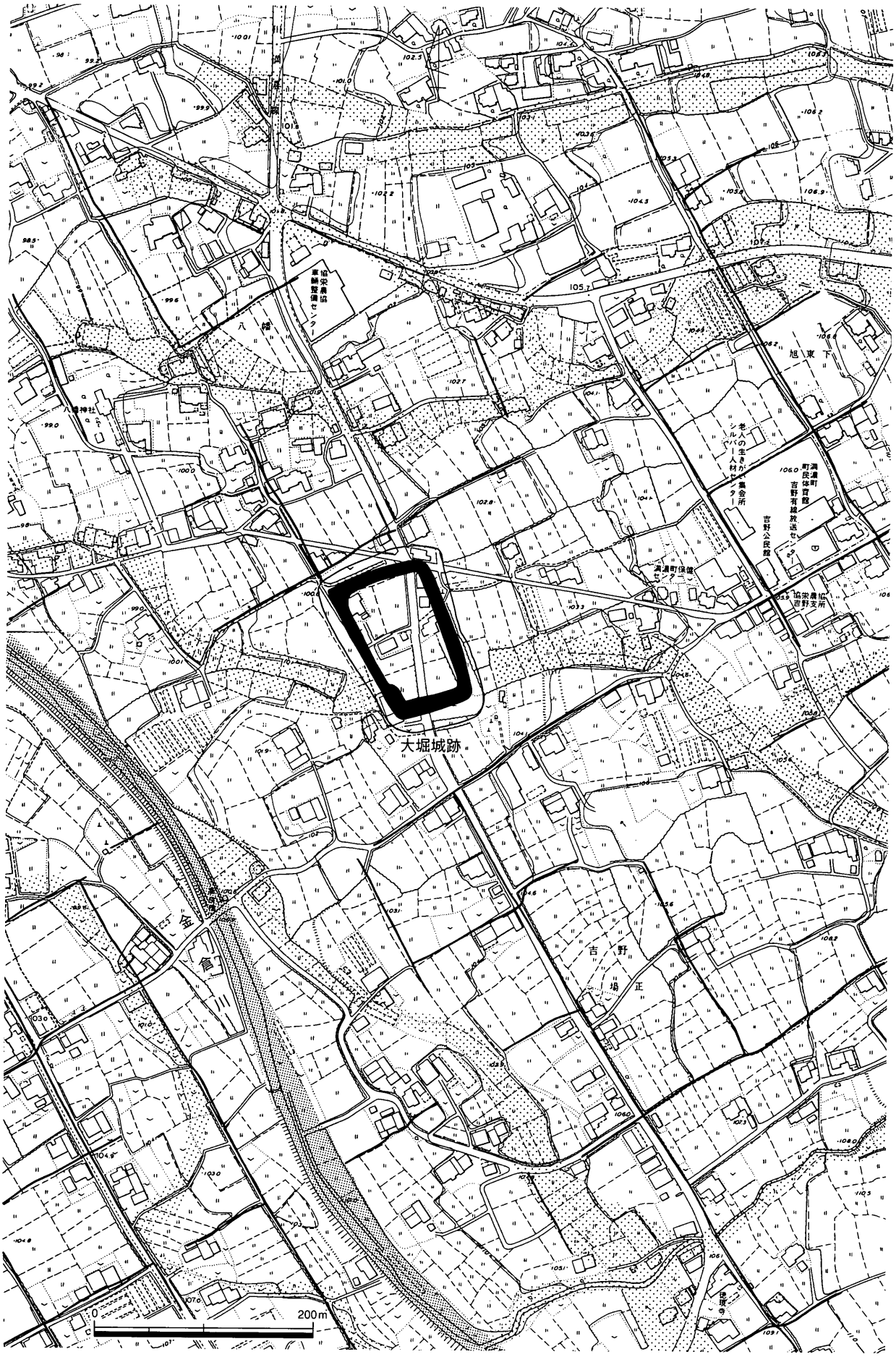
高松市香西西町の西打遺跡（木下2000、山下・信里2002）では、11～12世紀段階、13～14世紀段階の溝で囲まれた屋敷地が存在する。いずれも周辺条里型地割に合致して配置されており、条里型宅地である。ただし、広大な水田域（畑地含む）内に1箇所の宅地があり、そこが用水路ではない区画溝によって仕切られていることから、一般的な「居館」に通じる。



一方、善通寺市永井遺跡（渡部1990）では13世紀ごろの集落がある。東西150mほどのエリアに、掘立柱建物4～6棟で構成される単位が3単位並列する。先の郡家原遺跡の質的宅地の配列に共通する分布状況である。ただし、永井遺跡の場合は周辺条里型地割とは方向性は同じでも、少なくとも南北方向の坪界線と合致しない。古代から施工された方格地割の規制を逸脱しているものである。

従来の条里地割を逸脱したものとしては、高松市空港跡地遺跡（佐藤2000）の13世紀から14世紀前半期集落がある。東西130m、南北110のエリアに用水路と異なる溝が巡り、中央やや北寄りに東西35m、南北50mの宅地エリアを設けたもので、外区画の南北溝は周辺条里型地割の坪境線に一致しない。つまり、条里地割に基づく用水路から一層逸脱する形で区画溝が設定される状況である。

空港跡地遺跡の14世紀後半以後の区画溝も同じく地割りに合致しない。また、ここでは、溝が複数条巡り、一部クランク状に屈曲する形状を呈しており、城館でいう「虎口」状の様相を呈する。同様な例は高瀬町大門遺跡（野中1987）でも屋敷地の南東隅に「虎口」状部分がみられる。また高松市檀紙町八幡遺跡（信里2004）では寺院を取り



第31図　大堀城跡周辺の微地形と条里型地割（S＝1/800）

込んで堀で囲まれた城館が復原されている。ここでは外堀のさらに外に、あたかも堀と無関係のごとく条里地割に伴う用水路が確認されており、条里地割もしくは周辺水利と城館の堀とが独立して設定されている事例である。

このように、古代から中世の宅地・屋敷地・居館・城館とされた遺跡では、条里地割との関係、宅地の単位・密集度、水利との関係性からみて次のように整理できる。

8・9世紀	条里に連動して密集・単独で宅地の配置がある。(郡家原)
13世紀ごろ	新田開発地は新設条里に沿って宅地・屋敷地が設定される（西打）
	旧来の開発地では条里から逸脱する宅地・屋敷地が設定される。(空港跡地・永井)
14世紀後半ごろ	囲郭施設が発達し、城館状の宅地がみられる。(空港跡地・八幡・大門)

(6)大堀城跡の「居館」と「城館」

大堀城跡は堀・土塁が現存する中讃地域を代表する平地式中世城館とされている。現存する堀・土塁の規模は、推定位置を含めて最大で南北約170m、東西110mの範囲である。堀跡は幅8～10mで、周辺田地との比高差は40～50cm。北辺を除く3辺に良好にその痕跡をとどめる。南辺の県道西側には現存する出水があり、周辺田地への水源として今でも使用されている。土塁は最もよく残っている南土塁で、高さ1.5m、幅16～18mを測る。東西土塁はいずれも高さ0.5～0.6m、幅4～5mで、西土塁は現在畦道として利用されている。北側はⅢ区が所在する田地が南側より40cmほど低く、堀跡とも考えられるが、西や北東の堀跡の状況とスムーズには繋がらないことから、一部改変されているものとされてきた。また、今回調査のⅣ区部分は周辺より1m程度高く帯状となっており、香川県中世城館跡詳細分布調査報告（香川県中世城館跡詳細分布調査事業事務局 2003）では、堀による複郭式である可能性が指摘されている。

香川県文書館で保管されている讃岐国女木島岸本家文書中に「那珂郡吉野上村場所免内王堀大手佐古外内共田地絵図」がある。江戸時代に作成されたものとされており、野中寛文氏の詳細な報告がある(野中 1999)。

今回の調査では、土塁で囲まれた内部にさらに石垣を伴う区画溝が確認された。区画溝内部の一定範囲に13世紀から14世紀前半の多数の建物が分布し、多くが重複することから、比較的長期にわたる存続期間を想定すべきである。従来より認められていた土塁や堀が、同時期かどうか確認する材料は見いだせなかったが、前節の各時期の資料のうち、今回の大堀城跡資料に状況が似ているものは、空港跡地遺跡の13世紀ごろの居館であろう。内区画溝の規模は、概ね大堀城跡の石垣を伴う区画溝に一致する。また、内区画の大きさも今回調査を行った区画溝の南の範囲に一致する。問題は、空港跡地の外区画溝が幅3.5～4mの規模に対して、大堀城跡の堀は8～10mである。もっとも、八幡や空港跡地の14世紀後半代の区画溝では幅8～10mの規模の溝・堀が確認されていることから、大堀城跡の現存堀跡も、当初より外区画溝・堀として存在した可能性は否定できない。

一方、城館研究の立場からは大堀城跡は土塁の規模や形状から、16世紀ごろの織豊期の平地式城館である可能性が指摘されている。また、先の絵図に描かれた堀の外側に丁寧な石垣が描かれていることから、当初より貯水を目的とした施設の可能性も考えられる点である。これは、歴史地理学の立場からも堀南側に現存する出水が周辺水利に重要な役割を果たしていた可能性が指摘されている。

以上のように、現段階では現存する堀・土塁部分が今回調査を行った13～14世紀の居館に伴うもの

か、否か、いずれとも考えられる状況にある。今後の発掘調査等によって、特に堀・土塁のデータが得られる必要がある。

中世前半段階の堀が江戸時代まで継続した可能性がある事例として、高松市伏石町のキモンドー遺跡がある。ここでは、方一町の敷地をもつ方形館と言われる「佐藤城」の南東隅部分の発掘調査により、南北方向および東西方向に延びる幅4mほどの堀跡が明らかとなった。堀跡の両岸には2段ほどの石垣が残存する。佐藤城は文献上の佐藤氏の居館と考えられ、築城は14～15世紀にさかのぼる可能性があるが、堀跡の調査でも、居城築城当初から石垣が築かれたかどうかは、定かになっていない。

大堀城跡においても、江戸期において堀や土塁が改変を経ながら継続していることが、絵図から判明することから、今後の堀跡の調査においても、判断は困難を伴う可能性が高い。土塁や堀のみの調査ではなく、内部の他の場所に14世紀後半以後の宅地部分が存在しないかどうか、などを含めて、総合的に遺跡内容を検討する必要があるものといえる。

参考文献

梅原 末治　1927『銅鐸の研究』木耳社

大久保 徹也　1997「吉野下秀石遺跡の発掘調査」『国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 平成8年度』香川県教育委員会・㈶香川県埋蔵文化財調査センター

岡 敦憲・平田 友彦　1996『樫林清源寺1号墳・樫林清源寺2号墳・天神七ツ塚7号墳』満濃町教育委員会

香川県中世城館跡詳細分布調査事業事務局　2003「大堀城跡」『香川県中世城館跡詳細分布調査報告』香川県教育委員会

片桐 節子　1997『町代遺跡・町代2号墳』満濃町教育委員会

片桐 節子　1994「大堀城跡」『香川県埋蔵文化財調査年報 平成5年度』香川県教育委員会

北山 健一郎　1993「弘安寺跡」『香川県埋蔵文化財調査年報 平成4年度』

木下 晴一　2000『西打遺跡Ⅰ』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター　2003『いにしえの讃岐　第39号』　財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

佐藤 竜馬　2000「高松平野と周辺地域における中世土器の編年」『空港跡地遺跡Ⅳ』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター・香川県土地開発公社

佐藤 竜馬　2000『空港跡地遺跡跡地遺跡Ⅳ』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター・香川県土地開発公社

中西 昇　1988『県道府中・琴南線改良工事に伴う備中地遺跡発掘調査報告書－付・中寺廃寺確認調査概報－』琴南町教育委員会

野中 寛文　1999「田地絵図は館跡絵図」『香川県立文書館紀要 第3号』香川県立文書館

野中 寛文　1987「大門遺跡」『大門遺跡・矢ノ岡遺跡・利生寺遺跡・利生寺古墳・北条遺跡・道免窯跡』香川県教育委員会

信里 芳紀　2001「羽間遺跡」『国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 平成12年度』㈶香川県埋蔵文化財調査センター

信里 芳紀　2004「八幡遺跡」『中間東井坪遺跡・正箱遺跡・八幡遺跡』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団

真鍋 昌宏　2004『買田岡下遺跡』

満濃町　1975『満濃町史』満濃町

森下 英治　1995「大堀城跡」『香川県埋蔵文化財調査年報 平成6年度』香川県教育委員会

山下 平重　1993『郡家原遺跡』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団

山下 平重・信里 芳紀　2002『西打遺跡Ⅱ』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

山本 信夫　2000『太宰府条坊跡XV　－陶磁器分類編－』太宰府市教育委員会

横田 賢次郎・森田 勉　1978「太宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集4』

渡部 明夫　1990『永井遺跡』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団

番号	写真図版	遺構名	層位・柱穴番号	器種	口径	器高	底径	外面調整	内面調整	底部調整	胎土	焼成	色調		備考
1		SB001	SP004	土師質土器坏	－	－	－	回転ナデ	回転ナデ	－	密(0.5mm以下の砂粒含む)	良好	灰白	7.5YR8/1	
2		SB001	SP004	亀山系須恵器甕	－	－	－	格子目叩き	指押さえ、回転ナデ	－	密(砂粒なし)	堅緻	褐灰	5YR5/1	
3		SB001	SP004	土師質土器小皿	－	－	－	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	密(0.5mm以下の砂粒含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4	
4		SB002	SP009	土師質土器小皿	7.7	1.1	6.5	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	密	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	
5		SB010	SK013	土師質土器坏	10.2	3.5	5.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(0.5～2mmの砂粒含む)	良好	灰白	7.5YR8/1	
6		SB010	SP128	土師質土器坏	14.1	－	－	回転ナデ	回転ナデ	－	密(1mm以下の砂粒含む)	良好	灰白	10YR8/2	
7	27	SB010	SK014	十瓶山系須恵器椀	－	－	－	回転ナデ	回転ナデ	－	密(1mm以下の砂粒少量含む)	良好	灰白	10YR8/1	
8		SB010	SK013	土師質土器小皿	7.3	1.1	5.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(0.5～2mmの砂粒含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3	
9		SB010	SK014	中国産白磁皿	12.5	－	－	－	－	－	密(0.5mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白 釉:明緑灰	5Y8/1 釉:7.5GY8/1	
10		SB010	SK013	土師質土器椀	－	－	5.6	回転ナデ	回転ナデ	－	密(1mm以下の砂粒含む)	良好	にぶい橙	7.5YR7/3	
11		SB010	SK014	土師質土器羽釜	直径2.3	－	－	－	－	－	密(0.5～3mmの砂粒多く含む)	堅緻	橙	7.5YR7/6	
12		SA003	SP093	土師質土器坏	11.2	3.1	7.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り(摩滅)	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/4	SP090を切ることが判明
13		SB007	SP112	土師質土器坏	10.7	3.2	6.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(1mm以下の砂粒含む)	良好	灰白	7.5YR8/1	
14		SB007	SX003	土師質土器坏	10.7	2.6	6.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	やや粗(2mm以下の砂粒及び10mm以下の白色赤色粘土粒含む)	良好	淡橙	5YR8/3	
15		SB007	SP142	土師質土器坏	11.0	－	－	回転ナデ	回転ナデ	－	密(0.5mm以下の砂粒少量含む)	良好	明褐灰	7.5YR7/1	
16		SB007	SP135	土師質土器坏	11.5	3.3	6.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(1mm以下の砂粒含む)	良好	灰白	7.5YR8/1	
17		SB007	SX003	土師質土器坏	11.6	3.1	6.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(0.5mm以下の砂粒わずかに含む)	良好	明褐灰	7.5YR7/1	
18		SB007	SP083	和泉型瓦器椀	14.2	－	－	回転ナデ	回転ナデ	－	密(1mm以下の砂粒わずかに含む)	堅緻	灰	N4/	
19		SB007	SP112	和泉型瓦器椀	15.0	－	－	回転ナデ	回転ナデ	－	密、精良	堅緻	灰	N5/	暗文による凹みがやや強い
20		SB007	SP172	土師質土器小皿	6.0	0.9	5.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	淡黄	2.5Y8/3	
21		SB007	SP099	土師質土器小皿	6.8	1.1	6.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(0.5mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3	
22		SB007	SP175	土師質土器小皿	6.2	1.1	4.8	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	やや密(1mm以下の砂粒を普通含む、2.5mm以下の白色粘土粒を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4	
23		SB007	SP172	土師質土器小皿	7.0	1.1	6.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(0.5～1.5mmの砂粒、2mm程度の白色粘土粒を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4	
24		SB007	SP112	土師質土器小皿	7.0	1.0	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	やや粗(3mm以下の砂粒多く含む)	良好	灰白	7.5YR8/2	
25		SB007	SP083	土師質土器小皿	7.2	0.9	6.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(0.5mm以下の砂粒含む)	良好	灰白	7.5YR8/2	
26		SB007	SP083	土師質土器小皿	7.2	1.1	6.3	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	密(1mm以下の砂粒少量含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	
27		SB007	SP107	土師質土器小皿	7.8	0.9	7.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	やや密(2mm以下の砂粒を普通含む、1.5mm以下の白色粘土粒を含む)	良好	橙	7.5YR7/6	
28		SB007	SP112	土師質土器小皿	7.4	0.7	6.2	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	密(1mm以下の砂粒少量含む)	良好	灰白	7.5YR8/2	
29		SB007	SP159	土師質土器小皿	8.6	1.2	7.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密、精良(0.5mm以下の砂粒わずかに含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	
30		SB007	SP121	土師質土器小皿	7.6	1.4	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(1mm以下の砂粒含む)	良好	灰白	7.5YR8/2	
31		SB007	SP083	土師質土器小皿	7.9	1.3	5.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	やや粗(2mm以下の砂粒多く含む)	やや軟	にぶい橙	5YR7/4	外面ほぼ全面黒斑
32		SB007	SP142	土師質土器小皿	7.8	1.7	6.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(0.5mm以下の砂粒3mm以下の白色粘土粒含む)	良好	灰白	7.5YR8/2	内外面の一部に黒斑あり、内面に黒褐色付着物あり
33		SB007	SP193	須恵器椀	－	－	4.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後貼り付け高台	密(0.5mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	N7/	
34		SB007	SP175	土師質土器椀	－	－	4.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後貼り付け高台	やや粗(1.5mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/2	貼り付け高台
35		SA005	SP084	土師質土器小皿	8.0	1.1	7.1	回転ナデ(摩滅)	回転ナデ(摩滅)	ヘラ切り(摩滅)	やや密(2mm以下の砂粒を含む)	良	浅黄橙	7.5YR8/3	
36		SA005	SP062	土師質土器小皿	7.2	0.8	5.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	淡橙	5YR8/3	
37		SA005	SP062	土師質土器小皿	7.0	0.7	6.0	回転ナデ(摩滅)	回転ナデ(摩滅)	ヘラ切り(摩滅)	やや粗(2mm以下の砂粒を含む)	良好	淡橙	5YR8/4	
38		SB007	SP256	中国産龍泉窯系青磁椀	－	－	4.2	－	－	回転ナデ	密、精良	堅緻	浅黄	7.5Y7/3	
39		SB007	SP159	土師質土器捏鉢	－	－	－	－	－	－	密(1～3mmの砂粒少量含む)	堅緻	灰白	7.5YR8/2	
40		SD004		須恵器坏蓋	－	－	－	回転ナデ	回転ナデ	－	密(0.2mm以下の砂粒を含む)	良好	明オリーブ灰	2.5GY7/1	
41		SD004		土師質土器小皿	7.9	1.3	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後板ナデ圧痕	粗(2.5mm以下の砂粒多く含む)	良好	淡黄	2.5Y8/3	
42		SD004		土師質土器小皿	6.4	1.0	5.0	回転ナデ	回転ナデ	糸切り後ナデ	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	
43		SD004		土師質土器小皿	6.4	1.0	4.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(1mm以下の砂粒含む)	良好	灰白	10YR8/1	
44		SD004		黒色土器椀	13.6	－	－	回転ナデ	回転ナデ	－	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	黒褐	10YR3/1	

第3表　大堀城跡平成16年度調査区 出土遺物観察表(1)

番号	写真図版	遺構名	層位・柱穴番号	器種	口径	器高	底径	外面調整	内面調整	底部調整	胎土	焼成	色調		備考
45		SB008	SP165	土師質土器小皿	8.0	1.1	6.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(0.5～1㎜の砂粒を含む、3㎜程度の白色粘土粒を含む)	良好	にぶい橙	7.5YR7/4	
46		SA004	SP144	土師質土器小皿	6.9	1.4	4.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(0.5㎜以下の砂粒含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4	
47		SA004	SP144	土師質土器小皿	7.0	1.1	5.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(1㎜以下の砂粒含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4	内外面に赤塗痕跡あり
48		SA004	SP144	土師質土器小皿	6.9	1.4	6.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(0.5～2㎜の砂粒多く含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	
53	22	SB011	SX004	土師質土器皿	9.4	1.2	5.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後板状圧痕後ナデ	密(1㎜以下の砂粒、白色粘土、赤色粒含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	土師器 No.5
54	22	SB011	SX004	土師質土器皿	9.1	1.7	4.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや密(白色粘土粒含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	土師器 No.4
55	22	SB011	SX004	土師質土器皿	8.8	1.7	4.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	やや密(白色粘土粒含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3	土師器 No.1
56	22	SB011	SX004	土師質土器皿	8.9	－	－	回転ナデ	回転ナデ	－	密(1㎜以下の砂粒含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	土師器 No.6
57	22	SB011	SX004	土師質土器皿	9.4	1.9	5.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(1㎜以下の砂粒含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	土師器 No.2
58	22	SB011	SX004	土師質土器皿	8.3	1.7	3.6	回転ナデ	回転ナデ	板状圧痕	やや粗(0.3～1㎜の砂粒含む)	良好	浅黄橙	10YR8/4	土師器 No.3
59		SB011	SK012	土師質土器坏	11.7	3.0	7.1	回転ナデ	不定方向ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(2㎜以下の砂粒少量含む)	良好	灰白	10YR8/2	
60		SB011	SP111	土師質土器小皿	6.6	1.0	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(0.5㎜以下の砂粒含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	内面に赤塗あり
61		SB011	SK012	土師質土器小皿	7.8	1.0	6.0	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	密(1㎜以下の砂粒含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	
62		SB011	SP143	土師質土器小皿	6.1	0.9	4.3	回転ナデ	不定方向ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(1～2㎜程度 Max 3㎜の砂粒含む)	良好	褐灰	10YR5/1	
63		SB011	SP143	土師質土器小皿	6.8	1.2	4.9	回転ナデ	不定方向ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(3㎜の砂粒少量含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	
64	26	SB011	SP111	東播系須恵器捏鉢	28.0	－	－	回転ナデ	回転ナデ後不整ナデ	－	密(1㎜以下の砂粒含む)	良好	灰白	10YR8/1	口縁部外面に黒斑あり
65		SB011	SP111	土師質土器椀	－	－	4.8	不定方向ナデ	ナデ	不定方向ナデ	密(1㎜以下の砂粒少量含む)	良好	灰白	10YR8/1	貼り付け高台
66		SB009	SP109	黒色土器椀	16.3	3.8	－	回転ナデ	回転ナデ	－	密(0.5～3㎜の砂粒多く含む)	良好	黒	2.5Y2/1	
67		SB009	SP161	土師質土器椀	16.0	－	－	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(1㎜以下の砂粒含む)	良好	褐灰	7.5YR6/1	
68		SB009	SP225	土師質土器小皿	6.8	1.0	4.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや粗(0.3～1㎜の砂粒を含む)	良好	にぶい橙	7.5YR7/4	
69		SB009	SP225	土師質土器小皿	7.0	1.1	5.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(1.5㎜以下の砂粒を含む)	良好	橙	7.5YR7/6	
70		SB009	SP109	土師質土器小皿	7.2	1.1	6.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り未調整	密(2㎜以下の砂粒多い)	良好	灰白	7.5YR8/2	内外面に黒斑あり
71		SB009	SP161	土師質土器小皿	7.1	1.3	5.2	回転ナデ	ナデ、指押さえ	回転ヘラ切り後ナデ	密(1㎜以下の砂粒少量含む)	堅緻	にぶい橙	7.5YR7/3	
72		SB009	SP157	土師質土器小皿	7.8	1.1	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(0.5～2㎜の砂粒含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4	
73		SB009	SP161	土師質土器小皿	7.0	1.4	4.6	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	密(2㎜以下の砂粒含む)	良好	灰褐	7.5YR6/2	
74		SB009	SP225	土師質土器羽釜	直径 3.0	－	－	－	－	－	密(5㎜以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/4	
75		SA002	SP145	土師質土器坏	10.0	3.0	5.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(1㎜以下の砂粒含む)	良好	灰白	7.5YR8/2	口縁部内外面に黒斑あり
76		SB006	SP141	土師質土器小皿	7.2	1.1	5.8	回転ナデ	回転ナデ	摩滅	やや粗(0.5～2㎜の砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/2	
77		SB006	SP141	土師質土器小皿	6.9	1.1	5.6	－	－	－	やや粗(0.5～3㎜の砂粒を含む)	軟	にぶい黄橙	10YR7/4	
78		SA001	最下層	黒色土器椀	13.9	－	－	回転ナデ	回転ナデ	－	密(3㎜以下の砂粒含む)	良好	灰白	10YR8/1	
79		SA001	最下層	黒色土器椀	－	－	－	回転ナデ	回転ナデ	－	密(1㎜以下の砂粒含む)	良好	褐灰	10YR5/1	
80		SA001	下層	土師質土器坏	11.2	3.3	5.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(1㎜以下の砂粒、微細な赤色粒含む)	良好	灰白	10YR8/1	
81		SA001	下層	土師質土器坏	11.3	3.2	6.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り、板状圧痕	密(2㎜以下の砂粒含む)	良好	淡黄	2.5Y8/3	
82		SA001	下層	土師質土器坏	11.8	3.7	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(1㎜以下の砂粒含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3	
83		SA001	下層	土師質土器坏	12.5	3.3	7.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(2㎜以下の砂粒、粘土粒含む)	良好	灰白	10YR8/2	
84		SA001	下層	土師質土器坏	12.3	2.8	7.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(1㎜以下の砂粒含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	内外面に赤色顔料残る
85		SA001	下層	土師質土器坏	12.3	2.8	7.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	粗(0.5～4㎜の砂粒含む)	良好	浅黄橙	10YR8/4	
86		SA001	下層	土師質土器小皿	7.3	1.3	5.9	回転ナデ	回転ナデ	不明	やや粗(3㎜以下の砂粒含む)	良好	灰白	2.5Y8/2	
87		SA001	下層	土師質土器小皿	7.7	1.3	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(1㎜以下の砂粒含む)	良好	灰白	7.5YR8/2	
88		SA001	下層	土師質土器小皿	7.8	1.2	5.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(1㎜の砂粒、白色粘土粒含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	
89		SA001	下層	土師質土器小皿	7.5	1.5	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(3㎜の砂粒、白色粘土粒、赤色粘土粒含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4	
90		SA001	下層	土師質土器小皿	7.5	1.1	5.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや密(0.3～3㎜の砂粒、赤色粒含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	
91		SA001	下層	土師質土器椀	11.2	3.7	3.6	回転ナデ	回転ナデ	－	密(4㎜以下の砂粒含む)	良好			貼り付け高台
92		SA001	下層	土師質土器椀	－	－	4.3	回転ナデ	回転ナデ	－	密(2㎜以下の砂粒少量含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3	貼り付け高台

第4表　大堀城跡平成16年度調査区 出土遺物観察表(2)

番号	写真図版	遺構名	層位・柱穴番号	器種	口径	器高	底径	外面調整	内面調整	底部調整	胎土	焼成	色調		備考
93		SA001	下層	須恵器椀	11.6	4.7	6.3	回転ナデ	不整方向ナデ	ヘラ切り	密(0.5mm以下の砂粒少量含む)	堅緻	灰白	2.5Y8/1	貼り付け高台
94		SA001	下層	須恵器椀	12.7	4.1	7.0	回転ナデ	不整方向ナデ	−	密(1mm以下の砂粒含む)	堅緻	灰白	N7/	高台がつくものと思われる
95		SA001	下層	須恵器壺	−	−	10.1	回転ナデ	回転ナデ	−	密(1mm以下の砂粒含む)	堅緻	灰	N4/	
96	25	SA001	下層	中国産龍泉窯系青磁碗	10.1	4.3	3.5	−	−	削出高台	密(0.1mm以下の砂粒を含む)	良好	釉：灰	10Y6/1	
97	25	SA001	下層	中国産龍泉窯系青磁碗	−	−	4.9	−	−	削出高台	密(0.5mm以下の砂粒を含む)	良好	灰釉：オリーブ灰	5Y6/1 釉：10Y5/2	
98		SA001	下層	土師質土器捏鉢	27.1	−	−	−	−	−	やや密	良好	灰白	7.5YR8/1	
99		SA001	下層	須恵器捏鉢	−	−	−	−	−	−	密(0.5mm以下の砂粒少量含む)	良好	灰白	2.5Y8/1	
100		SA001	下層	土師質土器羽釜	17.4	−	−	−	−	−	やや密(2mm以下の砂粒含む)	良好	灰黄	2.5Y7/2	
101		SA001	下層	土師質土器羽釜	16.5	−	−	−	−	−	やや粗(0.5～4mmの砂粒、黒色粒含む)	良好	にぶい黄褐	10YR5/3	外面に煤付着
102		SA001	下層	土師質土器羽釜	20.0	−	−	−	−	−	やや粗(1～5mmの砂粒含む)	良好	にぶい黄橙	10YR7/4	
103		SA001	下層	土師質土器羽釜	19.6	−	−	−	−	−	密(1mm以下の砂粒含む)	良好	浅黄橙	10YR8/4	
104		SA001	下層	土師質土器羽釜	21.1	−	−	−	−	−	やや密(0.5～2mmの砂粒含む、0.5～1mmの赤色粒含む)	良好	淡橙	5YR8/3	
105		SA001	下層	土師質土器羽釜	直径2.1	−	−	回転ナデ	−	−	やや粗	良	にぶい橙	7.5YR7/4	
106		SA001	石垣裏込土中	十瓶山系須恵器甕	−	−	−	叩き後ナデ	ナデ	ナデ	密(0.5mm以下の砂粒少量含む)	良好	灰白	N7/0	
107	27	SA001	石垣裏込土中	十瓶山系須恵器鉢	23.0	7.2	17.4	回転ナデ、手持ちケズリ	回転ナデ	−	やや密(2mm以下の砂粒含む)	軟質	灰白	10YR8/1	
108		SA001	石垣裏込土中	十瓶山系須恵器甕	−	−	17.3	格子目叩き	ナデ、摩滅	−	密	軟	灰白	10YR8/1	
109		SA001	石垣裏込土中	土師質土器土鍋	48.6	−	−	−	−	−	やや粗(0.6mm以下の砂粒普通含む)	良好	にぶい褐	7.5YR5/4	
110		SA001	石垣裏込土中	土師質土器羽釜	19.8	−	−	−	−	−	密(2.5mm以下の砂粒多い)	良好	橙	7.5YR7/6	
111		SA001	石垣裏込土中	土師質土器羽釜	24.2	−	−	2条沈線	−	−	密(3mm以下の砂粒普通含む)	良好	にぶい黄橙	10YR6/3	
112		SA001	石垣裏込土中	須恵器坏	−	−	9.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(2mm以下の砂粒微量含む)	不良	灰白	N8/0	
113		SA001	上層	土師質土器坏	10.5	2.8	6.8	−	−	ヘラ切り	密(0.5mm以下の砂粒含む)	良好	灰白	10YR8/2	
114		SA001	上層	十瓶山系須恵器甕	−	−	−	叩き	−	未調整	密(1mm以下の砂粒含む)	堅緻	灰	N5/0	工具痕あり
115		SA001	上層	亀山系須恵器甕	−	−	−	格子目叩き	−	−	やや密(0.5～2mmの砂粒含む)	良好	褐灰	10YR4/1	
116		SD003		土師質土器小皿	6.0	1.2	5.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(1mm以下の砂粒含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3	
117		SD003		土師質土器小皿	8.1	1.1	5.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや粗(0.3～2mmの砂粒含む)	良好	橙	5YR6/6	
118		SD003		土師質土器羽釜	−	−	−	摩滅	摩滅	−	粗(4mm以下の砂粒普通含む)	良好	灰白	10YR8/2	
119		SX001		土師質土器坏	10.7	2.9	6.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後板状圧痕	密(1mm以下の砂粒、白色粘土粒含む)	良好	淡橙	5YR8/3	
120		SX001		土師質土器坏	10.0	2.4	7.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(2mm以下の赤色粒、白色粘土粒含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3	
121		SX001		土師質土器小皿	7.6	1.2	6.4	回転ナデ	回転ナデ	−	やや粗(0.5～2mmの砂粒含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	
122		SX001		土師質土器小皿	6.3	0.9	5.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや密(0.5～2mmの砂粒と赤色粒含む)	良好	灰白	2.5Y8/2	
123		SX001		須恵器椀	−	−	−	−	−	−	堅緻(0.5～1mmの砂粒含む)	良好	灰白	N7/0	
124		SX001		須恵器椀	−	−	4.6	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	密(1～3mmの砂粒含む)	良好	灰白	10YR8/1	貼り付け高台
125		SX001		土師質土器羽釜	−	−	−	−	−	−	やや粗(0.5～2mmの砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/2	
126	26	SX001		常滑系陶器大甕	−	−	−	−	−	−	緻密(0.5～2mmの砂粒極わずかに含む)	良	灰赤 釉:暗オリーブ	2.5YR5/2 釉:7.5Y4/3	底部内面に有機物、砂釉着
127		SX001		須恵器捏鉢	27.7	−	−	回転ナデ	回転ナデ	−	堅緻(5mm以下の砂粒含む)	堅緻	灰白	10YR8/1	
128		SX001		須恵器坏	−	−	9.4	−	回転ナデ	回転ケズリ後回転ナデ	やや密(2mm以下の砂粒微量含む)	堅緻	灰白	N8/0	
129		SX001		須恵器坏	−	−	−	回転ナデ	回転ナデ	−	堅緻(0.5～1mmの砂粒含む)	良好	灰白	5Y8/1	
130		SK008		土師質土器坏	10.7	−	−	回転ナデ	回転ナデ	−	やや密(0.3～2mmの砂粒、赤色粒を含む)	良好	灰白	10YR8/2	
131		SK008		土師質土器小皿	7.7	1.3	5.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	やや密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	淡黄	2.5Y8/3	
132		SK008		土師質土器小皿	7.3	1.1	6.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(0.3～1mm以下の砂粒、赤色粒を含む)	良好	灰白	10YR8/2	
133		SK008		土師質土器小皿	6.5	1.0	5.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後板状圧痕	密(0.2～1.5mm以下の砂粒を含む)	良好	淡黄	2.5Y8/3	内面に褐色付着物
134		SK008		土師質土器土鍋	−	−	−	回転ナデ	回転ナデ	−	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	7.5YR8/1	
135		SK010		土師質土器坏	12.9	−	−	回転ナデ(摩滅)	回転ナデ(摩滅)	−	やや密(1.5mm以下の砂粒を多量含む)	良好	灰白	10YR8/1	
136		SK010		土師質土器坏	12.7	3.1	8.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後板状圧痕	やや密(0.5～2mmの砂粒、3～4mmの白色粘土粒を含む)	良好	灰白	2.5Y8/2	

第5表　大堀城跡平成16年度調査区 出土遺物観察表(3)

番号	写真図版	遺構名	層位・柱穴番号	器種	口径	器高	底径	外面調整	内面調整	底部調整	胎土	焼成	色調		備考
137		SX005		土師質土器坏	11.6	3.7	6.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(0.5～2㎜の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4	
138		SX005		土師質土器坏	11.3	3.9	6.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(0.5～3㎜の砂粒含む)	良好	にぶい橙	7.5YR7/3	
139		SX005		土師質土器坏	11.4	3.4	6.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや粗(0.3～3㎜の砂粒、赤色粒含む)	不良	浅黄橙	7.5YR8/3	
140		SX005		土師質土器坏	11.1	3.5	7.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(1㎜以下の砂粒普通含む,2㎜以下の白色粘土少量含む)	良好	にぶい橙	7.5YR7/4	
141		SX005		土師質土器坏	11.1	3.6	6.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや密(0.5㎜以下の砂流含む)	良	浅黄橙	10YR8/4	
142		SX005		土師質土器坏	12.1	3.3	6.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(3㎜以下の砂粒、赤色粒含む)	良好	灰白	10YR8/2	
143		SX005		土師質土器坏	11.8	3.0	6.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後調整あり	密(0.5～2㎜の砂粒、3㎜の白色粘土粒含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	
144		SX005		土師質土器坏	10.8	3.7	6.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	やや粗(0.3から4㎜の砂粒含む、2～4㎜の白色粘土粒含む)	良好	淡黄	2.5Y8/3	
145		SX005		土師質土器坏	10.9	3.5	5.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	やや密(1.5㎜以下の砂粒普通含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4	
146		SX005		土師質土器坏	10.7	2.9	6.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(1～3㎜の砂粒、白色粘土粒含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3	
147		SX005		土師質土器坏	12.0	3.5	6.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(0.5㎜以下の砂粒を少量含む)	良好	灰白	2.5Y8/2	
148		SX005		土師質土器坏	－	－	6.6	回転ナデ	回転ナデ	不整方向ナデ	密(1㎜以下の砂粒含む)	良好	にぶい黄橙	10YR7/2	
149		SX005		土師質土器坏	11.4	3.4	5.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(1～3㎜の砂粒、白色粘土含む)	良好	にぶい橙	7.5YR7/4	
150		SX005		土師質土器坏	11.9	3.2	5.7	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	密(1㎜以下の砂粒、白色粘土、赤色粒含む)	軟	橙	5YR7/8	
151		SX005		土師質土器坏	10.5	3.2	5.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(1㎜以下の砂粒)	良	浅黄橙	7.5YR8/3	
152		SX005		土師質土器坏	10.2	3.0	6.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密	良	にぶい橙	7.5YR7/4	
153		SX005		土師質土器坏	10.4	3.0	5.7	－	－	ヘラ切り	密(1.5㎜以下の砂粒少量、3.5㎜以下の白色粘土粒含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	
154		SX005		土師質土器坏	11.4	3.1	6.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(0.5～3㎜の砂粒を含む)	良好	灰白	2.5Y8/2	
155		SX005		土師質土器坏	10.7	3.9	6.4	回転ナデ	－	ヘラ切り後ナデ	粗(0.5～3㎜の砂粒,3㎜程度の白色粘土粒含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3	
156		SX005		土師質土器小皿	7.6	1.2	6.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(1～2㎜の砂粒、白色粘土を含む)	良好	にぶい橙	7.5YR7/4	
157		SX005		土師質土器小皿	7.3	1.3	5.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(0.3～2㎜の砂粒と赤色粒、3～4㎜の白色粘土粒含む	良好	橙	7.5YR7/6	
158		SX004		土師質土器小皿	7.3	1.2	5.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(4㎜以下の砂粒、2㎜以下の赤色粒含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/6	
159		SX005		土師質土器小皿	7.0	1.2	5.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(2㎜以下の砂粒、赤色粒、白色粘土粒含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4	
160		SX005		土師質土器坏	－	－	6.6	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	密(2㎜以下の赤色粒、白色粘土を含む)	良好	淡黄	2.5Y8/3	
161		SK401		土師質土器坏	13.2	3.3	7.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(2㎜以下の砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/1	
162		SK401		土師質土器坏	11.1	3.3	7.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(1㎜以下の砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/2	
163		SK401		土師質土器小皿	7.4	1.2	5.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後板状圧痕	密(0.5～2㎜の砂粒、少量の白色粘土粒を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/4	
164		SK401		土師質土器小皿	7.4	1.1	5.1	回転ナデ	回転ナデ	摩滅	やや密(1㎜以下の砂粒を少量含む、3㎜以下の白色粘土粒を含む)	良好	灰白	10YR8/2	
165		SK401		土師質土器小皿	7.5	1.1	5.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(0.5㎜以下の砂粒を含む)	良好	にぶい橙	7.5YR7/4	
166		SK401		土師質土器小皿	8.9	1.1	7.1	－	－	ヘラ切り	やや粗(0.3～2㎜の砂粒、黒色粒を含む)	不良	明黄褐	10YR6/6	
167		SK401		土師質土器小皿	7.6	1.3	6.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや粗(0.5～2㎜の砂粒、赤色粒を含む)	不良	浅黄橙	10YR8/4	
168		SK402		土師質土器坏	12.5	3.9	7.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(5㎜以下の小石を含む)	良好	灰白	10YR8/2	
169		SK402		土師質土器坏	11.3	3.7	6.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(1.5㎜以下の砂粒を含む)	良好	にぶい橙	7.5YR7/4	
170		SK402		土師質土器坏	14.6	－	－	回転ナデ	回転ナデ	－	やや密(0.3～2㎜の砂粒を含む)	良好	淡黄	2.5Y8/3	
171		SK402		土師質土器小皿	7.8	1.2	6.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(0.5～1㎜の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3	
172		SK402		土師質土器小皿	6.7	1.2	6.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや密(2㎜以下の砂粒を普通含む)	良好	浅黄橙	10YR8/4	
173		SK402		土師質土器小皿	7.3	1.0	6.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(0.5～1.5㎜の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3	
174		SD009		土師質土器小皿	7.2	－	－	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	密(0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む)	良好	灰白	10YR8/2	
175		SD011		土師質土器小皿	－	－	－	回転ナデ	回転ナデ	－	密(0.5㎜の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	
176	27	SD005	SP211	十瓶山系須恵器椀	14.9	－	－	回転ナデ	回転ナデ	－	やや粗(1㎜以下の砂粒を含む)	不良	灰白	10YR8/1	
177		SD005	SP211	土師質土器坏	13.0	－	－	回転ナデ	回転ナデ	－	密(2㎜以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	
178		SD005	A群	土師質土器坏	9.9	3.4	5.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや粗(0.3～2㎜の砂粒含む)	良好	にぶい黄橙	10YR6/3	

第6表　大堀城跡平成16年度調査区 出土遺物観察表(4)

番号	写真図版	遺構名	層位・柱穴番号	器種	口径	器高	底径	外面調整	内面調整	底部調整	胎土	焼成	色調		備考
179		SD005	A群	土師質土器坏	10.7	3.3	5.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後板状圧痕	やや粗(2㎜以下の砂粒多い)	良好	浅黄	2.5Y7/3	内外面に黒斑
180		SD005	A群	土師質土器坏	11.0	3.2	6.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(0.5～4㎜砂粒少量含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3	
181		SD005	A群	土師質土器坏	10.4	3.0	6.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(0.5～1㎜以下の砂粒)	良好	浅黄橙	10YR8/3	
182		SD005	SP211	土師質土器小皿	7.0	1.2	5.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後板状圧痕	密(0.2～1.5㎜の砂粒、2㎜程度の白色粘土を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3	
183		SD005	SP211	土師質土器小皿	7.1	1.0	6.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	やや密(0.3～1㎜以下の砂粒を普通含む)	良好	淡黄	2.5Y8/3	
184		SD005	A群	土師質土器小皿	7.2	1.1	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(1.5㎜以下の砂粒、白色粘土粒、赤色粒	良好	灰白	2.5Y8/2	外面に黒斑
185		SD005	A群	土師質土器小皿	6.9	1.0	5.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(0.5㎜以下の砂粒)	良好	浅黄橙	10YR8/3	
186		SD005	A群	土師質土器小皿	6.9	0.8	5.1	回転ナデ	回転ナデ	糸切り後ナデ	密(0.5～2㎜の砂粒を含む) 2㎜の砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/2	
187		SD005	SP211	土師質土器小皿	6.9	0.9	6.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや密(1㎜以下の砂粒、8㎜以下の白色粘土を普通含む)	良好	灰白	10YR8/2	
188		SD005	A群	土師質土器小皿	7.2	1.1	6.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(0.2～3㎜の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3	口縁部片口
189		SD005	SP211	土師質土器小皿	7.4	1.1	5.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(0.5㎜以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3	
190		SD005	A群	土師質土器小皿	7.2	0.9	6.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや密(3.5㎜以下の砂粒)	良	にぶい黄橙	10YR7/4	
191		SD005	A群	土師質土器小皿	7.1	1.2	5.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(2㎜以下の砂粒を含む)	良	淡黄	2.5Y8/3	
192		SD005	A群	土師質土器小皿	7.8	1.1	6.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや密(2㎜以下の砂粒普通含む、3㎜以下の白色粘土粒含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3	
193		SD005	A群	土師質土器小皿	7.8	1.0	7.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや粗(1㎜以下の砂粒が多い)	良好	灰白	10YR8/2	
194		SD005	A群	土師質土器小皿	7.2	0.9	4.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	やや粗(0.3～4㎜の砂粒、白色粘土粒含む)	良好	浅黄橙	10YR8/4	
195		SD005	A群	土師質土器小皿	7.4	1.3	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り、板状圧痕	密(1㎜以下の砂粒)	良好	にぶい黄橙	10YR7/3	
196		SD005	SP211	土師質土器鉢	－	－	－	回転ナデ	回転ナデ	－	やや密	良好	黒褐	10YR3/2	
197		SD005	A群	土師質土器羽釜	21.3	－	－	－	－	－	やや粗(3㎜以下の砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/2	
198		SD005	B群	土師質土器坏	11.2	3.2	6.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り、板状圧痕	密(1.5㎜以下の砂粒多量含む、4㎜白色粘土粒含む)	良好	灰白	2.5Y8/2	
199		SD005	B群	土師質土器坏	11.2	3.1	6.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや粗(3㎜以下の砂粒)	やや軟	灰白	10YR8/1	
200		SD005	B群	土師質土器小皿	6.7	1.1	5.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(0.5～2㎜の砂粒、5～8㎜の白色粘土粒を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/4	
201		SD005	B群	土師質土器小皿	7.2	0.9	5.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り、板状圧痕	密(1㎜以下の砂粒含む)	良好	にぶい黄橙	10YR7/3	
202		SD005	C群	土師質土器坏	11.2	2.7	7.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	やや粗(0.4～5㎜の砂粒と5㎜程度の白色粘土粒を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	外面に褐色付着物
203		SD005	C群	土師質土器坏	10.7	－	－	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(1㎜以下の砂粒を少量含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4	
204		SD005	C群	土師質土器小皿	6.4	1.1	6.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや粗(0.5～1㎜の砂粒、赤色粒、白色粘土粒含む)	良好	にぶい橙	5YR7/4	
205		SD005	C群	土師質土器小皿	7.8	1.0	4.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(1㎜以下の砂粒を含む)	良	灰白	10YR8/2	
206		SD005	D群	土師質土器坏	10.7	3.3	5.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後板状圧痕	密(2㎜以下の砂粒含む)	良好	灰白	10YR8/2	
207		SD005	D群	土師質土器坏	10.8	3.7	4.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り、板状圧痕	やや粗(3㎜以下の砂粒含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3	
208		SD005	D群	土師質土器小皿	6.7	1.3	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後板状圧痕	密(0.5～1㎜以下の砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/1	
209		SD005	D群	土師質土器小皿	7.0	1.1	5.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(1㎜以下の砂粒多量含む、2㎜以下白色粘土粒含む)	良好	灰白	10YR8/2	
210		SD005	D群	土師質土器小皿	6.9	1.2	5.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(2.5㎜以下の砂粒含む)	良好	灰白	10YR8/2	
211		SD005	D群	土師質土器小皿	7.3	1.4	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り未調整	密(0.5～2㎜の砂粒を含む)	堅緻	灰黄	2.5Y7/2	内面に褐色付着物
212		SD005	E群	土師質土器坏	10.9	3.3	6.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後板状圧痕	密(0.5～1.5㎜の砂粒を含む)	良	灰白	10YR8/2	
213		SD005	E群	土師質土器坏	10.8	3.3	6.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り、板状圧痕	やや密(2.5㎜以下の砂粒を普通含む)	良好	灰白	10YR8/2	
214		SD005	E群	土師質土器坏	11.1	2.9	5.9	回転ナデ	回転ナデ	不整方向ナデ	密(1㎜以下の砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/2	
215		SD005	E群	土師質土器坏	11.2	3.4	6.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後板状圧痕及びナデ	密(2.5㎜以下の砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/2	内面に褐色付着物
216		SD005	E群	土師質土器小皿	7.5	1.5	5.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(0.5～1㎜以下の砂粒を含む)	良好	淡黄	2.5Y8/3	
217		SD005	E群	土師質土器小皿	7.2	1.4	5.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(3㎜以下の砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/1	
218		SD005	E群	土師質土器小皿	7.6	1.4	4.5	回転ナデ	回転ナデ	板状圧痕	やや粗(0.5㎜～2㎜の砂粒と赤色粒を含む)	良好	淡黄	2.5Y8/3	
219		SD005	E群	土師質土器小皿	7.1	0.9	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後板状圧痕	密(0.2～3㎜の砂粒を含む)	良好	淡黄	2.5Y8/3	

第7表 大堀城跡平成16年度調査区 出土遺物観察表(5)

番号	写真図版	遺構名	層位・柱穴番号	器種	口径	器高	底径	外面調整	内面調整	底部調整	胎土	焼成	色調		備考
220		SD005	E群	土師質土器小皿	6.5	1.0	5.1	回転ナデ	回転ナデ、底部：指押さえ、ナデ	ナデ	密、精良(1㎜以下の砂粒をわずかに含む)	良好	灰白	10YR8/2	
221		SD005	E群	土師質土器小皿	6.7	1.0	6.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(0.5～8㎜の砂粒と赤色粒と白色粘土粒含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4	
222		SD005	F群	土師質土器坏	11.8	－	－	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	密(0.5㎜の砂粒をわずかに含む)	良好	灰白	2.5Y8/2	
223		SD005	F群	土師質土器小皿	6.7	1.1	5.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(1.5㎜以下の砂粒)	良好	浅黄橙	10YR8/3	
224		SD005	F群	土師質土器小皿	7.6	1.3	6.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(3.5㎜以下の砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/2	
225		SD005	F群	土師質土器小皿	7.5	0.9	6.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	やや密(2㎜以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	
226		SD005	F群	土師質土器小皿	7.1	1.0	5.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り、板状圧痕	密(1㎜以下の砂粒を含む)	良好	にぶい橙	7.5YR7/4	
227		SD005	流路A	土師質土器坏	10.5	3.5	5.1	回転ナデ	回転ナデ	摩滅	やや粗(0.3～2㎜の砂粒含む)	良好	灰白	10YR8/2	
228		SD005	流路A	土師質土器小皿	7.4	1.2	6.7	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	密(2㎜以下の砂粒)	良好	浅黄橙	10YR8/3	
229	27	SD005	流路A	十瓶山系須恵器羽釜	直径1.75	－	－	－	－	－	密(1㎜以下の砂粒を含む)	良好	黄灰	2.5Y4/1	
230		SD005	流路B	土師質土器坏	10.9	3.0	6.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(2㎜以下の砂粒含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4	
231		SD005	流路B	土師質土器坏	7.1	0.9	5.6	回転ナデ	回転ナデ	板状圧痕	密(0.3～2㎜の砂粒、白色粘土粒含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3	
232		SD005	流路B	土師質土器坏	12.8	3.2	6.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(0.2～2㎜の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/4	
233		SD005	流路B	土師質土器小皿	7.1	0.9	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(3㎜以下の砂粒を含む)	良	にぶい橙	5YR7/4	
234		SD005	流路B	土師質土器小皿	7.3	1.3	4.4	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	密(0.5㎜以上の砂粒,3㎜の白色粘土粒を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/4	
235	27	SD005	流路B	十瓶山系須恵器小皿	7.7	1.2	6.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(1㎜以下の砂粒普通含む)	堅緻	灰	N6/0	
236		SD005	流路B	土師質土器小皿	7.6	1.0	6.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(1㎜以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/4	内面に褐色付着物
237		SD005	流路B	土師質土器小皿	7.6	1.1	6.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(1㎜以下の砂粒)	良	灰白	10YR8/2	
238		SD005	流路B	土師質土器小皿	7.9	1.6	3.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(0.5㎜以下の砂粒)	良好	暗灰黄	2.5Y4/2	
239	27	SD005	流路B	十瓶山系須恵器椀	14.6	－	－	上半：回転ナデ、下半：ナデ	回転ナデ	－	密(2㎜以下の砂粒少量)	良好	灰白	2.5Y8/1	口縁外面に黒色帯
240		SD005	流路B	土師質土器土鍋	39.8	－	－	－	－	－	やや粗(2.5㎜以下の砂粒多量)	良好	にぶい黄橙	10YR7/3	
241		SD006	流路B	土師質土器土鍋	46.1	－	－	－	－	－	やや粗(2㎜以下の砂粒を含む)	やや軟	灰白	10YR8/2	外面に褐色付着物
242		SP077		土師質土器坏	10.7	3.3	5.7	－	回転ナデ	－	密(2～3㎜の砂粒含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	外面に黒斑あり
243		SP272		土師質土器坏	10.7	3.0	6.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(0.5㎜以下の砂粒含む)	良好	灰白	7.5YR8/2	
244		SP199		土師質土器坏	10.4	2.8	6.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	粗(3㎜以下の砂粒を含む)	不良	灰白	10YR8/2	
245		SP072		土師質土器坏	10.2	2.6	6.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	やや密(2㎜以下の砂粒を含む)	良好	淡黄	2.5Y8/3	
246		SP087		土師質土器坏	10.2	3.0	6.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(2㎜以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3	
247		SP079		土師質土器坏	10.8	2.7	6.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(2㎜以下の砂粒を含む)	良好	淡黄	2.5Y8/3	
248		SP168		土師質土器坏	11.6	3.4	7.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや密(3㎜以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4	
249		SP072		土師質土器坏	14.8	4.1	8.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後板状圧痕	密(2㎜以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙	10YR7/4	
250		SP079		土師質土器小皿	5.5	1.3	4.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(2㎜以下の砂粒を含む)	良好	淡黄	2.5Y8/4	
251		SP251		土師質土器小皿	5.7	1.0	5.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(0.5～1.5㎜の砂粒、3㎜程度の白色粘土粒を含む)	良好	橙	5YR6/8	
252		SK009		土師質土器小皿	6.4	0.9	5.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(1㎜以下の砂粒含む)	良好	灰白	7.5YR8/1	
253		SP214		土師質土器小皿	6.3	0.9	5.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(1～3㎜の砂粒含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	
254		SP072		土師質土器小皿	6.2	1.1	5.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後板状圧痕	密(2㎜以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	
255		SP075		土師質土器小皿	6.5	1.2	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや密(1㎜以下の砂粒を含む)	良好	灰黄	2.5Y7/2	
256		SP079		土師質土器小皿	6.8	1.2	5.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや密(1㎜以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙	10YR7/3	
257		SP089		土師質土器小皿	6.4	1.1	5.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(2.5㎜以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3	
258		SP122		土師質土器小皿	6.8	0.9	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(3.5㎜以下の砂粒を含む)	良好	灰白	2.5Y8/2	
259		SP158		土師質土器小皿	7.4	1.2	6.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや密(3㎜以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4	
260		SP205		土師質土器小皿	7.3	1.2	5.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(2㎜以下の砂粒、白色粘土を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3	
261		SP162		土師質土器小皿	6.7	1.0	6.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや粗(2㎜以下の砂粒、白色粘土を含む)	不良	浅黄橙	7.5YR8/4	
262		SP263		土師質土器小皿	7.5	1.3	5.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	密(1㎜以下の砂粒を含む)	良好	灰白	10YR8/2	
263		SP173		土師質土器小皿	7.4	0.8	5.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	やや粗(0.3～1㎜の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3	

第8表　大堀城跡平成16年度調査区 出土遺物観察表(6)

番号	写真図版	遺構名	層位・柱穴番号	器種	口径	器高	底径	外面調整	内面調整	底部調整	胎土	焼成	色調		備考
264		SP040		土師質土器小皿	8.1	1.3	6.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(0.5mm以下の砂粒含む)	良好	灰白	10YR8/1	
265		SP090		土師質土器小皿	8.1	1.3	6.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(0.5～2mmの砂粒含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4	
266		SP118		中国産白磁皿	－	－	6.0	－	－	糸切り後施釉	密(0.5～1mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白 釉：灰白	N8/釉:2.5GY8/1	
267		SP118		中国産白磁皿	14.3	－	－	回転ナデ	回転ナデ	－	密(0.5～1mm以下の砂粒を含む)	良好	灰白	7.5Y8/1	
268		SP101		土師質土器羽釜	－	－	－	－	－	－	やや粗(1～3mm大の砂粒多い)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	
269		SP071		土師質土器羽釜	19.6	－	－	－	ナデ	－	密(3mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙	10YR8/3	
270		上面精査		弥生土器広口壺	20.2	－	－	凹線3条	摩滅	－	やや粗(1～4mmの砂粒含む)	良好	橙	2.5YR6/8	
271		SP022		弥生土器甕	－	－	－	回転ナデ	回転ナデ	－	やや密(2～3mmの砂粒を含む)	良好	明褐	7.5YR5/8	
272		SK008		弥生土器壺	－	－	－	－	－	－	密(1mm以下の砂粒を少量含む)	良好	にぶい橙	7.5YR7/4	内面に赤色顔料塗布
273		SP022		弥生土器壺	－	－	－	回転ナデ	回転ナデ	－	やや密(0.5～2mmの砂粒を含む)	良好	明赤褐	2.5YR5/8	
274		SP111		弥生土器細頸壺	－	－	－	凹線(3条+a)状のナデ	ナデ、指押さえ	－	密(1.5mm以下の砂粒含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	
275		SA001		土師質土器小皿	10.9	2.6	6.6	回転ナデ	回転ナデ	一定方向ナデ	密(1～2mmの砂粒含む)	良好	灰白	7.5YR8/2	
276		機械掘削		土師質土器小皿	6.4	1.1	5.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り未調整	密	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	
277		機械掘削		土師質土器小皿	7.0	1.3	5.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り後ナデ	密(0.5～2mmの砂粒少量含む)	良好	灰白	7.5YR8/2	
278		機械掘削		土師質土器小皿	7.0	1.2	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り未調整	密(0.5～1mmの砂粒少量含む)	良好	灰白	7.5YR8/2	
279		機械掘削		土師質土器小皿	7.3	1.1	5.5	回転ナデ	－	－	密	良好	灰白	10YR8/2	
280		上面精査		土師質土器小皿	8.0	1.2	6.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り未調整	密(0.5～2mmの砂粒多く含む)	良好	灰白	10YR8/2	
281		上面精査		土師質土器小皿	6.6	0.6	4.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り未調整	密(0.5mm以下の砂粒含む)	良好	灰白	7.5YR8/2	外面に茶褐色付着物
282		機械掘削		土師質土器小皿	6.6	1.0	5.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り未調整	密(1mmの砂粒わずかに含む)	良好	灰白	7.5YR8/2	
283		上面精査		土師質土器小皿	7.3	1.0	5.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り未調整	密(3mm以下の砂粒少量含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/4	
284		上面精査		土師質土器小皿	7.5	1.0	6.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り未調整	密(1mm以下の砂粒含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	外面に黒斑あり
285		上面精査		土師質土器小皿	7.3	1.2	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り未調整	密(0.5～1mmの砂粒わずかに含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	
286		機械掘削		土師質土器小皿	7.0	1.2	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り未調整	密(0.5mm以下の砂粒含む)	良好	浅黄橙	7.5YR8/3	
287	25	上面精査		中国産龍泉窯系青磁碗	16.8	－	－	－	－	－	密、精良	良好、堅緻	灰オリーブ	7.5Y5/3	
288	25	上面精査		中国産龍泉窯系青磁碗	－	－	－	－	－	－	密、精良	良好、堅緻	灰オリーブ	7.5Y5/3	
289		上面精査		中国産龍泉窯系青磁碗	－	－	2.9	－	－	－	密(0.5～1mm以下の砂粒を含む)	良好	明緑灰 釉：灰オリーブ	7.5GY8/1 釉:7.5Y5/2	
290	25	上面精査		中国産龍泉窯系青磁碗	－	－	4.3	－	－	－	密	良好	灰 釉：オリーブ灰	5Y6/1 釉：10Y6/2	
291	26	機械掘削		亀山系須恵器甕	21.6	－	－	格子目叩き	ナデ	－	細	良好	灰白	2.5Y7/1	
292		機械掘削		肥前系磁器染付皿	12.8	－	－	－	－	－	密	良好	灰白 釉：灰白、緑灰	5Y8/1釉:10Y7/1,10GY6/1	
293	29	SP216		石鍋	36.4	－	－	ノミ痕	ノミ痕後研磨	－	石材 滑石	－	灰	N6/0	内面に5cm大の黒色鉱物
294	29	SB007	SP193	砥石	長さ 8.4	幅 3.85	厚さ 0.6	擦痕	側面糸鋸切断	－	石材 京都産鳴滝流紋岩か	－	にぶい黄橙	10YR7/4	
295	29	SB010	SK013	砥石	長さ 2.7	幅 1.1	厚さ 0.3	擦痕	－	－	石材 流紋岩か	－	浅黄	10YR7/3	
296	29	SB011	SK012	砥石	長さ 2.9	幅 2.2	厚さ 0.5	擦痕	－	－	石材 細粒花崗岩質凝灰岩か	－	灰白	2.5Y8/1	
297	29	SB010	SK014	砥石	長さ 4.9	幅 2.55	厚さ 0.65	擦痕	－	－	石材 頁岩	－	灰	N4/0	
298	29	SB007	SP083	火打ち石	長さ 1.3	幅 1.3	厚さ 0.3	－	－	－	石材 チャート	－	暗赤褐色	2.5YR3/6	
49		SX004		銅銭(開元通宝)	直径 2.4	－	厚さ 0.1	重さ 2.33					灰オリーブ	7.5Y5/2	
50		SX004		銅銭(開元通宝)	直径 2.5	－	厚さ 0.15	重さ 1.91					灰オリーブ	7.5Y5/2	
51		SX004		銅銭(天聖元宝)	直径 2.4	－	厚さ 0.1	重さ 1.27					灰オリーブ	7.5Y5/3	
52	32	SX004		銅銭	直径 2.3	－	厚さ 0.18	重さ 2.07					オリーブ灰	5GY5/1	
299	30・31	SP177		金銅装飾金具	長さ 3.3	－	厚さ 0.8	重さ 1.73					緑灰	10YG6/1	
300		SP257		銅銭	長さ 1.3	幅 1.0	厚さ 0.1	重さ 0.26					オリーブ黄	5Y6/3	有機物付着
301		SA003	SP210	銅銭	直径 2.6	－	厚さ 0.2	重さ 0.94					灰オリーブ	5Y5/3	
302	32	SP199		鉄製刀子	長さ 11.1	幅 1.3	－	重さ 36.78					明赤褐	10YR6/6	
303	32	SP115		毛抜き	長さ 4.3	幅 1.55	－	重さ 10.60					褐	7.5YR4/4	
304		SX006		鉄釘	長さ 3.1	幅 0.55	厚さ 0.55	重さ 7.05					黄褐	10YR5/8	
305		SP209		鉄釘	長さ 3.25	幅 0.3	－	重さ 2.77					黄橙	10YR7/8	

第9表　大堀城跡平成16年度調査区 出土遺物観察表(7)

番号	写真図版	遺構名	層位・柱穴番号	器種	口径	器高	底径	外面調整	内面調整	底部調整	胎土	焼成	色調		備考
306		SK008		鉄釘	長さ 3.6	幅 0.5	厚さ 0.4	重さ 6.97					明黄褐	10YR6/6	
307	32	SP113		鉄釘	長さ 3.15	幅 0.45	厚さ 0.3	重さ 9.89					黄褐	10YR5/6	
308		SB007	SP269	鉄釘	長さ 3.5	幅 0.4	厚さ 0.35	重さ 6.33					赤褐	5YR4/6	
309		SP217		鉄釘	長さ 3.6	幅 0.4	−	重さ 2.58					褐	7.5YR4/6	
310		SP078		鉄釘	長さ 3.8	幅 0.5	−	重さ 8.79					明褐	7.5YR5/8	
311	32	SD005	廃棄土器A群	鉄釘	長さ 4.15	幅 0.55	−	重さ 6.09					明褐	7.5YR5/8	
312	32	SP087		鉄釘	長さ 3.95	幅 0.6	−	重さ 15.77					橙	7.5YR6/8	
313	32	SA001	下層	鉄釘	長さ 3.65	幅 0.6	−	重さ 13.93					明黄褐	10YR6/6	
314	32	SB008	SP116	鉄釘	長さ 3.3	幅 0.45	−	重さ 9.56					明赤褐	5YR5/8	
315	32	SB011	SX004	鉄釘	長さ 4.75	幅 0.45	−	重さ 9.92					明黄褐	10YR6/8	
316		SB011	SX004	鉄釘	長さ 4.2	幅 0.7	−	重さ 7.71					暗褐	7.5YR3/4	
317		SB007	SP172	鉄釘	長さ 4.25	幅 0.7	厚さ 0.55	重さ 10.24					褐	7.5YR4/6	
318		SB010	SP128	鉄釘	長さ 4.9	幅 0.65	−	重さ 14.80					橙	7.5YR6/8	
319		SP113		鉄釘	長さ 5.2	幅 0.6	−	重さ 10.82					明黄褐	10YR7/6	
320	32	SB011	SP143	鉄釘	長さ 4.2	幅 0.7	厚さ 0.5	重さ 14.18					黄褐	10YR5/8	
321	32	SP065		鉄釘	長さ 3.8	幅 0.9		重さ 9.88					黄褐	10YR5/6	
322		SD005		鉄釘	長さ 3.5	幅 0.4		重さ 38.35					黄褐	10YR5/8	
323		SX003		鉄釘	長さ 3.9	幅 0.5		重さ 3.63					黄褐	10YR5/8	
324		SX001		鞴羽口	外径 7.6	内径 2.0	−	−	−	−	粗（3㎜以下の砂粒を含む）	−	淡橙	5YR8/3	ガラス質部分あり
325	33	SB011	SP236	焼土	長さ 2.8	幅 2.05	厚さ 0.75	−	−	−	−	−	にぶい黄燈	10YR7/2	平坦面あり
326	33	SB011	SP143	焼土	長さ 3.45	幅 2.8	厚さ 2.0	−	−	−	−	−	にぶい黄燈	10YR7/3	平坦面あり
327	33	SB011	SP143	焼土	長さ 7.15	幅 5.3	厚さ 1.75	−	−	−	−	−	にぶい黄燈	10YR7/4	平坦面あり
328	33	SB011	SP143	焼土	長さ 5.9	幅 5.4	厚さ 3.95	−	−	−	−	−	浅黄燈	10YR8/3	
329	33	SB011	SK012	焼土	長さ 5.45	幅 4.3	厚さ 3.2	−	−	−	−	−	にぶい黄燈	10YR7/4	平坦面あり

第10表　大堀城跡平成16年度調査区 出土遺物観察表(8)

柱穴番号	建物番号	備考
SK007	SB001	
SK012	SB011	
SK013	SB010	
SK014	SB010	
SP004	SB001	
SP006	SB001	
SP007	SB002	
SP008	SB002	
SP009	SB002	
SP011	SB002	
SP013	SB002	
SP015	SB001	
SP018	SB002	
SP019	SB001	
SP020	SB001	
SP023	SB001	
SP024	SB001	
SP028	SB001	
SP037	SB001	
SP039	SB001	
SP043	SB002	SK006
SP062	SA005	
SP063	SA006	
SP067	SA004	
SP068	SA006	

柱穴番号	建物番号	備考
SP067	SA004	
SP068	SA006	
SP081	SB007	
SP083	SB007	
SP084	SA005	
SP093	SA003	
SP099	SB007	
SP100	SB007	
SP103	SA003	
SP104	SA002	
SP107	SB007	
SP109	SB009	
SP112	SB007	
SP116	SB008	
SP121	SB007	
SP124	SB010	
SP126	SA004	
SP128	SB010	
SP132	SA004	
SP135	SB007	
SP139	SB010	
SP140	SB008	
SP142	SB007	
SP143	SB011	
SP144	SA004	

柱穴番号	建物番号	備考
SP145	SA002	
SP146	SB010	
SP147	SB007	
SP157	SB009	
SP159	SB007	
SP161	SB009	
SP163	SB007	
SP165	SB008	
SP171	SB011	
SP172	SB007	
SP175	SB007	
SP179	SB007	
SP193	SB007	
SP197	SB011	
SP199	SA002	
SP210	SA003	
SP225	SB009	
SP231	SB008	
SP236	SB011	
SP243	SB007	
SP244	SB010	
SP256	SB007	
SP269	SB007	
SX003	SB007	
SX004	SB011	

第11表　大堀城跡検出遺構一覧表

写真図版

写真１　大堀城跡周辺の空中写真　出典は国土交通省提供の国土画像情報（カラー空中写真）

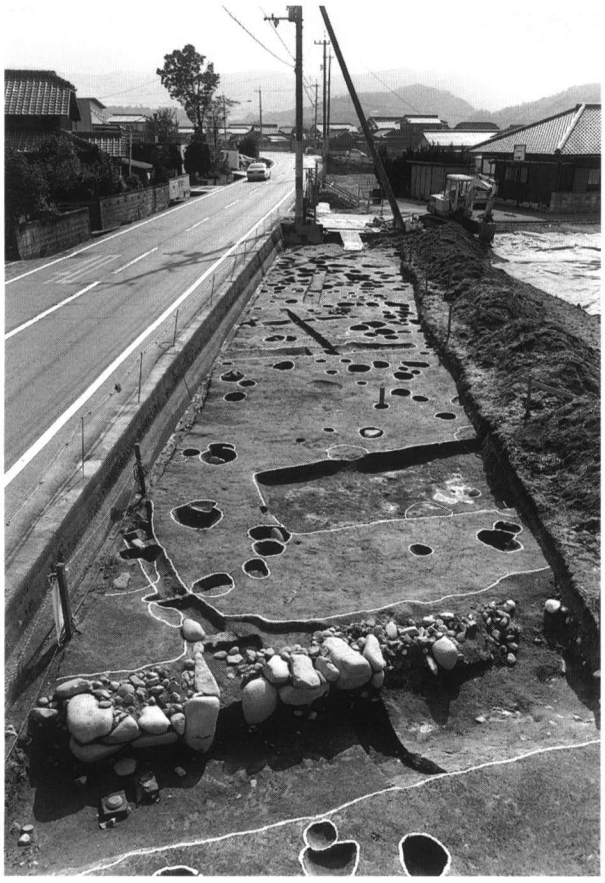


写真２　Ⅰ区区画溝SA001以南の遺構を北から撮影

写真３　Ⅰ区遺構分布状況を北から撮影

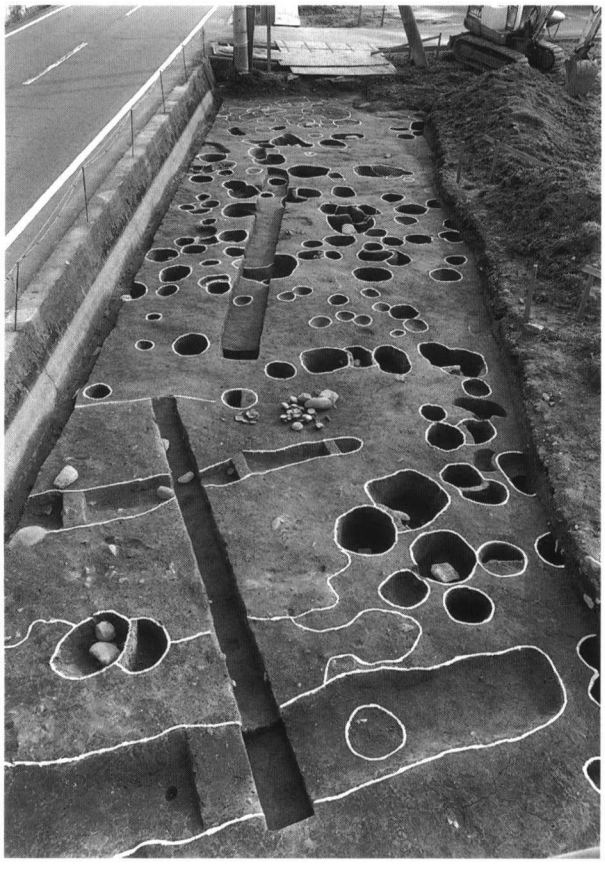


写真４　Ⅱ区SD005以南の遺構を北から撮影

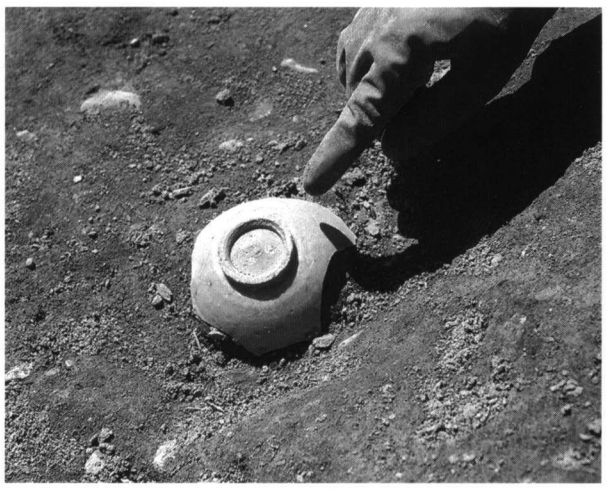
写真５　Ⅱ区SD005以南の建物復原状況を北から撮影

写真６　Ⅰ区区画溝SA001及び方形土坑SX001の検出状況を南から撮影

写真７　Ⅰ区区画溝SA001の石垣を北から撮影

写真８　Ⅱ区掘立柱建物SB011柱抜取穴SX004の地鎮祭祀遺構を南から撮影

写真９　Ⅱ区掘立柱建物SB011柱抜取穴SX004の地鎮祭祀遺構を南から拡大撮影



10	11
12	13
14	15

写真10　Ⅰ区区画溝SA001下層の青磁小椀出土状況を北から撮影

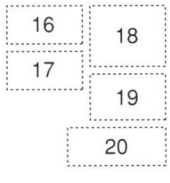
写真11　Ⅰ区方形土坑SX001を北から撮影

写真12　Ⅱ区掘立柱建物SB007柱穴（SP081）断面を東から撮影

写真13　Ⅱ区SP158柱抜取後の土器投棄状況の断面を南から撮影

写真14　Ⅱ区SD005土器溜りA群・B群を北から撮影

写真15　Ⅳ区遺構完掘状況を北から撮影



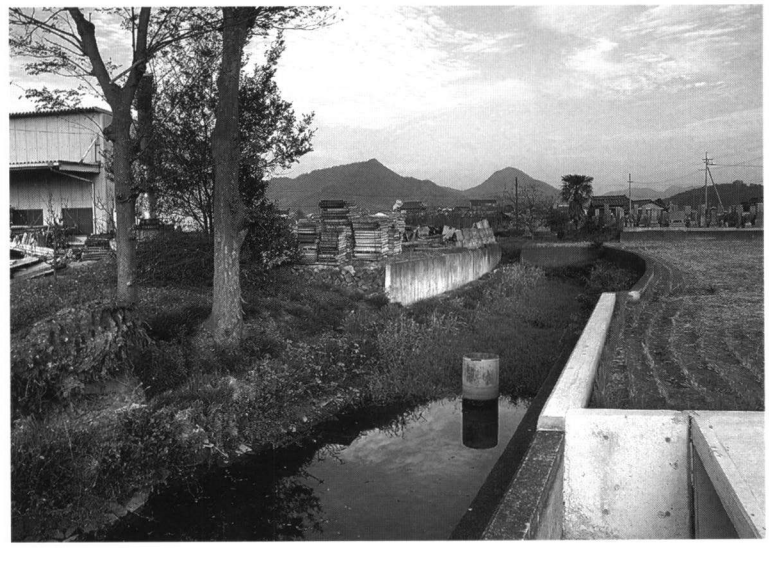


写真16 Ⅲ区西壁断面と堀跡とされる地形の窪みを東から撮影

写真17 Ⅲ区西壁断面と現状の畦に使用される石垣を東から撮影

写真18 Ⅲ区完掘状況を北から撮影

写真19 調査区より南の現存土塁を東より撮影

写真20 調査区より南の堀跡内の出水を西から撮影

写真21　Ⅱ区調査区内出土の土師質小皿

写真22　Ⅱ区掘立柱建物SB011柱抜取穴SX004 地鎮祭祀遺構出土品

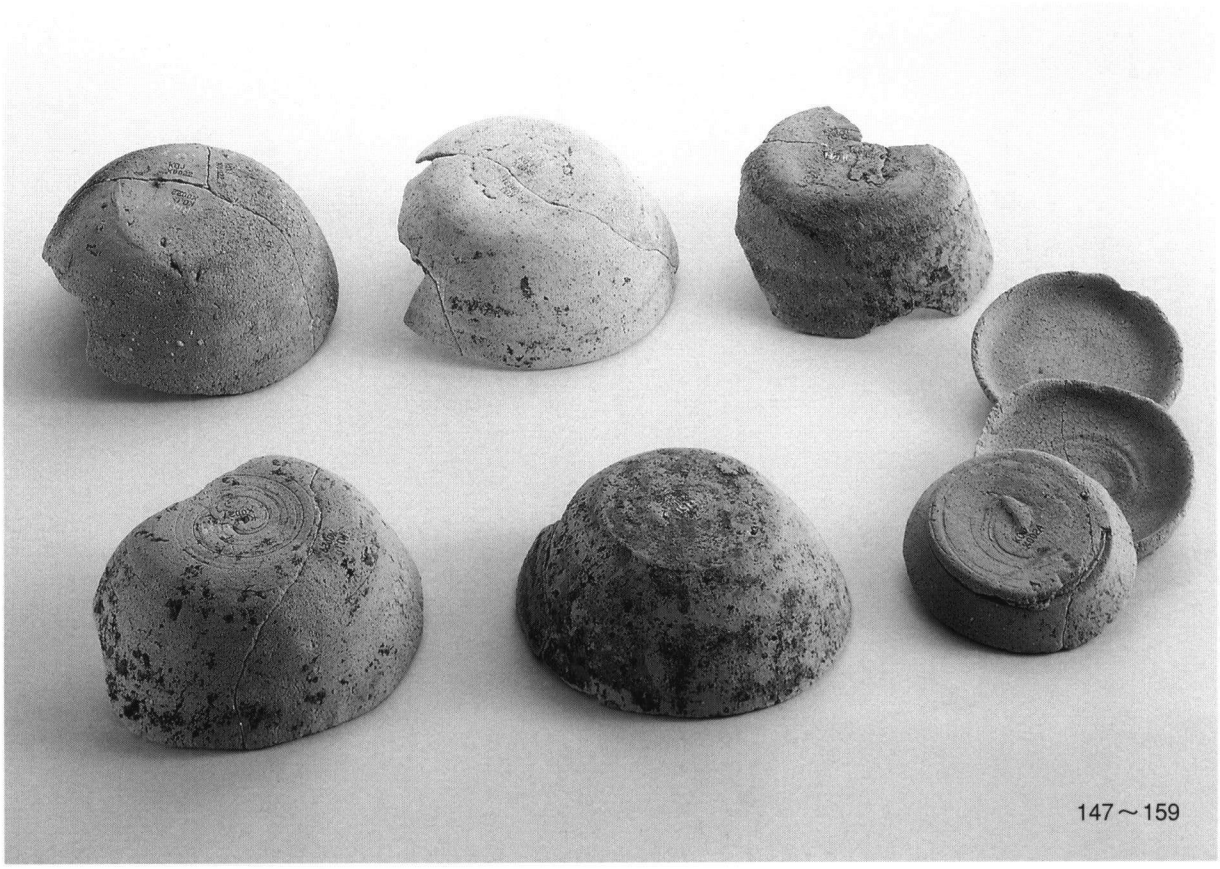


写真23　Ⅱ区土器廃棄土坑SX005出土の土師質土器坏

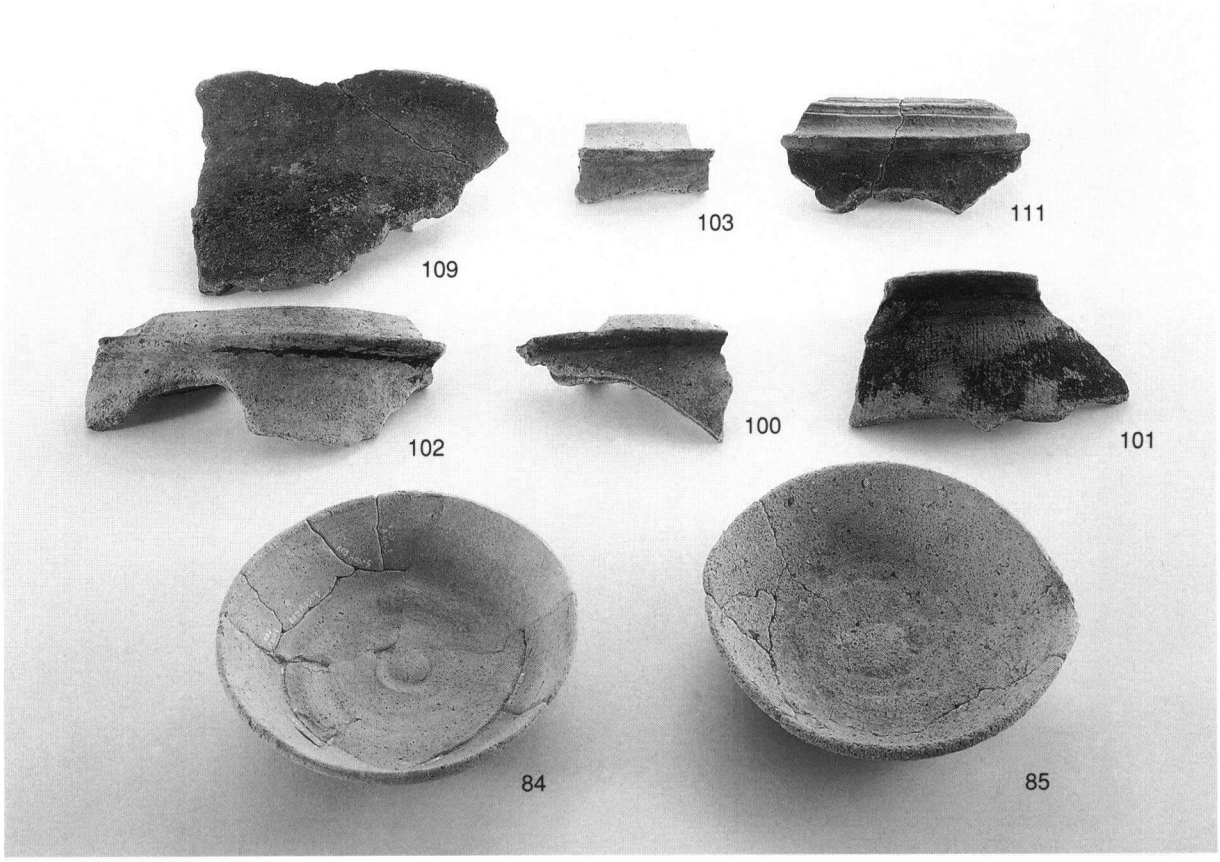


写真24　Ⅰ区区画溝SA001出土の土師質土器

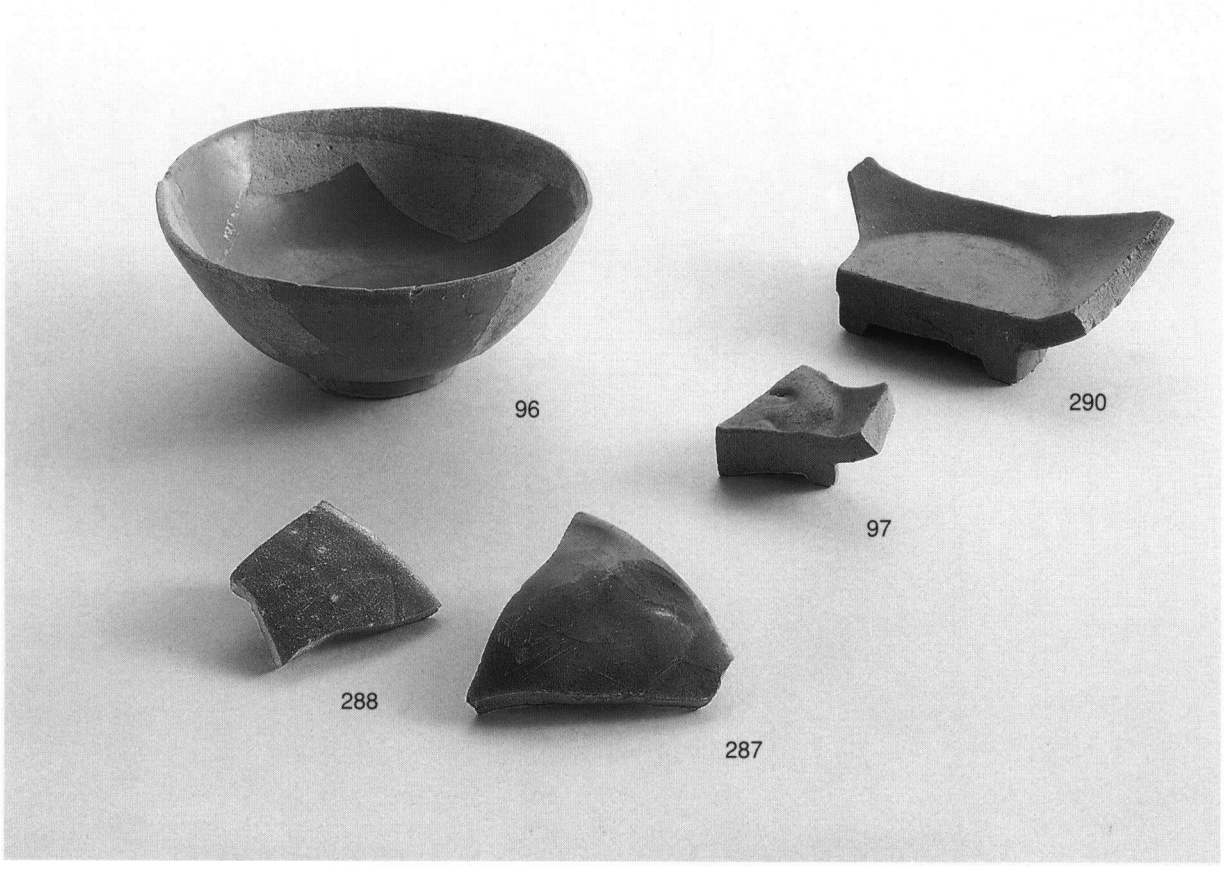


写真25　Ⅰ区・Ⅱ区出土の中国産龍泉窯系青磁椀

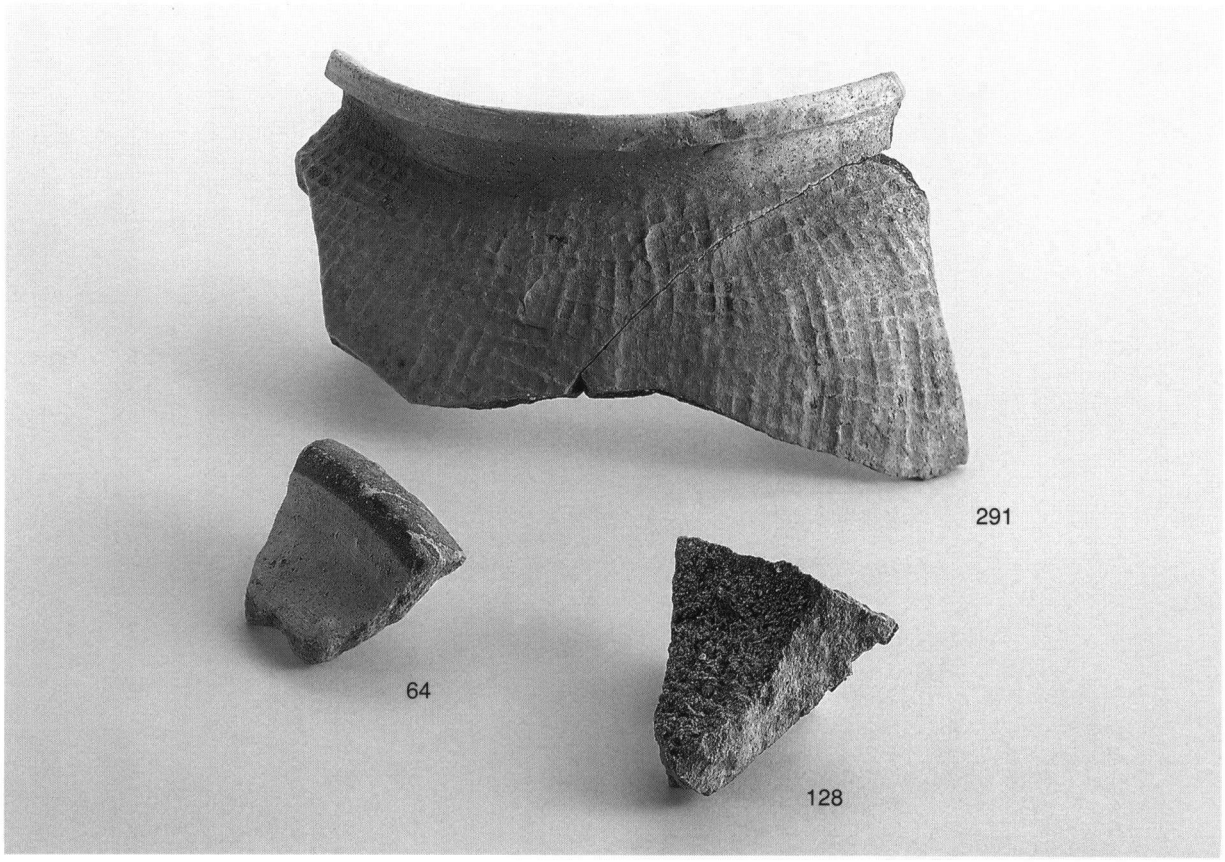


写真26　Ⅰ区・Ⅱ区出土の亀山系須恵器甕・東播系須恵器捏鉢・常滑系陶器大甕

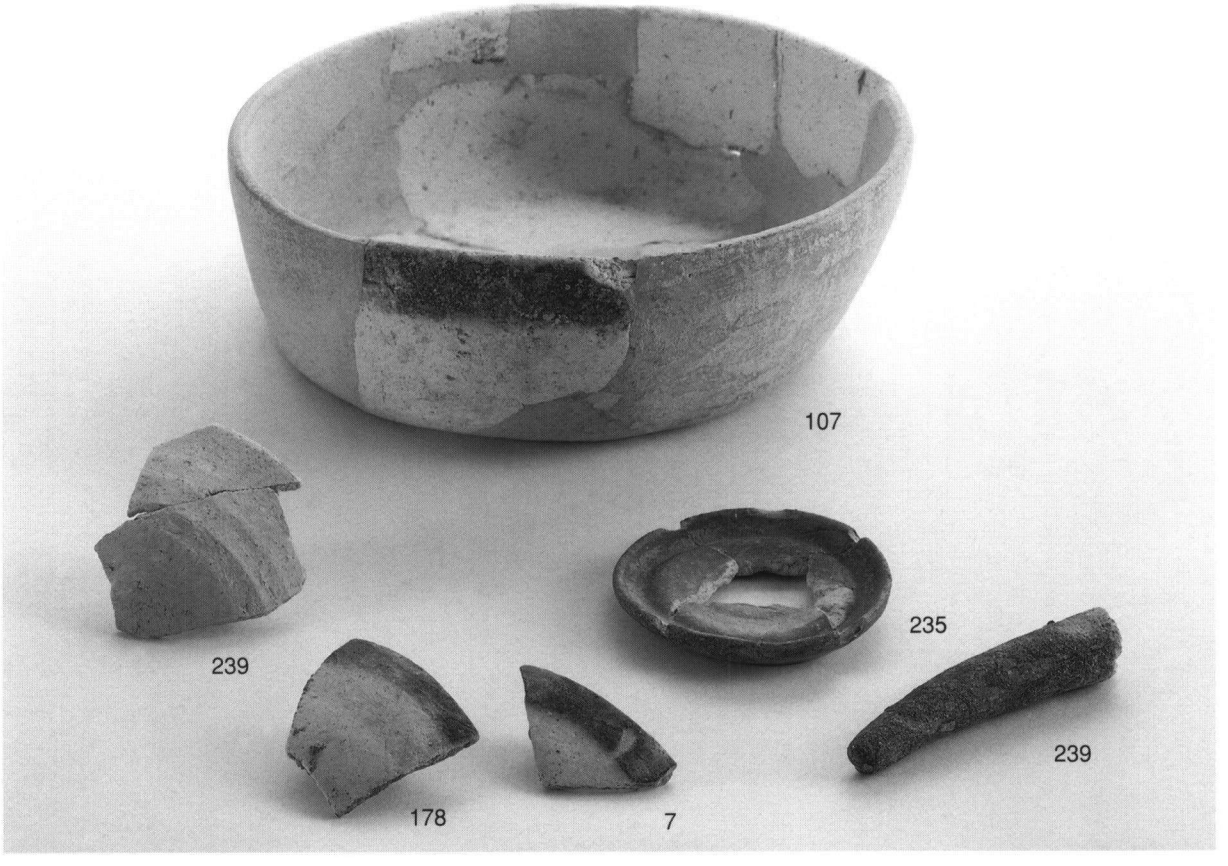


写真27　Ⅰ区・Ⅱ区出土の十瓶山系須恵器椀・鉢・小皿・羽釜

写真28　Ⅱ区SD005土器溜りA群出土の土師質土器

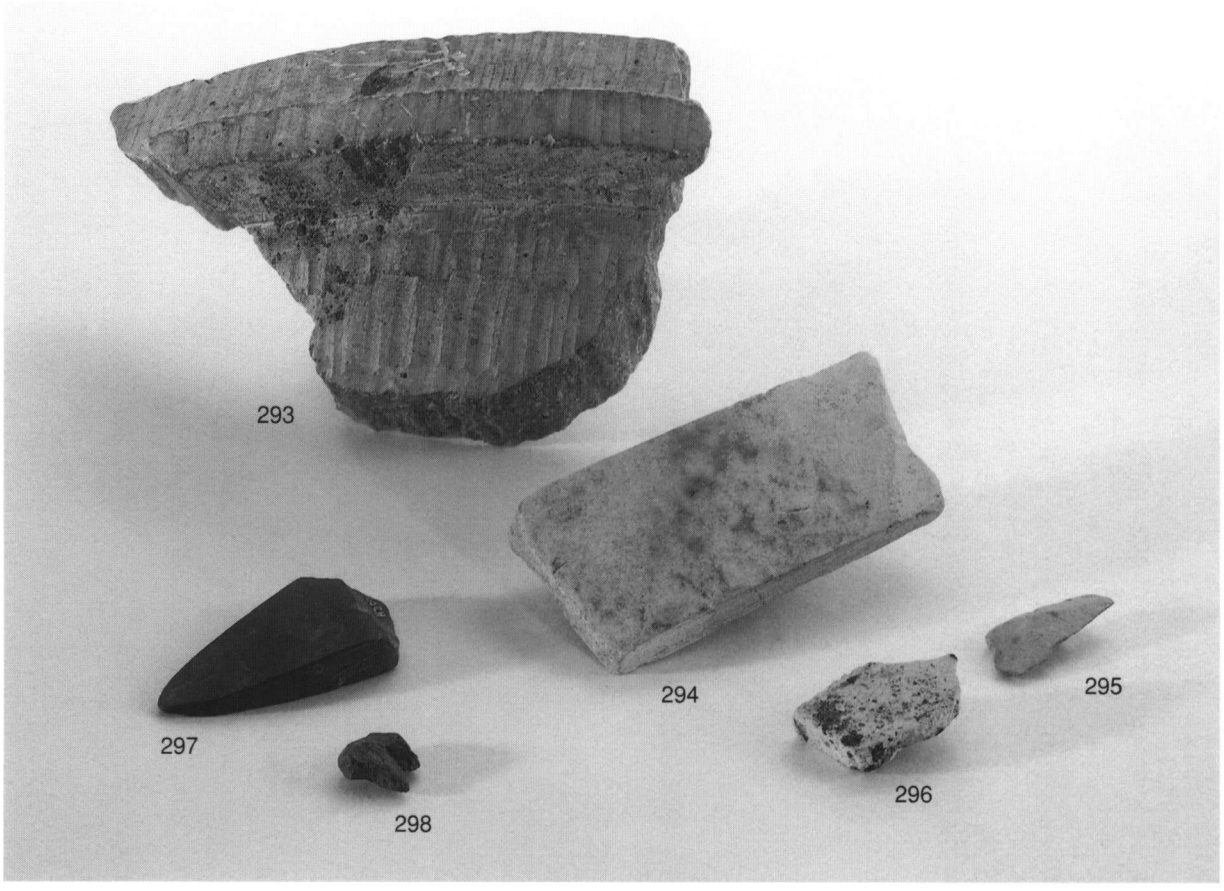


写真29　調査区内出土の石器・石製品

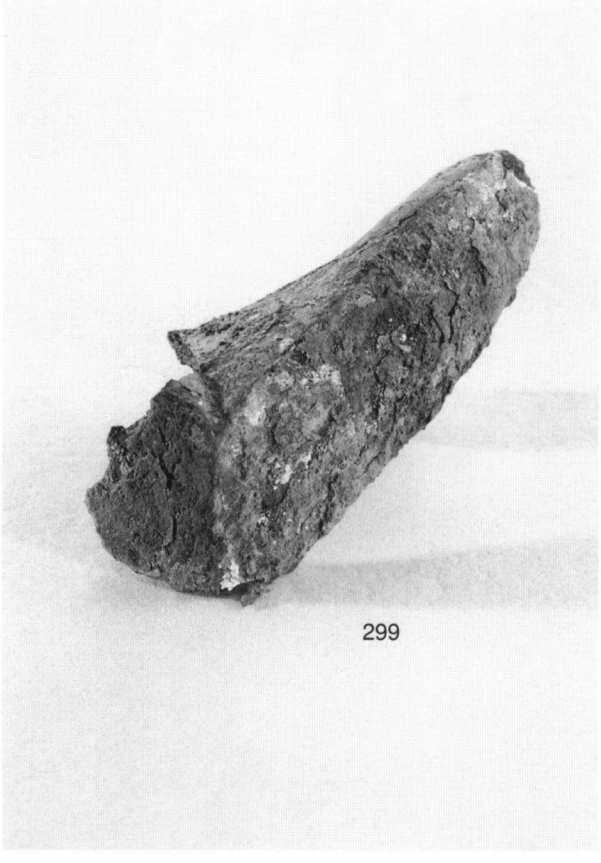


写真30　Ⅱ区柱穴（SP177）出土の金銅装飾金具表面

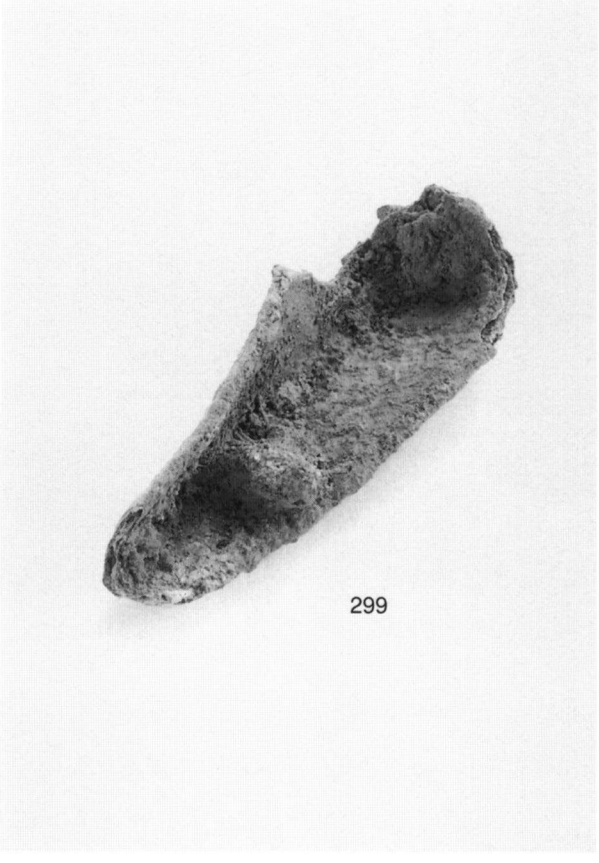


写真31　Ⅱ区柱穴（SP177）出土の金銅装飾金具裏面

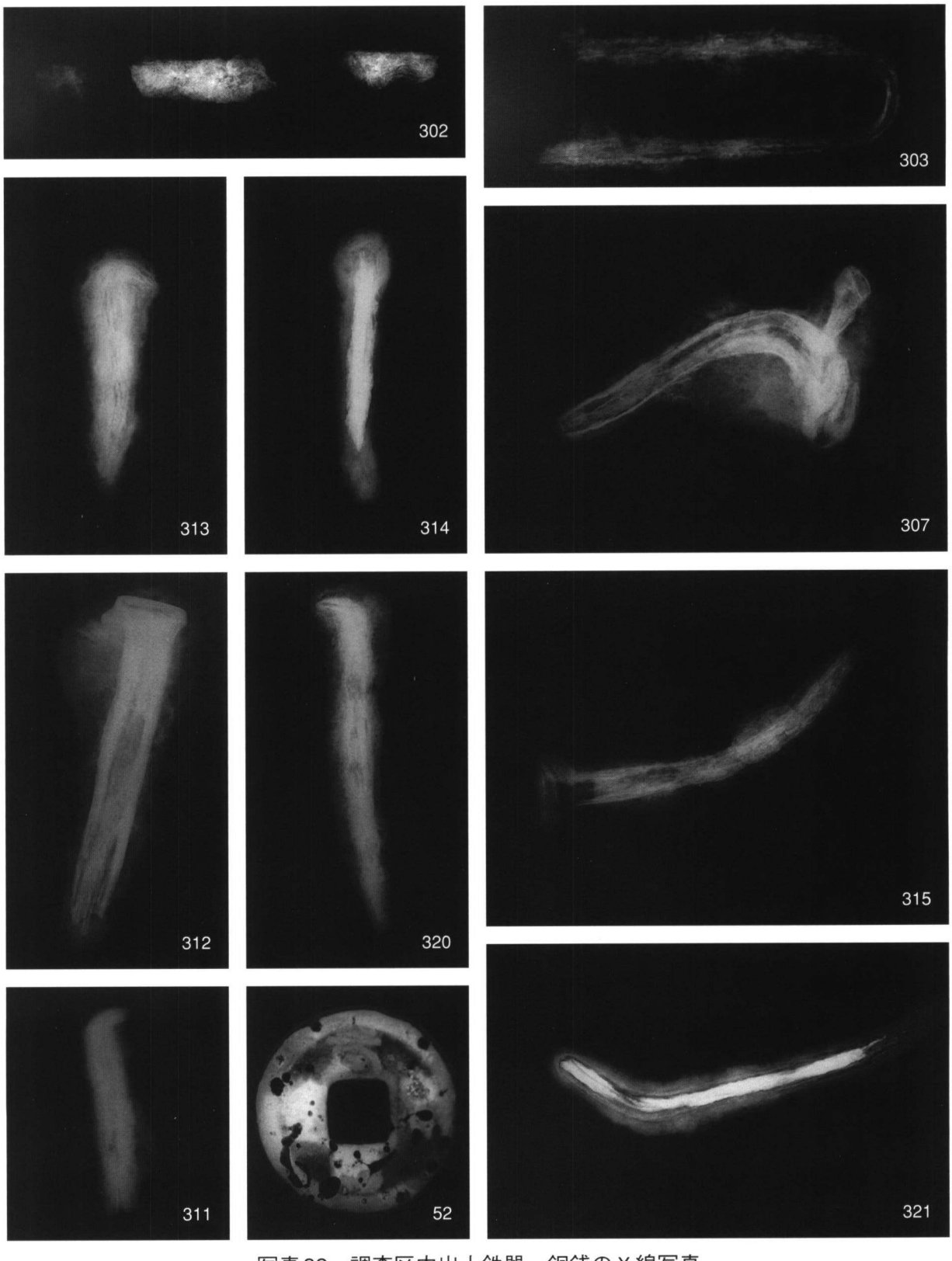
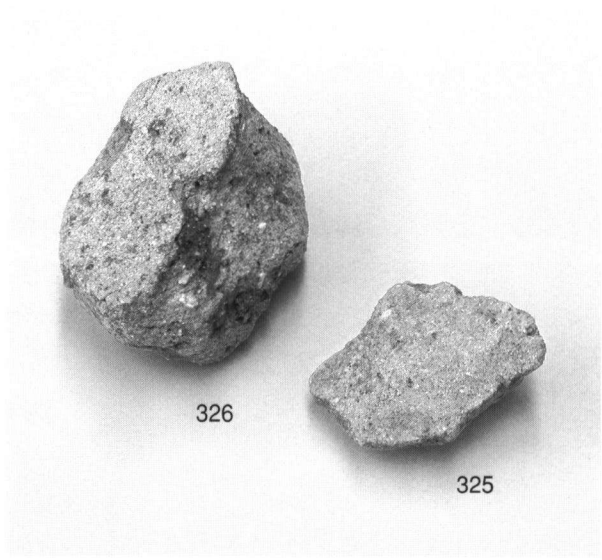


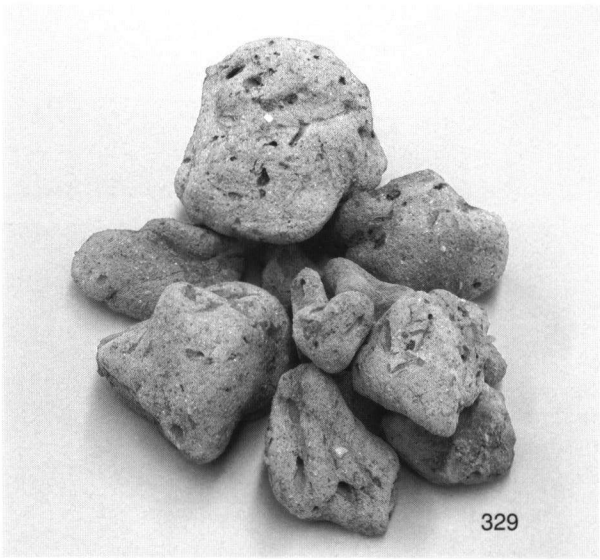
写真32　調査区内出土鉄器・銅銭のＸ線写真

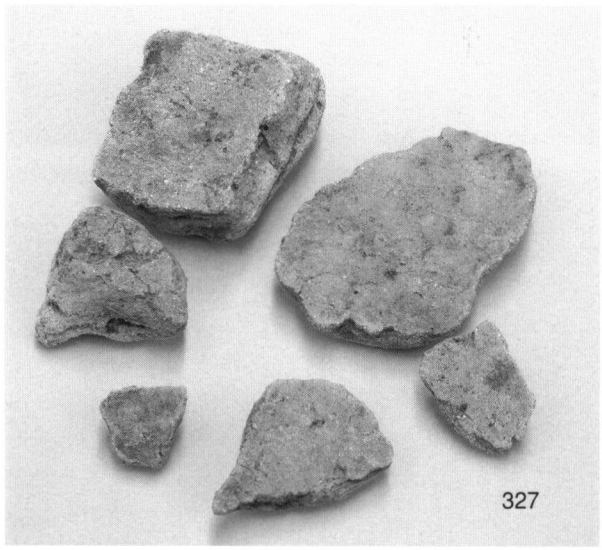
香川県歴史博物館撮影

撮影データ　鉄器 65KV8MA1M

銅銭 70KV8MA1M







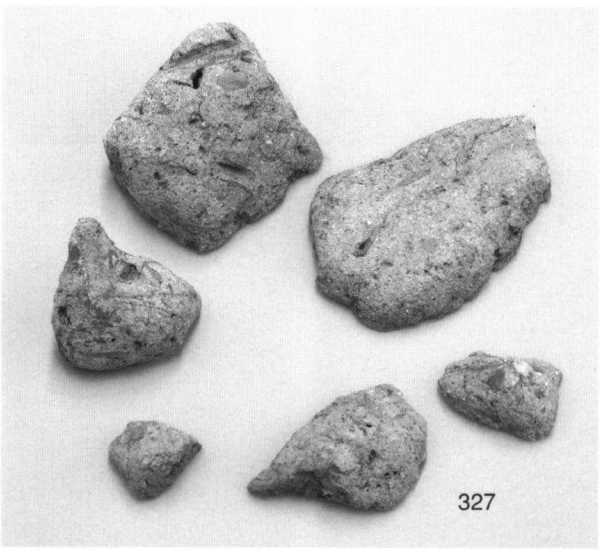


写真33　Ⅱ区南側出土の焼土

報告書抄録

ふりがな	おおぼりじょうあと
書名	大堀城跡
副書名	県道財田満濃線道路拡幅事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
編著者名	森下英治
編集機関	香川県埋蔵文化財センター
所在地	〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4　Tel 0877-48-2191　Fax 0877-48-3249
発行機関	香川県教育委員会
発行年月日	西暦2005年3月31日

総頁数	目次等	本文	観察表等	図版	挿図枚数	写真枚数	付図枚数
64頁	5頁	38頁	8頁	12頁	31枚	33枚	2枚

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町	コード 遺跡	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
おおぼりじょうあと 大堀城跡	かがわけんなかた 香川県仲多 どぐんまんのうちょう 度郡満濃町 よしの 吉野1189-5外	37402	40035	34度10分 45秒	133度51分 35秒	2004.10.01 ～ 2004.11.30	450m²	県道財田満濃線道路拡幅事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大堀城跡	城館跡 集落跡	鎌倉時代～室町時代	区画溝・石垣・掘立柱建物・地鎮遺構・排水溝	常滑焼・亀山焼・東播系須恵器・瓦器・京都産砥石・チャート製火打石・鉄釘・鉄滓・鞴羽口・開元通宝・天聖元宝・青銅製品・銅滓	13～14世紀の区画溝を伴う集落跡。区画溝に石垣を伴う。 絵図に示された堀および土塁との関係は不明。

県道財田満濃線道路拡幅事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

大堀城跡（おおぼりじょうあと）

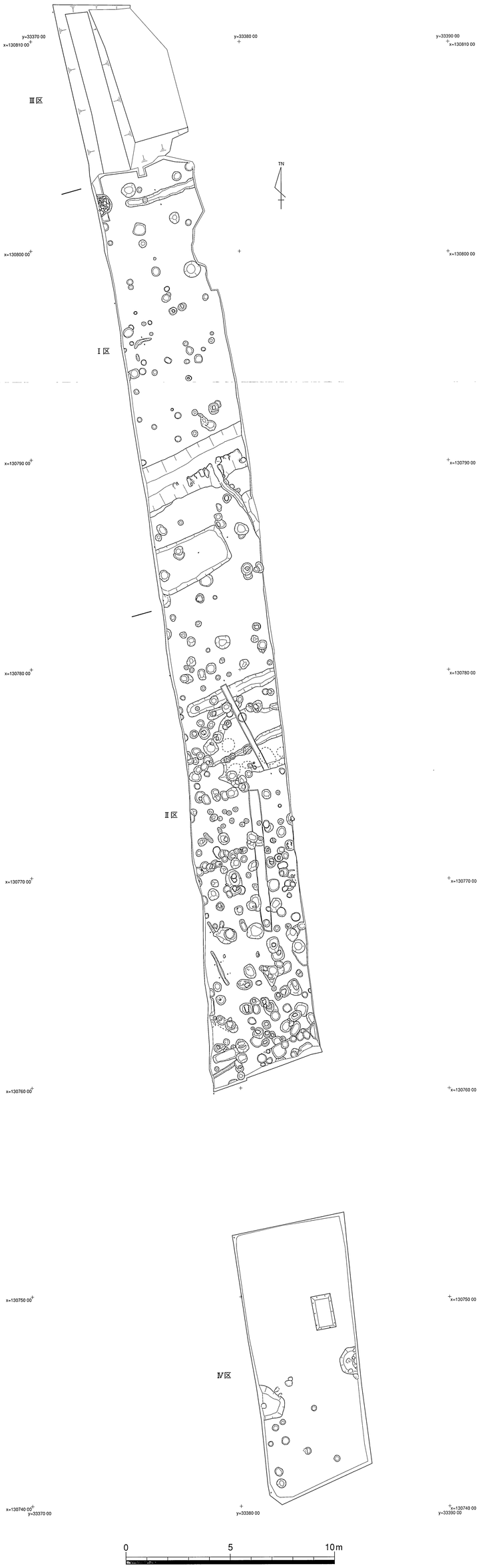
平成17年3月31日

編集　香川県埋蔵文化財センター
香川県坂出市府中町字南谷5001-4
Tel 0877-48-2191　Fax 0877-48-3249

発行　香川県教育委員会

印刷　太陽印刷株式会社

付図１　大堀城跡遺構配置図１（S＝1／100）



付図２　大堀城跡遺構配置図２（S＝1／100）